

大学院履修案内・講義要綱

平成 18 年 度
(2 0 0 6 年 度)

慶 應 義 塾 大 学 大 学 院
経 済 学 研 究 科

振 鈴 表

時 限	授業振鈴時間	定期試験振鈴時間
第 1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30	9 : 30 ~ 10 : 30
第 2 時限	10 : 45 ~ 12 : 15	10 : 45 ~ 12 : 15
第 3 時限	13 : 00 ~ 14 : 30	13 : 00 ~ 14 : 30
第 4 時限	14 : 45 ~ 16 : 15	14 : 45 ~ 16 : 15
第 5 時限	16 : 30 ~ 18 : 00	16 : 30 ~ 18 : 00
第 6 時限	18 : 10 ~ 19 : 40	18 : 15 ~ 19 : 45

(注) 国際センター・知的資産センター設置講座のみ。
 修士課程基礎科目のうち学部設置科目と併設している科目については、定期試験期間中に定期試験を行うことがあります。

緊急時における授業の取扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京－高尾間） ・京浜東北線（大宮－大船間） ・東急（電車に限る）
 のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常通り授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。
 掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられる場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

- [1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。
- [2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休業とします（3回戦以降もこれに準じます）。
 雨天等により試合が中止になるときは、神宮球場の判断によります。

神宮球場テレホンサービス……TEL 03-3236-8000

本案内は、大学院経済学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。
また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。

学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

本案内を読んでなお、疑問や不明な点があれば下記の学習指導担当より説明を受けることができます。

領域	分 野	学習指導担当
I	1：経 済 理 論 2：計 量 ・ 統 計	教 授 中 村 慎 助
II	3：学 史 ・ 思 想 史 4：経 済 史	教 授 柳 沢 遊
III	5：産 業 ・ 労 働 6：制 度 ・ 政 策	教 授 前 多 康 男
IV	7：現 代 経 済 8：国 際 経 済	教 授 櫻 川 昌 哉
V	9：環 境 関 連 10：社 会 関 連	教 授 金 子 勝

目 次

学事関連スケジュール	4
経済学研究科履修案内の配布にあたって（経済学研究科委員長）	6
学科目履修にあたって（経済学研究科学習指導）	7
一般注意事項	8
履修申告方法	17
学事 Web システム	20
履 修 要 項	27
開講科目と単位数	28
課程修了にいたるまでの要件	33
修士課程在籍者の学則移行について	34
指 導 教 授	34
学位請求論文の提出	34
休学・留学・退学	36
単位取得退学および在学期間延長	38
修士課程設置科目講義要綱	39
博士課程設置科目講義要綱	79
慶應義塾大学在外研修プログラム	107
国際センター設置講座	109
知的資産センター設置講座	150
関係規程抜粋	161

平成18（2006）年度 学事関連スケジュール

春学期授業開始	4月8日（土）
修士課程1年生 認定科目申請期限	4月11日（火）
Webによる履修申告期間（春学期）	4月14日（金）8時30分～15日（土）15時、 17日（月）8時30分～15時
履修申告用紙による履修申告日（春学期）	4月14日（金）学事センター前受付ボックス
Webによる登録科目一覧提出締切	4月18日（火）11時 学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	※4月23日（日）
在学料等納入期限（全納・春学期分納）	4月28日（金）
履修申告科目確認表送付（本人宛）	5月上旬（詳細後日掲示）
履修申告修正受付	5月8日（月）～10日（水）（詳細後日掲示）
定期健康診断	5月上・中旬
早慶野球戦【第2時限以降休講】	5月下旬
春学期休学願提出期限	5月31日（水）
修士課程1年生 指導教授登録用紙提出期限	6月8日（木）
春学期末試験時間割発表（修士課程基礎科目）	7月上旬（詳細後日掲示）
春学期補講日	7月10日（月）・11日（火）
修士課程2年生 修士論文予定題目並びに要旨提出期限	7月14日（金）〈予定〉（詳細後日掲示）
春学期授業終了	7月15日（土）
春学期末試験（修士課程基礎科目）	7月18日（火）～26日（水）
春学期末追加試験申込受付（修士課程基礎科目）	7月中（詳細後日掲示）
夏季休業	7月27日（木）～9月21日（木）
春学期末追加試験（修士課程基礎科目）	8月3日（木）～4日（金）
三田一斉休暇	※8月9日（水）～15日（火）
春学期学業成績表送付（本人宛）	9月中旬
秋学期授業開始	9月25日（月）
秋学期履修申告期間	10月上旬（詳細後日掲示）
9月学位授与式	9月29日（金）
修士課程2年生 修士論文予備審査	10月～11月
在学料等納入期限（秋学期分納）	10月31日（火）
早慶野球戦【第2時限以降休講】	10月下旬
秋学期補講日(1)	11月21日（火）午前
三田祭（準備・本祭・片付を含む）【休講】	11月21日（火）午後～11月27日（月）
秋学期休学願提出期限	11月30日（木）
修士課程2年生 修士学位申請・修士論文題目提出	12月21日（木）〈予定〉（詳細後日掲示）
冬季休業	12月23日（土）～1月5日（金）
三田一斉休暇	※12月28日（木）～1月5日（金）
授業開始	1月6日（金）
秋学期末試験時間割発表（修士課程基礎科目）	1月上旬（詳細後日掲示）

福澤先生誕生記念日【休講】	※1月10日（水）
秋学期補講日(2)	1月16日（火）、18日（木）
秋学期授業終了	1月22日（月）
修士課程2年生 修士論文および要旨提出	1月中・下旬（詳細後日掲示）
秋学期末試験（修士課程基礎科目）	1月23日（火）～2月5日（月）
秋学期末追加試験申込受付（修士課程基礎科目）	1月中（詳細後日掲示）
福澤先生命日	2月3日（土）
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験（修士課程基礎科目）	2月下旬（詳細後日掲示）
博士課程3年生 在学期間延長許可願届提出期限	2月28日（水）
博士課程3年生 単位取得退学届提出期限	2月28日（水）
博士課程3年生 学位論文題目および研究計画書提出期限	2月28日（水）
修士課程2年生 修士学位面接審査許可者発表	3月上旬 学事センター内掲示板（詳細後日掲示）
修士課程2年生 修士学位面接審査	3月上旬（詳細後日掲示）
学業成績表送付（本人宛）	3月中旬
学位授与式	3月29日（木）

（注1） ※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

（注2） 事情により、日程・教室等は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。

経済学研究科履修案内の配布にあたって

経済学研究科委員長 池 尾 和 人

慶應義塾大学経済学研究科は、経済分野の専門的研究者、あるいは経済学の専門知識を有した高度な職業人を養成することを使命としている。

こうした使命が果たされるためには、大学院生諸君自身が、強い目的意識をもって、質・量ともに濃密な研究内容をこなすことが求められる。換言すると、大学院での日常生活を学部でのその単なる延長として過ごしてはならない。常に自分の頭で考え、執拗に問題を追究し解決しようとする姿勢に徹する必要がある。それによって「問題」を発見し、それを自分で解明し得た際の醍醐味は、研究者でなければ味わえないものである。大学院で学ぶ諸君は、そうした至高の経験ができることを目指すべきである。

それと同時に、経済学を学ぶ者である以上、時間という（ある意味で）最も希少な資源をできるだけ有効に活用することを考えなければならない。いくら意欲があっても、無手勝流に勉強に取り組むだけでは、さほど効果はあがらないであろう。系統的に学習を進めることが重要である。こうした観点から、現在のカリキュラムでは、修士課程の段階においては、細分化された特定の科目を学ぶことよりも、むしろ基礎的な知識を順序立って学ぶことが求められている。基礎科目の履修が必要とされているのは、まさにこのためである。

修士課程の段階でより広く基礎的事項を学ぶことによって、自分が専攻したい研究分野への視野も広がることが期待されている。そして、研究テーマが定まり、研究の内容を深めて行くときには、指導教授とのかかわりが大切になる。

指導教授は、自分が選んだテーマの先達であり、研究を進める上での助言者である。修士課程の場合、6月に「指導教授希望届」を提出してもらうことになっている。したがって、それまでに十分熟慮し、どの教員に指導を依頼するのが最も適切かを慎重に考えておかれたい。もし指導教授の選択に関して悩みや迷いが生じた場合には、5つの領域ごとの各学習指導担当者に相談すればよい。正式に指導教授が決まるのは、6月下旬である。

後期博士課程の目標は、もちろん博士学位の取得を目指して研鑽を重ね、博士論文を仕上げることである。1999年度以降に後期博士課程に入学した学生は、入学後3年間の内に「学位論文予定題目および研究計画書」を提出しなければならないことになっている。研究計画書提出後は、指導教授と研究科委員会が選出した論文指導担当者から論文指導を受けることになる。なお、博士論文を提出するためには、その一部（ないしは全部）が査読（レフリー）制度のある専門刊行物に掲載されている（あるいは掲載予定である）ことが必要条件とされている。こうした提出要件にも十分留意されたい。

本研究科の大学院生諸君には、志を高くもって、学問的精進を遂げることを期待する。

学 科 目 履 修 に あ た っ て

経済学研究科は、幅広い視野に支えられた高度な専門知識と研究能力の育成を目指している。これは、言うに易くして行うに難い課題である。「幅広い視野」ということは、往々にして「浅薄な雑学」になりやすく、また「高度な専門知識と研究能力」は、「専門馬鹿」のしるしと見られがちである。しかし、経済学は社会科学の一分野であり、意味のある社会科学は、この両者の幸せな結合なくしては成り立たない。

この点、現在の経済学は、それ自体が、数学的なものから歴史的なものまで大変に広い守備範囲を備えている。このような経済学の特徴を生かし、本研究科で学ぶ諸君は、自分の専門分野を深く追求すると同時に、他の経済学の諸分野に対する十分な知識を備えてもらいたい。少なくとも、経済学内部で、異分野間の専攻者が意味のあるアカデミックな会話を交わせるようになることが、われわれの学問の土壌として望ましいのである。本研究科では、とりわけ修士課程においては、複数分野に亘る履修を求めているが、これは、このような必要性を考えての要求である。履修に当たっては、この点を考え、設置科目を利用して自らの能力を十分に拡大してもらいたい。

とはいうものの、大学院の最終目標が「高度な専門知識と研究能力の育成」にあることは言うまでもない。そして、その各段階での到達目標が修士論文、博士論文の作成である。このためには、学部段階とは異なった各人の積極的な研究姿勢が重要である。もちろん、本研究科の指導体制は、この論文作成に導くように組まれてはいるが、それのみでは不十分であり、教室を離れた場で個々人が最大限の努力を自らの研究に傾注することが求められている。

しかし、個々の専門的研究は、始めてみると、行き詰まりや自信喪失の連続である。そのような時に、自分の殻の中で萎縮してはならない。まず、第一に必要なことは、行き詰まりの前に立つ壁を越える道を捜して、休まずに試行錯誤を続けることである。第二には、指導教授や学習指導をはじめとする教授陣と、自発的に、緊密かつ率直に研究上の相談や議論をする必要がある。修士課程では一年次六月に「指導教授登録用紙」を提出することになっているが、それは、それまでに指導を希望する教授等に会い、自分の研究について自発的に相談していることを当然の前提としている。大学院では、それだけの積極性が求められているのである。第三には、同じ研究科の学生同士で、読書会など様々な機会を作り、相互に刺激しあうことも有効な手段であることを忘れてはいけない。つまり、大学院においては、自分の殻に閉じこもらずに教授陣や友人達との間の「多事争論」を自ら作り出して行く積極性も必要なのである。

最後に、円滑な大学院生活を送るためには、事務的な諸手続きにかんしてつねに責任ある対応を望みたい。大学院も社会の一制度であり、その制度を活用してゆくためには、甘えることなく、求められる諸手続を期限を守り適切に行ってゆかなければならない。言わずもがなのことだが、念のために付言しておく。

大学院経済学研究科学習指導

一 般 注 意 事 項

I 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4 cm 横3 cm，カラー光沢仕上げ，最近3ヶ月以内に撮影したもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則，当日発行いたします。ただし，機械のメンテナンス，故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失，裏面シールの紛失については，手数料として2,000円が必要です。
4. 返却
再交付を受けた後，前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は，すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに，掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために，諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお，他研究科・学部設置科目を履修した場合は，その科目を設置している研究科・学部の掲示板を見てください。諸研究所，各センター設置科目・講座等については共通掲示板に注意してください。
2. 主な掲示事項は，授業の休講・補講・時間割の変更，教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達，各試験の実施要領，学事日程，呼出し等です。休講・補講，呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）においても確認できます。
また，試験の実施要領，各種発表・通達の一部については塾生ページ（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）において確認できます。

Ⅲ 試験・レポート・成績

1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

なお、学部と併設する修士課程基礎科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。

定期試験に関する注意事項

- ① 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ② 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ③ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ④ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑤ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑥ 仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- ⑦ 答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑧ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。
- ⑨ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要な事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口および西校舎1階学部掲示板前に備えてあります。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

3. 成績通知

学業成績表は9月上旬および3月中旬に本人宛に発送します。（ただし、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは翌年度の4月以降となります。）

IV 諸届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届・国外留学申請

履修要項36ページ参照。

2. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターに届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

- ・住所変更届：在学カード
- ・保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票
- ・改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。

在学料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。定期健康診断未受診の場合、学割証が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証 明 書	発行開始日	発行手数料 (1通あたり)
在学証明書	4月3日 12時30分～	200円
成績証明書	4月3日 12時30分～	200円
修了見込証明書	5月8日～	200円
修了見込付成績証明書	5月8日～	400円
履修科目証明書	6月1日～	200円
学割証	4月3日 12時30分～	無 料
健康診断証明書	6月中旬～(年度末まで)	200円

※料金は改定されることがあります。

(1) 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時〔休日、大学休業日および授業期間外の土曜日は除く〕
メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

- (2) 学割証（JR 各社共通・学校学生生徒旅客運賃割引証：片道 101 km 以上の区間を乗車または

乗船する場合）は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証の発行はできません。

- (3) 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、所属地区の学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）
- (4) 成績証明書には、本年度取得の成績は春学期取得分も含め次年度4月以降反映されます。
- (5) 健康診断証明書は、6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証 明 書	発行開始日	発行手数料 (1通あたり)
英文在学証明書	4月3日 12時30分～	200円
英文成績証明書	4月3日 12時30分～	200円
英文修了見込証明書	5月8日～	200円

※料金は改定されることがあります。

※2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、日数を要する場合がありますので余裕をもって学事センターで相談のうえ申請してください。

VI 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み（一部の修士課程基礎科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行

- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行
- (11) 修士課程修了後および博士課程単位取得退学後の各種証明書の発行
落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

VII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当（三田）専任教員（教授・助教授・専任講師）……研究室（三田研究室棟または南館）
- 他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……………教員室（南校舎 2 階）

VIII 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

学生生活支援窓口

- 学生談話室 A・B の使用申込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

- 山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

- 学外行事届の受付

公認学生団体・研究会等で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

- 学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口届け出で、場所等の指示を受けることが必要です。

- 備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8時45分～21時です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

○奨 学 金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

・慶應義塾大学大学院奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給費・貸費〕

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・指定寄付奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度〔奨学金付き学費ローン〕

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG 情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職担当、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、1年生を対象に10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OG や内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日…… 8時45分～16時45分 ※都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

—学生相談室—

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土曜日……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など、教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍に在る間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用を円滑に行うため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶

應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株) 慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1 提出学年

全学年

2 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に提出してください）。

IX 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書の発行は出来ません。また、学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行もできません。

履 修 申 告 方 法

具体的な履修については、本書熟読のうえ、各自の指導教授又は、各領域の学習指導担当と必ず相談して決定してください。なお、それでも不明な点がある場合は、各領域の学習指導担当者または学事センター経済学研究科係に問い合わせてください。また、履修申告用紙もしくは Web 登録科目一覧は、指導教授の認印を受けたうえで期日までに提出してください。

科目履修を望まない場合は、博士課程の在学期間延長者に限り認められます。履修申告用紙の学籍欄を記入し、指導教授の認印を受けたうえで期日までに提出してください。それ以外の者は、修了に必要な単位を取得していても、修学の意志を示すため必ず 1 科目以上は申告してください。

期日までに申告せず、休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時は、退学処分となります。(学則第 161 条)

1 履修申告について

(1) 履修申告方法について

学事 Web システムにより申告を行ってください。学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。(科目を選択せずに登録を行うと、前年度までの取得状況による判定が行われ、修了単位に不足している科目が分かります。)ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

(やむをえず履修申告用紙により申告を行う場合は別途学事 Web システムによる申告を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。)

(2) 指導教授の認印について

指導教授印欄に指導教授の認印が必要です。(指導教授印のない申請は無効となります)学事 Web システムにより申告を行った場合は、登録科目一覧画面を印刷し、その用紙の所定欄に認印を受け、期日までに提出してください。

なお、修士課程 1 年生の春学期申告時には、学習指導担当より認印を受けてください。

(3) 履修申告日時について

履修申告は、必ず指定された期日に行ってください。

◇春学期

Web 履修申告システムを利用する場合

申告期間 4月14日(金) 8:30～15日(土) 15:00、17日(月) 8:30～15:00

Web による登録科目一覧提出

締切日時：画面を印刷し指導教授の承認印を得たうえで、4月18日(火) 11:00

場 所：学事センター前受付ボックス

やむをえず履修申告用紙を利用する場合

履修申告提出

締切日時：指導教授の承認印を得たうえで、4月14日（金）

場 所：学事センター前受付ボックス

◇秋学期（詳細後日掲示）

Web 履修申告システムを利用する場合・やむをえず履修申告用紙を利用する場合

申告期間

10月上旬（予定）

- (4) 経済学研究科設置の科目については、春学期の履修申告では春学期の科目を申告し、秋学期の履修申告では秋学期の科目を申告してください。

ただし、他研究科および学部設置の通年・秋学期開講科目についてはすべて春学期に申告してください。通年開講の科目を申告した場合、秋学期の申告では時間等の重複がないように注意してください。通年科目と秋学期開講科目が同一の曜日時限で申告された場合は、履修中の通年科目を優先し、秋学期科目の申告を無効とします。

- (5) 原則として、申告後は、履修科目の変更・追加・取消しを認めません。また、**閲覧・照会**にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。

期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にすることとなります（学則第 161 条）。

- (6) 履修申告科目確認表は春学期は5月上旬、秋学期は10月中旬に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（誤登録による申告漏れ等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約1週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。

- (7) 時間割は変更することがありますので、掲示を確認のうえ申告してください。なお、履修申告の時点で時間割の定まっていない科目については申告できません。

- (8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

- (9) 学則 124 条による留学が認められた者および予定の者の履修申告については、学事センター経済学研究科係まで問い合わせてください。（履修要項37ページ参照）

2 登録番号および分野について

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。

- (2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号をマークすることで全ての時限について登録されます。

- (3) 「分野」とは授業科目の種類を番号で表記したものです。履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（履修申告用紙では「A欄」と、各自分野を選択しなければならない場合（履修申告用紙では「B欄」）があります。各自分野を選択して申告する際には、履修申告

用の 2 桁の B 欄分野を登録します。履修要項を確認してください。

〈登録番号のみ申告する科目（履修申告用紙では「A 欄」）〉

- ・ 1997年度以降入学の修士課程在籍者は経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目
- ・ 博士課程在籍者は経済学研究科博士課程の時間割に記載されている科目

〈B 欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B 欄」）〉

- ・ 1996年度以前入学の修士課程在籍者は経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目
- ・ 他研究科、学部および研究所等設置科目
- ・ 博士課程在籍者は経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目

3 履修申告について

詳細は次項「学事 Web システム」を参照してください。

※やむをえず履修申告用紙（マークシート）により履修申告を行う場合

(1) 履修申告は原則として、学事 Web システムを使用して行ってください。やむをえない場合のみ履修申告用紙（マークシート）による申告も受けつけます。この場合学事 Web システムを使用できない理由を問う場合があります。

(2) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記・記入漏れがないように、丁寧に記入してください。特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

(3) 学籍等の記入方法

修士・博士の欄はどちらかに○印をつけ、研究科・学年・氏名・学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。なお専攻欄の記入は不要です。

(4) A 欄記入上の注意事項

- ① 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
- ② 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- ③ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号（5 桁）を記入し、マークします。

(5) B 欄記入上の注意事項

- ① 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
- ② 科目名・教員名を記入します。
- ③ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号（5 桁）を記入し、マークします。
- ④ 分野欄：履修要項記載の B 欄分野（2 桁）を記入し、マークします。

(6) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると、その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。

(7) 履修申告用紙の再交付について

- ① 無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録しても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
- ② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

学事 Web システム

1. 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などができます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、離籍するまでの間使用することになります。すべて個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- ① 履修申告
- ② 登録済科目確認
- ③ 休講・補講情報
- ④ パスワード変更
- ⑤ 受付確認メールの送付先アドレス変更
- ⑥ 学生呼出情報

また、携帯電話では、休講・補講情報の確認、パスワード変更、学生呼出情報の確認が可能です。

…注 意…

学事 Web システムでは、4 月 3 日 (月) から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日 (金) までにログインできることを確認してください。

もし 学事 Web システムのパスワード を忘れてしまった場合には、4 月 7 日 (金) までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2005 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2006 年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワード を忘れてしまった場合は、三田インフォメーションテクノロジーセンター (ITC : 大学院校舎地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名 : 学籍番号

Windows アカウントのユーザー名 : m * (修士) または d * (博士)

2. 学事 Web システム操作上の注意

- ・複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- ・学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- ・学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ・ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- ・氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- ・学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。
- ・各種設定方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3. 学事 Web システムの操作説明

(1) 履修申告

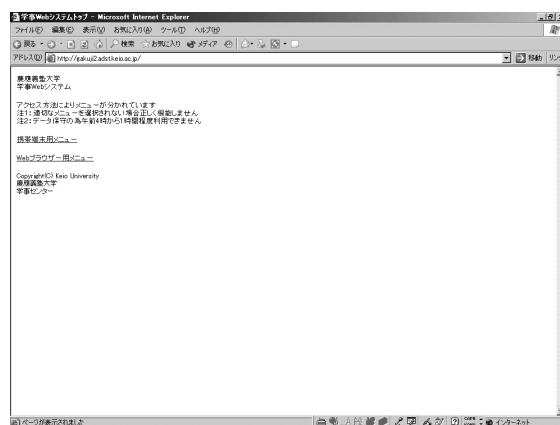
学事 Web システムを利用する際の2006年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

〔春学期履修申告期間〕 4月14日（金）8：30～15日（土）15：00、17日（月）8：30～15：00
（毎日4：00～5：00はメンテナンスのため稼働を停止します）
〔秋学期履修申告期間〕 10月上旬（予定）
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

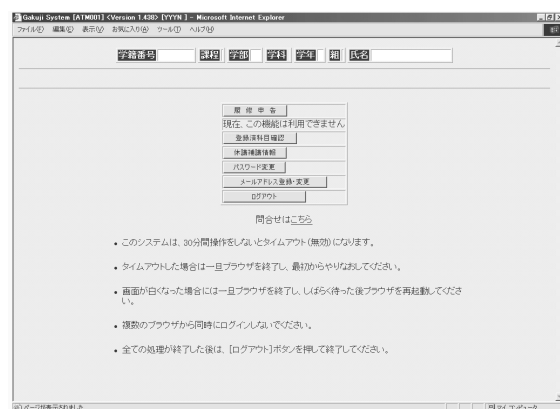
① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし「ブラウザ用」をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」などの標準ブラウザを使用してください。



② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの説明）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



③ ログイン

「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述 ② の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。



④ トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に自動送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録] ボタンをクリックしてください。

【注意】

メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス（*****@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は、転送設定を利用してください。

※メールアドレスのユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** 部分）は変更できません。また、ユーザー名のみ登録しても届きません。



⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。



⑥ 科目の選択

(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択するとき

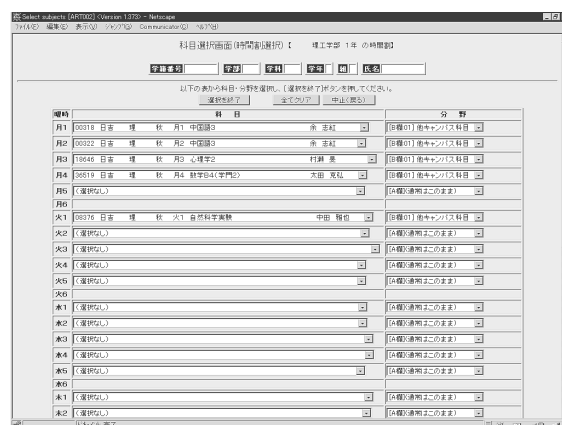
履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください（初期設定では、所属する研究科および学年が自動的に指定されています）。

科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。

他学部の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告方法」の「2. 登録番号および分野について」（18ページ）をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。

(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、[科目情報] 欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押してください。



他学部 の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告方法」の「2. 登録番号および分野について」(18ページ)をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。

※(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

※同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥ で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。(〈状態〉欄に「未登録」と表示されています。)

⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦ の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

※⑥ (選択) および ⑧ (取消) で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、⑥ の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の右側にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。)

次に右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認して登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。

この画面をプリントアウトし、指導教授の承認印を得たうえで、期日までに提出してください。

Web による登録科目一覧提出

締切日時：4月18日(火) 11:00

場 所：学事センター前受付ボックス

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥ からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)

⑪ 受付確認メール

「登録」ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④ で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

④ でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し[指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

なお、Web メール等を使用した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、大学配付のメールアドレスを指定してください。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合がありますので使用を避けてください。

今回のみの一時的な指定を行わず、④ で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。

⑫ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は、4月20日(木)9:00(予定)より、学事 Web システムを利用して再度確認することができます。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(1)の④(トップメニュー画面)までは、同様の操作です。画面上の[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(3) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置学部・研究科のキャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)および各キャンパスの掲示板で確認してください。

[ブラウザー編]

① (1)の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

② (1)の④の画面(トップメニュー画面)から[休講補講情報] ボタンをクリックしてください。



- ③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。
また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。
- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力し、(1) の ① の画面上で[携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとう便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください。）[i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください。
 - ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
 - ③ 「学籍番号」と(1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
 - ④ この画面から[休講情報][補講情報] ボタンを押してください。
 - ⑤ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。
- (4) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。
以下の操作で行ってください。

- ① 前述(1)の④の画面（トップメニュー画面）から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字／小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

履 修 要 項

(修士課程・博士課程)

授業構成，諸手続き（休学・留学等），修士・博士学位の申請方法等は，必ず本書で確認の上，不明な点は，学習指導担当または学事センターで確認してください。また，本書で未掲載の部分については掲示で連絡しますので，注意してください。

第1 開講科目と単位数

2006年度（平成18年度）経済学研究科に開講される科目と単位数および分野は次のとおりです。（修士課程については1997年度以降入学者を対象としたものです。1996年度以前入学者は学事センターまで問い合わせてください。）

講義は週1回の半期（春学期または秋学期）科目を原則とします。なお、科目により秋学期の履修は春学期の履修を前提にする科目もあります。講義要綱を参照してください。

修士課程在籍者が博士課程設置科目を履修することはできません。

1. 修士課程設置の科目

(1) 基礎科目

科 目 名	単 位	科目種類 分 野	備 考
ミ ク ロ 経 済 学	2	01-01-01	ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ
マ ク ロ 経 済 学	2	01-01-02	マクロ経済学Ⅰ
計 量 経 済 学 中 級	2	01-01-03	計量経済学Ⅱ
数 理 統 計 学	2	01-01-04	確率・統計 ⁽¹⁾
欧米経済史・日本経済史	2	01-01-05	欧米経済史，日本経済史
経済学説・経済思想	2	01-01-06	

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は，今年度併設されている経済学部設置科目です。

⁽¹⁾ 新井益洋君のみ経済学部設置科目と併設。

(2) 専攻科目

専攻 分野	科 目 名	単 位	科目種類 分 野	備 考
1	ミ ク ロ 経 済 学 上 級	2	01-02-01	
	マ ク ロ 経 済 学 上 級	2		
	数 理 経 済 学	2		数理経済学Ⅱ
	経 済 数 学	2		解析学Ⅰ，解析学Ⅱ，代数学 数理経済学特論Ⅰ〔微分方程式論〕 数理経済学特論Ⅱ〔確率論〕
	ゲ ー ム の 理 論 上 級	2		
2	計 量 経 済 学 上 級	2	01-02-02	
	応 用 計 量 経 済 学	2		
3	経 済 学 史	2	01-02-03	本年度休講
	社 会 思 想	2		
	経 済 思 想	2		
4	欧 米 経 済 史	2	01-02-04	
	日 本 経 済 史	2		
	ア ジ ア 経 済 史	2		

5	産 業 組 織 論	2	01-02-05	
	労 働 経 済 論	2		
	社 会 政 策 論	2		
	工 業 経 済 論	2		
	農 業 経 済 論	2		
6	経 済 政 策 論	2	01-02-06	
	金 融 論	2		
	財 政 論	2		
	公 共 経 済 学	2		
7	現 代 日 本 経 済 論	2	01-02-07	
	現 代 資 本 主 義 論	2		
8	世 界 経 済 論	2	01-02-08	
	国 際 貿 易 論	2		
	開 発 経 済 論	2		本年度休講
	国 際 金 融 論	2		
	OPEN ECONOMY MACROECONOMICS	2		
9	経 済 地 理 学	2	01-02-09	
	都 市 経 済 論	2		
10	環 境 経 済 論	2	01-02-10	
	社 会 史	2		

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

●第Ⅰ領域コアコースについて

第Ⅰ領域に属する教員*を指導教授として希望する学生には下記コアコースの履修を強く推奨します。詳細はガイダンス実施時に第Ⅰ領域学習指導担当（中村）まで確認してください。

※第Ⅰ領域所属教員(50音順)：尾崎裕之・長名寛明・グレーヴァ香子・塩澤修平・清水雅彦・須田伸一・瀬古美喜・辻村和佑・中村慎助・中山幹夫・細田衛士・前多康男・マッケンジーコリン・丸山 徹・矢野 誠・吉野直行

第Ⅰ領域必修コアコース

ミクロ経済学上級	(春)	金 3	中村／須田
ミクロ経済学上級	(秋)	金 3	玉田／塩澤
マクロ経済学上級	(春)	火 3	矢野誠
マクロ経済学上級	(秋)	火 3	前多／白井
数理統計学	(春・秋)	月 2	中妻

第Ⅰ領域選択必修コアコース

計量経済学中級 (学部併設)	(春)	金 2	河井
計量経済学中級 (学部併設)	(秋)	金 2	宮内
ゲームの理論上級	(秋)	水 2	中山／グレーヴァ
数理統計学 (学部併設)	(春・秋)	火 3	新井
計量経済学上級	(春・秋)	水 1	マッケンジー
応用計量経済学	(春・秋)	木 2	清水雅／宮内／河井

(3) 演習科目

科 目 名	単 位	科目種類 分 野	備 考
ミ ク ロ 経 済 学 演 習	2	01-03-01	
マ ク ロ 経 済 学 演 習	2		
数 理 経 済 学 演 習	2		
経 済 数 学 演 習	2		
計 量 経 済 学 演 習	2		
経 済 学 史 演 習	2		
社 会 思 想 演 習	2		
経 済 思 想 演 習	2		
経 済 史 演 習	2		
古 文 書 演 習	2		
産 業 論 演 習	2		
産 業 組 織 論 演 習	2		
労 働 経 済 論 演 習	2		
社 会 政 策 論 演 習	2		
経 済 政 策 論 演 習	2		
金 融 論 演 習	2		
財 政 論 演 習	2		
公 共 経 済 学 演 習	2		
日 本 経 済 論 演 習	2		
国 際 経 済 論 演 習	2		
都 市 経 済 論 演 習	2		
環 境 経 済 論 演 習	2		
社 会 史 演 習	2		
人 口 論 演 習	2		
社 会 科 学 分 析 演 習	2		
産 業 社 会 論 演 習	2		

(4) プロジェクト科目

科 目 名	単 位	科目種類 分 野	備 考
プ ロ ジ ェ ク ト	2	01-04-01	

成績評語は「P」（合）または「D」（否）の2種類です。

2. 博士課程設置の科目

(1) 特論科目

科 目 名	単 位	科目種類 分野	備 考
ミ ク ロ 経 済 学 特 論	2	01-01-01	
マ ク ロ 経 済 学 特 論	2		
数 理 経 済 学 特 論	2		
計 量 経 済 学 特 論	2		
経 済 学 史 ・ 思 想 史 特 論	2		
経 済 史 特 論	2		
制 度 ・ 政 策 論 特 論	2		
国 際 経 済 論 特 論	2		
社 会 ・ 環 境 論 特 論	2		

(2) 演習科目

科 目 名	単 位	科目種類 分野	備 考
ミ ク ロ 経 済 学 演 習	2	01-02-01	
マ ク ロ 経 済 学 演 習	2		
数 理 経 済 学 演 習	2		
経 済 数 学 演 習	2		
計 量 経 済 学 演 習	2		
経 済 学 史 ・ 思 想 史 演 習	2		
経 済 史 演 習	2		
制 度 ・ 政 策 論 演 習	2		
国 際 経 済 論 演 習	2		
社 会 ・ 環 境 論 演 習	2		

(3) プロジェクト科目

科 目 名	単 位	科目種類 分野	備 考
プ ロ ジ ェ ク ト	2	01-03-01	

成績評語は「P」（合）または「D」（否）の2種類です。

3. 関連科目（修士課程在籍者のみ。分野は「01-05-01」申告用 B 欄分野は「51」）

他研究科設置科目で、指導教授が履修を必要と認める科目については関連科目として履修することができます。関連科目は4単位まで修了の単位に含まれます。

4. 認定科目（修士課程1年生のみ）

修士課程基礎科目は、年度により経済学部設置の基本科目と併設されている場合があります。併設されていた年度に、学部設置科目（基本科目）としてすでに履修し成績が「A」の場合にのみ、基礎科目として認定されます。この場合の修士課程における成績評語は「P」、単位は2単位となります。

ただし、基礎科目として修了に必要な8単位（新学則）／10単位（旧学則）（1科目4単位を限度）には含まれますが、必要最低総単位数30単位には含まれません。（認定科目2単位と同一名称の科目を4単位取得すると合計6単位となりますが、基礎科目として修了に必要な8単位（新学則）／10単位（旧学則）は1科目4単位を限度としますので、超過分の2単位は基礎科目として修了に必要な8単位（新学則）／10単位（旧学則）に含まれません。）

認定科目を申請する場合は、4月11日（火）までに「大学院認定科目申請用紙」（学事センターにて交付）に記入のうえ、成績表のコピーを持参して学習指導担当と面接し認定を受けた場合は、申請用紙および成績証明書を学事センターに提出してください。なお、認定された科目については履修申告の必要はありません。

認 定 科 目	認定 単位	科目種類 分 野	学部の基本科目	併 設 年 度
ミ ク ロ 経 済 学	2	01-01-51	ミ ク ロ 経 済 学 I	2001・2002（須田伸一君のみ）・2003・2004・2005
	2		ミ ク ロ 経 済 学 II	2001～2005
マ ク ロ 経 済 学	2	01-01-52	マ ク ロ 経 済 学 I	2001～2005
	2		マ ク ロ 経 済 学 II	2002（前多康男君のみ）
計 量 経 済 学 中 級	2	01-01-53	計 量 経 済 学 II	2001～2005
数 理 統 計 学	2	01-01-54	確 率 ・ 統 計	2001～2005
欧米経済史・日本経済史	2	01-01-55	欧 米 経 済 史	2001～2005
	2		日 本 経 済 史	2001～2005
経済学説・経済思想	2	01-01-56	社 会 思 想 史	2003

5. 自由科目（分野は「09-01-01」申告用 B 欄分野は「91」）

上記以外の科目は自由科目としての履修が認められ、学業成績表にも記載されますが、課程修了に必要な単位には含まれません。

第2 課程修了にいたるまでの要件

1-1. 修士課程（2006年度以降入学者）

2年間以上経済学研究科修士課程に在籍し、経済学研究科が指定する下記①～③を充足したうえで、合計30単位以上を履修・合格すること。

修了に必要な科目

- ① 基礎科目 8単位以上（同一科目4単位を限度）
- ② 専攻科目 10単位以上
- ③ 演習科目 8単位以上

注（1）「関連科目」は合計4単位まで必要最低総単位数（30単位）に含まれます。

（2）「プロジェクト科目」「自由科目」「認定科目」は必要最低総単位数（30単位）に含まれません。

「認定科目」の単位は、基礎科目8単位に含めることができますが、上記のように修士課程修了の必要最低総単位数（30単位）に算入することはできません。したがって、基礎科目単位に充当した「認定科目」の単位数は、その他の基礎科目、専攻科目、演習科目、または関連科目の単位で充足しなければなりません。

学位論文（修士論文）の審査及び最終試験に合格すること。

1-2. 修士課程（1997年度以降2005年度以前入学者）

2年間以上経済学研究科修士課程に在籍し、経済学研究科が指定する下記①～③を充足したうえで、合計30単位以上を履修・合格すること。

修了に必要な科目

- ① 基礎科目 10単位以上（同一科目4単位を限度）
- ② 専攻科目 3分野以上にまたがり10単位以上
- ③ 演習科目 6単位以上

注（1）「関連科目」は合計4単位まで必要最低総単位数（30単位）に含まれます。

（2）「プロジェクト科目」「自由科目」「認定科目」は必要最低総単位数（30単位）に含まれません。

「認定科目」の単位は、基礎科目10単位に含めることができますが、上記のように修士課程修了の必要最低総単位数（30単位）に算入することはできません。したがって、基礎科目単位に充当した「認定科目」の単位数は、その他の基礎科目、専攻科目、演習科目、または関連科目の単位で充足しなければなりません。

学位論文（修士論文）の審査及び最終試験に合格すること。

1-3. 修士課程（1996年度以前入学者）

学事センターへ問い合わせてください。

2. 博士課程（大学院学則第35, 36, 37, 109条参照）

3年間以上経済学研究科後期博士課程に在籍し、合計12単位以上（自由科目除く）を履修・合格すること。

学位論文（博士論文）の審査及び最終試験に合格すること。

注 上記要件のうち、学位論文の審査および最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。（第7：単位取得退学および在学期間延長（38ページ））

第3 修士課程在籍者の学則移行について

2005年度以前入学者（97 学則ならびに 88 学則適用者）の適用学則は、2006年度末において第1・2 学年にとどまった場合には、2007年3月末日をもって2006年度以降入学者適用学則（06 学則）に移行します。

第4 指導教授

- (1) 経済学研究科では、学生は特定の指導教授の指導を受けることを基本とし、その指導教授の指示により、複数の教員の指導を受けられるように指導します。
- (2) 修士課程1年生の指導教授は春学期の間、学習指導担当が担当します。なお、6月8日（木）までに「指導教授登録用紙」を提出してください。これにもとづき春学期末に指導教授を決定します。詳細は掲示します。

第5 学位請求論文の提出

1. 修士学位申請と修士論文の提出

〈学位規程〉

修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。（第3条）

第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（第7条①）

修士学位申請および修士論文提出に関しての手順は次のとおりです。

(1) 「修士論文予定題目並びに要旨」の提出（7月14日（金）締切予定）

修士論文を提出しようとする者は、提出予定年度の所定の期日までに提出してください。所定用紙は学事センターにて交付します。詳細は掲示します。なお、この届を提出した後に申請を取り下げる場合は、必ず研究科委員長宛文書をもって学事センターに申し出てください。

(2) 修士論文予備審査（論文報告会）（10～11月）

予備審査実施方法は掲示しますが、詳細は指導教授の指示にしたがってください。

なお、予備審査に合格した者は、経済学研究科博士課程入学試験出願資格が与えられます。

(3) 「修士学位申請書」および「論文題目届」の提出（12月21日（木）締切予定）

所定用紙は学事センターにて交付します。所定の期日までに提出してください。

詳細は掲示します。なお、論文題目届を提出した後は、題目（副題も含む）は一切変更できません。

(4) 修士論文および要旨の提出（1月中・下旬予定）

修士論文（3部）および要旨（5部）を所定の期日までに提出してください。詳細は掲示します。

博士課程に進学を希望する者は、あわせて出願手続が必要です。出願手続については2007年度経済学研究科入学試験要項（6月販売開始予定）を参照してください。

(5) **修士学位審査**（3月上旬）

論文審査および面接審査が行われます。論文審査により面接許可者が決定します。面接許可者および修士学位審査合格者はそれぞれ学事センター内の掲示にて発表します。日程等詳細は掲示します。

(6) **修士論文複写許諾**（三田メディアセンターからの協力依頼）

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

「修士学位申請書」および「論文題目届」を学事センターに提出した際に、「修士論文複写に関するお願い」をお渡しします。趣旨に賛同いただける方は「修士論文複写許可回答」に必要事項を記入のうえ、修士論文とともに学事センターに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

2. 博士学位の申請

博士論文を提出する場合は、学事センターで提出書類、手続方法について確認してください。

(1) **課程による博士学位（「課程博士」）**

〈学位規程〉

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。（第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（第7条②）

課程による博士学位申請および博士論文提出についての条件は以下のとおりです。

- ① 課程博士（甲号）の学位を取得しうるのは、入学後6年以内に学位請求論文を提出したものとし、ただし、留学期間については、留学期間の2分の1（最大2年間）を猶予期間として認めます。
- ② 後期博士課程正規の在籍期間（入学後3年目の2月28日まで）に「**学位論文予定題目および研究計画書**」を提出しなければなりません。（提出の際に論文指導担当者2名が決定します。）
- ③ 学位論文提出の条件
 1. 後期博士課程所定の単位を取得済みであること。（大学院学則第35条）
 2. 論文提出までに、査読制度のある刊行物に1点以上の既刊あるいは審査を通過した刊行予定の論文があること。あるいは、それに相当する研究成果発表の機会をもったものであること。
 3. 以上を勘案し、論文指導担当者2名が提出を許可したものであること。（論文提出時に、「**提出許可書**」を添付すること。）

(2) **論文による博士学位（「論文博士」）**

〈学位規程〉

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院

博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。（第8条）

論文による博士学位申請および博士論文提出についての条件は以下のとおりとします。

- ① 審査は、論文審査ならびに面接審査によって行われます。
- ② 経済学研究科の後期博士課程を単位取得退学したもので、博士課程入学後6年以上を経過したものについても、上記と同様の扱いとします。
- ③ 論文の提出については、経済学研究科委員の「推薦理由書」を必要とします。

論文博士を申請する場合の審査料については、学位規程第9条を参照してください。

3. 学位請求論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）および国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、下記の体裁に整えてください。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

製本について

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則としてA4判縦で製本してください。（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとします。）
- ② 製本の表紙の表示は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。
- ③ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとします。
- ④ 製本時のレイアウト、表示内容は、裏面の見本を参照してください。
- ⑤ 製本はハードカバーの黒表紙で、白文字、金文字、または銀文字とします。
- ⑥ 製本する業者の指定はありません。

第6 休学・留学・退学

1. 休学（学則第125条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。

本年度休学希望者は、指導教授と相談のうえ、「休学願」に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は、春学期は**5月31日**、秋学期は**11月30日**です。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

休学は学期（春学期は4月1日から9月21日、秋学期は9月22日から3月31日）を単位として許可し、休学期間は修了に必要な在学年数に算入しません。

休学が次の学期におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。

休学期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

なお、学費については休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合は減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口に相談してください。

2. 留 学（学則第 124 条）

研究科委員会が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

留学希望者は、指導教授と相談のうえ、あらかじめ学事センターで相談・確認し、遅くとも出発の1ヶ月前には「国外留学申請書」を提出してください。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

留学は1回の申請につき1年を限度とし、延長する場合は全留学期間3年まで許可されます。また、留学期間が3年を超えて更に継続する場合は休学とします。この場合は、許可された留学期間の残りの期間について休学願を提出しなければなりません。その際も早目に学事センターで手続き等の詳細を確認してください。

留学した期間は、1年を限度として修了に必要な在学年数に算入することができますので、希望する場合は学事センターに申し出てください。なお、申し出がない場合は在学年数に算入しません。

留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

なお、学費については留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、学費が減免されることがあります。

3. 退 学（学則第 126 条）

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授と相談のうえ、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

4. 退学処分（学則第 128 条・第 161 条）

(1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

5. 注意事項

経済学研究科では、学年毎の進級条件を設けていませんので、休学または留学していても学年は年度毎に最高学年（修士2年、博士3年）まで加算されます。

第7 単位取得退学および在学期間延長（博士課程在籍者）

以下の取扱いについては巻末諸規程抜粋を合わせて参照してください。

1. 単位取得退学

博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の教育課程期間（3年）を満たした場合、単位取得退学者として扱われます。2月28日までに「単位取得退学届」を学事センターに提出してください。詳細は掲示します。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は「退学届」を提出し、その旨申し出てください。

課程博士（第4の2参照）は原則として博士課程在学中に論文を提出し合格した場合ですが、入学後6年以内に提出された博士学位請求論文についてのみ、課程博士（甲）としての申請を認めます。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1（最大2年間）を猶予期間として認めます。なお、課程博士として学位申請するためには、博士課程の正規の在籍期間に「学位論文予定題目および研究計画書」を学事センターに提出してください。ただし、提出締切は入学後3年目の2月28日までとします。

2. 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限を超えない範囲（3回限度）で在学を許可することがあります。2月28日までに指導教授の承認を得たうえで「在学期間延長許可願」を学事センターに提出しなければなりません。詳細は掲示します。

関連規程	1－1	学位規程
	1－2	学位の授与に関する内規
	4－2	大学院在学期間延長者取扱い内規
	4－3	大学院在学期間延長者の学費に関する取扱い内規

3. 単位取得退学後のメディアセンターの利用

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は三田メディアセンター1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

修士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

学則に示される科目名（具体的な科目名）＊１	担当者名
1. 授業形態＊２ 2. 当科目の目標・意義・方法 3. 授業内容 4. テキスト 5. リーディング・リスト	} ＊１

＊１：（ ）内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

＊２：本書作成後に変更される場合もありますので、時間割及び掲示を参照してください。

注：同一名称の科目については、担当者名五十音順で並べられています。

基 礎 科 目

ミクロ経済学

教 授 長 名 寛 明

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学Ⅱ」の前半部分（春学期）に対応する。

授業内容：

1. 競争市場の効率性
 2. 市場の欠陥
- 成績評価はレポートに基づく。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

講義概要を配布し、その中で参考文献を指示する。

ミクロ経済学

教 授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学Ⅱ」の後半部分（秋学期）に対応する。

授業内容：

3. 厚生基準と社会的厚生関数
 4. 経済活動の誘因
 5. 資源配分機構の情報の効率性
- 成績評価はレポートに基づく。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

講義概要を配布し、その中で参考文献を指示する。

ミクロ経済学

教 授 須 田 伸 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析する学問である。これは価格機構の役割について分析することに他ならない。この科目では、学部で 1 年間ミクロ経済学を学んだ学生を想定して講義を進める。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985 年，1988 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990 年

ミクロ経済学

教 授 須 田 伸 一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析する学問である。これは価格機構の役割について分析することに他ならない。この科目では、学部で 1 年間ミクロ経済学を学んだ学生を想定して講義を進める。なお、この科目は春学期に開講される「ミクロ経済学」の内容を前提としている。

授業内容：

1. 完全競争市場
2. 厚生経済学の基本定理
3. 通時的経済モデル

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985 年，1988 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990 年

マクロ経済学

(1) 月曜日 1 時限 (2) 金曜日 1 時限

助教授 白 井 義 昌

授業形態：春学期 2 単位・講義〔月曜日 1 時限・金曜日 1 時限いずれも履修しなければなりません。〕

目標・意義・方法：

マクロ経済学の基本的知識を身につける。

授業内容：

教科書にそって講義を行う。毎週の宿題提出と小テスト、そして中間および期末試験の合計によって成績評価を行う。詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macro1/>を見よ。

テキスト：

- ・Abel and Bernanke, *Macroeconomics, 5th edition*, Addison-Wesley

計量経済学中級

助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1) その理論的な背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2) 経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3) PC を使った実習を通じて自分で分析ができるようにする。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学Ⅰ」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

授業内容：

1. Introduction：経済分析における統計的方法（1 回）
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定（5 回）
最小 2 乗法とその統計的性質、最尤法とその統計的性質、仮説検定、モデルの評価
3. 一般化最小 2 乗法（4 回）
分散不均一性の問題、自己相関の問題
4. 操作変数法（2 回）
5. その他のトピック（1 回）

テキスト：

・William H. Greene, *Econometric Analysis 5th ed.* /ISE, Prentice Hall IE, 2003

リーディングリスト：

- ・蓑谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社
- ・Jeffrey M. Wooldridge *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- ・Paul A. Ruud *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

計量経済学中級

助教授 宮 内 環

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マイクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数（discrete dependent variable）、制限された従属変数（limited dependent variable）の問題について講義と演習を行う。マイクロデータの整備によって、消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり、合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる方法が要求されるようになってきている。問題の所在を 2 つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し、そのうち就業している主体の割合を示

したもので、「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しマイクロデータでは、個々の主体が就業の状態にある（ $y=1$ ）のか無業の状態にある（ $y=0$ ）のかが観察されている。この場合、「就業率（確率）」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数 y とどのような関係にあり、 y の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば、賃金の観測値が得られるのは、主体が就業している場合に限られる。他方、就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば、就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は、潜在的なもののも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については、観測資料の発生の仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり、これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピュータを用いながら行う。用いるソフトウェアについては、講義や演習の中で述べるので、この点の予備知識は履修の前提としない。

授業内容：

授業の進め方はおおよそ次のとおり。

1. 散乱確率変数の分布、回帰分析、最尤法の復習
2. 見えない変数と離散的従属変数のモデル：経済学における展開を主として
3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
4. 二値選択モデルの演習
5. 多値選択モデルⅠ：Conditional Logit, 経済学における主体均衡論を主として
6. 多値選択モデルⅡ：独立性の問題、Conditional Probit, Nested Logit
7. 多値選択モデルの演習
8. 制限のある従属変数：truncated data, censored data, モーメント
9. Tobit model：主体均衡論からの考察
10. Tobit model の演習
11. Sample Selection BiasⅠ：賃金の測定など
12. Sample Selection BiasⅡ：Heckman の定式化など
13. Sample Selection Bias の演習

テキスト：

・William H. Greene, *Econometric Analysis 5th ed.* /ISE, Prentice Hall IE, 2003

リーディング・リスト：

・蓑谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社、1996 年

- Jeffrey M. Wooldridge *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- Paul A. Ruud *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

数理統計学

産業研究所教授 新 井 益 洋

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

観察によって得られたデータをどのように整理して簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助ける統計的手法は「記述統計」と呼ばれる。また、観察データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、観察データはこの仮説母集団からの無作為標本と見なし、この標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探究であるが、この目的のためには、前者は多くの場面で限界を生じ、後者の新しい統計理論を要請し、これを数学的に整理したものが数理統計学である。

数理統計学は観測されたデータが、何らかの確率的法則にしたがう確率変数の 1 つの実現値であると見なすことによって、これらを分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して 1 つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、数理統計学的手法を有効に適用できるか否かは、想定された確率モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかっている。

想定されるモデルがパラメタと呼ばれる未知の要素を含んでおり、確率分布を完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則性を知ることが、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その分布を決定する確率法則を知ることである。これが数理統計学の方法である。

以上のことを踏まえ、計量経済学や理論専攻をする者にとって最小限必要と思われる内容を講義形式で授業を行う。また、学んだ内容の理解の確認およびその内容をより深めるために、演習を充実させていく。

授業内容：

春学期の内容は以下の通りとし、後半を秋学期に継続する。確率／確率変数／分布関数／密度関数／確率法則

テキスト：

- Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference*, 3rd edition, JOHN WILEY & SONS

数理統計学

産業研究所教授 新 井 益 洋

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

春学期「数理統計学」の内容についての知識は十分あるものとする。授業形式は春学期「数理統計学」と同じである。

授業内容：

講義の内容は以下の通りとする。結合分布／記述統計／推測統計／パラメタの推定／仮説の検定

テキスト：

- Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference*, 3rd edition, JOHN WILEY & SONS

数理統計学

助教授 中 妻 照 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期の講義では確率論の基礎を学ぶ。確率論は数理統計学に理論的基礎を与えるのみならず、理論経済学においてもモデル構築のツールとして重要な役割を果たしている。特に本講義では (1) 学部で習った確率に関する様々な諸概念 (確率, 確率変数, 期待値など) を測度論の観点から見直し, (2) 統計学における大標本理論の基礎をなす大数の法則と中心極限定理を理解することを目指す。成績は出席, 宿題および学期末の筆記試験によって決定される。

授業内容：

1. ルベーグ測度とルベーグ積分
2. 確率測度
3. 確率変数と期待値
4. 様々な収束概念
5. 大数の法則
6. 特性関数
7. 中心極限定理

テキスト：

- Capinski, M., and E. Kopp, *Measure, Integral and Probability*, 2nd ed., Springer-Verlag, 2004

リーディング・リスト：

- Billingsley, P., *Probability and Measure*, 3rd ed., Wiley, 1995
(測度論に基づく確率論の代表的な教科書)
- Davidson, J., *Stochastic Limit Theory*, Oxford University Press, 1994
(計量経済学者向けの漸近理論の教科書。確率過程に関する記述が充実している。)
- Feller, W., *An Introduction to Probability Theory and Its Applications*, vol. 1 (3rd ed.) and vol. 2 (2nd ed.), Wiley, 1968 and 1971
(かなり包括的な確率論の教科書。基本的に辞書代わり。)

数理統計学

助教授 中 妻 照 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

秋学期の講義では、春学期の授業内容を踏まえて統計分析の理論と応用を学ぶ。特に、(1) 統計的決定理論の枠組みでの推定法と (2) ネイマン-ピアソン流の仮説検定を中心に学習する。成績は出席、宿題および学期末の筆記試験によって決定される。

授業内容：

1. 統計的決定理論
2. 十分統計量
3. 推定論
4. 検定論

テキスト：

・竹村彰通『現代数理統計学』創文社 1991 年

リーディング・リスト：

- ・Lehmann, E. L., and J. P. Romano, *Testing Statistical Hypotheses*, 3rd ed., Springer-Verlag, 2005
(検定論の古典的教科書の改訂版)
- ・Lehmann, E. L., and G. Casella, *Theory of Point Estimation*, 2nd ed., Springer-Verlag, 1998
(推定論の古典的教科書の改訂版)
- ・Mood, A. M., F. A. Graybill, D. C. Boes, *Introduction to the Theory of Statistics*, 3rd ed., McGraw-Hill, 1974
(一世代前の統計学の教科書だが、よくまとまっている。)

欧米経済史・日本経済史

教授 杉 山 伸 也

授業形態：春学期，秋学期とも 2 単位・講義〔春学期・秋学期いずれも履修しなければなりません。〕

目標・意義・方法：

この授業は、「いつでも、どこでも」を基本とする 100% e-learning による慶應義塾大学では初めてのタイプの授業である。したがって、教室での授業は基本的に行なわない。履修者は、Web 上で配信される講義を、曜日あるいは時間帯を問わずに、各学期中に自分のスケジュールにあわせて履修することになる。成績評価は、既定回数のレポート＋面接あるいは期末試験にもとづいて行う。くわしくは授業での説明会の際に、個別の相談に応じる。この授業の基本的な考え方、Web 講義へのアクセス方法などについては、4 月 11 日および 4 月 18 日の授業時間に説明会を開催するので、履修希望者は、いずれかの説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。履修者数は最大 100 名を予定しているので、受講者数を制限することもある。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/> の「日本経済史」を参照すること。

なお質問は、授業ホームページの「掲示板」、または e-mail で受け付ける。

授業内容：

講義では、17 世紀の徳川幕府成立前後の時期から 1970 年代まで約 400 年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、とくに日本の経済発展の国際的・国内的环境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページで公開している。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18 世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19 世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870 年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880 年代の政治と経済：「松方財政」と「企業勃興期」へ
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920 年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と 1930 年代の日本経済
- (20) 1930 年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

リーディング・リスト：

- ・中村隆英『日本経済』（第 3 版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全 8 巻，岩波書店
- ・安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第 2 版）東京大学出版会

欧米経済史・日本経済史

助教授 崔 在 東

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期講義の対象時代は中世から近代までとする。当科目における対象地域は、従来のイギリス、ドイツ、フランスなどの西欧だけでなく、東欧諸国とロシアまでを含む。西欧諸国間の比較だけでなく、西欧と東欧の比較および相互関係をも検討する。

授業内容：

春学期の講義では、以下のようなトピックを取り上げる。

1. 中世ヨーロッパ
2. 土地制度：西欧と東欧
3. 家族制度
4. 都市と農村
5. プロト工業化
6. 近代的土地所有権の確立と農奴解放
7. 産業革命と工業化
8. パックス・ブリタニカ

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

欧米経済史・日本経済史

助教授 崔 在 東

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

秋学期講義の対象時代は、近代から現代までとする。当科目における対象地域は、従来のイギリス、ドイツ、フランスなどの西欧だけでなく、東欧諸国とロシアまでを含む。西欧諸国間の比較だけでなく、西欧と東欧の比較および相互関係をも検討する。

授業内容：

秋学期の講義では、以下のようなトピックを取り上げる。

1. 労働と企業
2. 第 1 次世界大戦
3. ロシア革命とスターリン体制
4. 帝政ドイツとナチズム
5. パックス・アメリカナ
6. ヨーロッパ統合
7. 東欧とソ連の経済
8. 冷戦の崩壊と経済体制の移行

テキスト

特に指定しない。

リーディング・リスト

適宜紹介する。

経済学説・経済思想

教授 池 田 幸 弘

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法

経済思想史・経済学史についての基礎的講義。経済思想や経済学史を専攻する者だけを対象にするものではなく、他の領域を専攻する研究者にとっても有意義で、各々の分析視角を広げるような観点を提供することを目的とする。理論史的な方法によるか、あるいは歴史的な方法によるかは、参加者の顔ぶれや問題関心を見てから考えてみたい。参加希望者は、かならず初回の授業に出席されたい。

授業内容：

カール・メンガーからはじまり現代オーストリア学派に至るオーストリア学派について講ずる。半期の講義で、一応この学派について鳥瞰図が持てるように努力したい。講義形式だが、適宜質問やディスカッションの時間を設ける。

テキスト：

・尾近裕幸・橋本努編著『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社、2003 年

リーディング・リスト：

毎回の授業の際に指示する。

専攻科目

ミクロ経済学上級

教授 塩澤修平

助教授 玉田康成

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学上級」に引き続き、ミクロ経済学の理論について講義する。

授業内容：

1. 競争均衡の存在，局所的一意性，安定性
2. 厚生経済学の基本定理
3. 競争均衡とコア

テキスト：

・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

ミクロ経済学上級

教授 中村慎助

教授 須田伸一

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

経済学部設置の「ミクロ経済学Ⅰ」および「ミクロ経済学Ⅱ」を履修した者を対象として，個別経済主体行動の基本的性質について講義する。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

テキスト：

・Mas-Colell, Whinston, and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

マクロ経済学上級

助教授 伊藤幹夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

最近 15 年間ほどのマクロ経済学の理論・実証の両面における展開を，トピックを絞り込んで講義する。

1. 近年のマクロ経済学の実証で用いられるいくつかの計量テクニック
2. リカードの中立性命題をめぐる展開（消費関数の実証）
3. CCAPM と危険プレミアム・パズル

文献の指定などは最初の講義の時間に行う。また，講義資料などは順次 <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture>

において公開する。

マクロ経済学上級

教授 前多康男

助教授 白井義昌

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

マクロ経済の諸問題を扱う基本的なモデルとしてはいくつかの型がある。時間の取り扱い方で離散型と連続型に分かれ，対象とする期間の長さによって，有限期のモデルと無限期のモデル，また基本的な枠組みで世代重複モデル，無限期まで生きる経済主体のモデル等に分かれる。マクロ経済学上級では，世代重複モデルと無限期まで生きる経済主体のモデルの離散型のモデルを講義するが，特に，モデルの基本的な構造に焦点を置く。講義の目的は，世代重複モデルや無限期まで生きる経済主体のモデルの基本的な枠組みを理解し，実際のモデル構築に自在に理論を使用できるようになることにある。また，そのための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とするが，主にモデルの使い方が講義の主な内容であり，高度に数学的な講義にはならない。したがって，履修者の数学的なバックグラウンドとしては，基本的な微分・積分に関する知識を想定している。特に，政府の政策が資源配分に与える影響について，講義の重点が置かれる。受講者には，積極的に学習する態度が望まれる。

授業内容：

内容として以下を含む。

1. 経済環境の描写
2. 競争均衡
3. 政府の導入
4. 新古典派成長モデル
5. 貨幣モデル

テキスト：

・講義前半のテキスト：マッキヤンドレス・ウォレス著，川又・國府田・酒井・前多訳『動学マクロ経済学』創文社，1994 年（原書：*Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard）（注：2 刷りで 1 刷りのタイプミスが訂正されている）。

講義後半のテキストは，授業開始時に知らせる。

リーディング・リスト：

- ・Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993
- ・Sargent, T.J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987
- ・Roger E. A. Farmer, *Macroeconomics of Self-fulfilling Prophecies* (Second Edition), MIT Press, 1999
- ・Stokey, N. L. and R. E. Lucas, *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard, 1989

マクロ経済学上級

教 授 矢 野 誠

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マクロ経済学に関する数学的分析手法を検討する。

授業内容：

1. 消費者の行動における動学的最適化
2. 企業の行動における動学的最適化
3. 動学的均衡の経路
4. 非線型動学と経済変動
5. 確率過程と経済変動
6. 確率のモデルと決定論のモデル

数理経済学（I - A）

商学部教授 小 宮 英 敏

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

経済学の現れる動的モデルの数理的構造のうち離散的な話題に集中し講義を行なう。

授業内容：

1. 離散力学系
 - (a) 基本的定義
 - (b) 記号力学系
 - (c) カオス
 - (d) 構造安定性
 - (e) 分岐理論
2. 動的計画法と多期間最適化
 - (a) 基本的定義
 - (b) 有限期間問題
 - (c) 無限期間問題

リーディング・リスト：

- 1 R. L. Devaney, 『カオス力学系入門』共立出版, 2003
- 2 M. W. Hirsh, S. Smale and R. L. Devaney, *Differential Equations, Dynamical Systems and An Introduction to Chaos*, Second Edition, Elsevier, 2004
- 3 R. K. Sundaram, *A First Course in Optimization Theory*, Cambridge, 1996
- 4 N.L. Stokey and R. E. Lucas, Jr., *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard, 1989

数理経済学（I - B）

教 授 須 田 伸 一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期の数理経済学（I - A）の内容を前提として、経済動学モデルの数理的構造について講義する。多数のトピックに触れるというよりも、基本的な話題に限ってしっかりと理解し、独力で数理経済学の文献を読み進

んでいける力をつけることを目的としている。

授業内容：

1. 最適成長モデル
2. 世代重複モデル

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- 1 C. Le Van, R. A. Dana, *Dynamic Programming in Economics*, Kluwer, 2003
- 2 A. Borghlin, *Economic Dynamics and General Equilibrium : Time and Uncertainty*, Springer, 2004

数理経済学（II）

講 師 高 橋 明 彦

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。

授業内容：

条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・数値的話題を講義する。

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

授業中に指示する。

経済数学（I - A）

教 授 丸 山 徹

特別招聘教授 A . I o f f e

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

経済分析にあらわれる変分法と凸解析の基本問題。

経済数学（I - B）

教 授 丸 山 徹

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

経済数学（I - A）の続論。

経済数学（II - A）

教 授 戸 瀬 信 之

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部時代に前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、いずれもかなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について学んだ内容を思い浮かべれば、その意味することが分か

るであろう。

この科目およびその続論「経済数学（Ⅱ－B）」の目的は、今後さらに高度な数学あるいは数理的な諸科目を学ぶ基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性の記述のための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための様々な極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理の周辺および Lagrange の未定定数法となる。前期のこの科目においては、以上の (1) および (2) に重点を置くこととする。

この講義では論理性を重視します。理解するためには、かなりの自習を必要とします。このことを履修者には注意します。

電子メールで質問・相談をしてもよいが、塾内のアドレス以外からの質問・相談には答えないこととする。電子メールシステムは、いまや危険なものとなっていることに注意しよう。

授業の内容：

- 前期 (1) 実数列、ベクトルの列の極限
(2) 集合、距離空間、位相空間
(3) 1 変数の連続関数の諸性質
(4) リーマン積分（1 変数、多変数）

詳細については私の webpage 上で公開します。Google で「戸瀬信之」と検索すれば、私の webpage に必ずたどり着けます。

テキスト：

指定しない。

リーディング・リスト：

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・小平邦彦『解析入門』岩波書店

経済数学（Ⅱ－B）

教授 戸 瀬 信 之

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部時代に前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、いずれもかなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について学んだ内容を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその先行科目「経済数学（Ⅱ－A）」の目的は、今後さらに高度な数学あるいは数理的な諸科目を学ぶ基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性の記述のための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための様々な極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理の

周辺および Lagrange の未定定数法となる。後期のこの科目においては、以上の (3) に重点を置くこととする。従って、かなり応用的な側面が強調される。

この講義では論理性を重視します。理解するためには、かなりの自習を必要とします。このことを履修者には注意します。

電子メールで質問・相談をしてもよいが、塾内のアドレス以外からの質問・相談には答えないこととする。電子メールシステムは、いまや危険なものとなっていることに注意しよう。

授業の内容：

- 後期 (1) 多変数の微分、陰関数定理、
Lagrange の未定乗数法
(2) 凸解析入門、キューン・タッカーの定理
(3) (時間があれば) 力学系入門
(4) (時間があれば) 測度論入門

詳細については私の webpage 上で公開します。Google で「戸瀬信之」と検索すれば、私の webpage に必ずたどり着けます。

テキスト：

指定しない。

リーディング・リスト：

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・小平邦彦『解析入門』岩波書店

経済数学（Ⅲ－A）

助教授 新 井 拓 児

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

位相空間論に関する講義を行う。距離や面積といった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

集合論、微分積分学の基礎知識を前提とする。経済数学Ⅲ－B と併せて履修することが望ましい。

授業の内容：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して 2 コマ程度の時間を割り当てる。

- ・集合論の復習
- ・ユークリッド空間上の位相
- ・連続関数と位相同型
- ・距離空間とノルム空間
- ・コンパクト性
- ・完備性
- ・関数空間

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

経済数学（Ⅲ－B）

助教授 新 井 拓 児

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論に関する講義を行う。距離や面積といった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

集合論，微分積分学の基礎知識を前提とする。経済数学Ⅲ－A と併せて履修することが望ましい。

授業内容：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して 2 コマ程度の時間を割り当てる。

- ・長さ・面積・体積
- ・測度の構成
- ・リーマン積分からルベーグ積分へ
- ・ルベーグ積分の定義と諸性質
- ・収束定理と積分記号の交換
- ・分解定理と Radon-Nikodym の定理
- ・絶対連続性と微分積分学の基本定理

もし時間があれば，ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

経済数学（Ⅳ－A）

講 師 大 春 慎之助

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期では主として授業内容に掲げる項目 1 ～ 3 を学習することを目標とする。

授業内容：

動的経済理論を支える数学的基礎を与え，様々な経済動態を記述する数学モデルの定式化を試みると共にその数学的取扱いについて解説する。さらに，数値シミュレーションを援用する数学的接近について講述する。

1. 解析学と線形代数，関数空間の準備
2. 微分方程式と差分方程式の基礎理論

3. 解の構成と安定性解析

4. 遅れを伴う微分方程式と安定性解析

経済数学（Ⅳ－B）

講 師 大 春 慎之助

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

秋学期では主として授業内容に掲げる項目 1, 2, 4 を学習することを目標とする。

授業内容：

動的経済理論を支える数学的基礎を与え，様々な経済動態を記述する数学モデルの定式化を試みると共にその数学的取扱いについて解説する。さらに，数値シミュレーションを援用する数学的接近について講述する。

1. 解析学と線形代数，関数空間の準備
2. 微分方程式と差分方程式の基礎理論
3. 解の構成と安定性解析
4. 遅れを伴う微分方程式と安定性解析

経済数学（Ⅴ－A）

講 師 黒 田 耕 嗣

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

Random walk, Poisson process 等の確率過程の性質を概観し，離散確率空間における information structure, conditional expectation, martingale について解説する。またこれらの生保数理，損保数理ファイナンスへの応用について述べる。

授業内容：

- ① 離散確率分布（二項分布，Poisson 分布，幾何分布）について
- ② 連続型確率分布（正規分布，指数分布， t -分布， χ^2 -分布，F-分布）について
- ③ Random walk とその応用
- ④ Compound Poisson process と損保数理への応用
- ⑤ 生保数理概説
- ⑥ 多期間市場モデル
- ⑦ 平衡価格速度と裁定戦略について
- ⑧ Black Sholes 公式について

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press

経済数学（Ⅴ－B）

講 師 黒 田 耕 嗣

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論的確率論の知識を下に、確率過程、特に Brown 運動の基本的性質を理解し、ファイナンスへの応用について考える。

授業内容：

- ① Rieman 積分より Lebesgue 積分へ
- ② Lebesgue 積分と Lebesgue の収束定理について
- ③ 測度論的確率論の概要（確立空間，確立測度，確率変数列の収束，大数の法則，中心極限定理）
- ④ Random walk から Brown 運動へ
- ⑤ Brown 運動の基本的性質（path の性質，scale property）
- ⑥ Brown 運動の Markov 性，強 Markov 性
- ⑦ Martingale とは
- ⑧ 確率積分と Ito の公式について
- ⑨ ファイナンスへの応用（数理ファイナンスへの序論）

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

- ・ Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

経済数学（VI－A）

教 授 西 岡 久 美 子

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

線形構造は数学のあらゆる分野に現れる基本的なものである。学部 1, 2 年次に学んだ数ベクトル空間を抽象化した一般ベクトル空間について学ぶ。また定数係数線形微分方程式や線形差分方程式の解法に応用する。したがって、行列や微分法の基礎についてある程度の知識を仮定する。この講義に続き、経済数学（VI－B）も履修することを勧める。

授業内容：

- i) ベクトル空間，部分空間，基底
- ii) 線形写像，同型写像
- iii) 多項式の性質
- iv) 直和分解
- v) 定数係数線形微分方程式
- vi) 線形差分方程式

テキスト：

初回の授業時に印刷物を配布する。

経済数学（VI－B）

教 授 西 岡 久 美 子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

行列の固有値，固有ベクトルを使って，行列を簡単な形に変形することを学ぶ。応用として連立線形微分方程式，連立線形差分方程式の解を求める。最後に経済学に

よく現れる Perron-Frobenius の定理の証明を述べる。この講義を履修するには経済数学（VI－A）を履修しておく必要がある。

授業内容：

- i) 線形写像と行列
- ii) 固有値，固有ベクトル
- iii) 行列の対角化
- iv) Hamilton-Cayley の定理
- v) Jordan 標準形
- vi) Perron-Frobenius の定理

テキスト：

初回の授業時に印刷物を配布する。

ゲームの理論上級

教 授 中 山 幹 夫

助教授 グレーヴァ香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、産業組織理論を中心とした経済分析に使われる中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム
 - (a) 復習：ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡，フォーク定理，契約
 - (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
 - (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡，逐次均衡とその応用
 - (d) 進化ゲーム
2. 協力ゲーム
 - (a) TU ゲームとその応用：コア，安定集合，交渉集合，カーネル，仁
 - (b) NTU ゲームとその応用： λ -transfer value, 市場ゲーム
 - (c) 提携戦略形のゲーム：強均衡，coalition-proof ナッシュ均衡
 - (d) コア分析：アルファコア，ベータコア，自己拘束的戦略，優位懲罰戦略など
 - (e) Scarf の定理と純粋交換ゲーム，NTU 市場ゲーム

リーディング・リスト：

1. 中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房，2005 年
2. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣，1996 年
3. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
4. Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994

計量経済学上級

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めること、同時に高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために、数回パソコンによる演習を行う。

授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
 - a. 行列代数
 - b. 条件付き期待値
 - c. 漸近理論
2. モメント法による推定・仮説検定
 - a. 標準的回帰モデルと最小自乗法 (OLS)
 - b. 操作変数法 (IV)・2 段階最小自乗法 (2SLS)
 - c. 一般化最小自乗法 (GLS)
 - d. 診断検定 (過剰識別テスト, 外生性のテストなど)
3. LIMDEP による計量分析
4. 他の推定方法
 - a. M — 推定
 - b. 最尤法 (ML 法)
 - c. GMM 法
5. 時系列分析
 - a. 単位根検定
 - b. 共和分分析
 - c. 誤差修正モデル

実証分析のために、LIMDEP8.0 という計量ソフトを利用し、演習を行うが、LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。

テキスト：

- Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA, 2002
- Greene, W.H., *Econometric Analysis, 5th edition*, Prentice Hall, Upper Saddle River, NJ, 2003

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

計量経済学上級

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

応用計量経済学（パネルデータの計量経済学）

【経商連携 COE 科目】

教 授 清 水 雅 彦

助教授 宮 内 環

助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成教授）と合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータの特徴と既存のパネルデータ
- 2 資料発生機構、構造、識別、統御実験
- 3 通常最小二乗法の前提と推定量の性質
- 4 観測されない変数を含む線形モデル
一般化最小二乗法と実行可能一般化最小二乗法
ランダム効果と固定効果
1 元配置と 2 元配置
特定化検定
- 5 パネルデータモデルと一般化積率法
- 6 漸近理論と最尤推定法

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

- Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

- Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press
- Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley
- 小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

応用計量経済学（パネルデータの計量経済学）

【経商連携 COE 科目】

教 授 清 水 雅 彦

助教授 宮 内 環

助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析-構造的経済政策の構築にむけて-」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成教授）と合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータと不均一分散
- 2 パネルデータと系列相関
- 3 パネルデータと多変量回帰
- 4 パネルデータと同時方程式体系
- 5 離散的選択モデル
- 6 打ち切りデータと切断データ
- 7 動学的パネルデータ分析
- 8 その他のパネルデータに関する話題

不完全パネルデータ，擬似パネルデータ，非定常パネルデータなど

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学との関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

- ・ Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

- ・ Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press
- ・ Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley
- ・ 小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

経済思想史

本年度休講。

社会思想

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

トクヴィルの思想を中心に、民主主義の問題点を考察する。

授業内容：

トクヴィル『アメリカの民主主義』および仏語・英語・邦語の研究文献を題材に用いる。必要に応じて、参加者にはリポーターの役割を果たしてもらう。

テキスト：

- ・ Alexis de Tocqueville, *De la démocratie en Amérique*, Paris, 1835-40, nouvelle édition historico-critique revue et augmentée par Edouard Nolla, Paris: Vrin, 2vols, 1990
- ・ 松本礼二訳『アメリカのデモクラシー』岩波文庫

リーディング・リスト：

- ・ トクヴィル（小山勉訳）『旧体制と革命』ちくま学芸文庫，1998 年
- ・ トクヴィル（喜安朗訳）『フランス二月革命の日々』トクヴィル回想録』岩波文庫，1988 年

経済思想

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

明治 10 年代までの福沢諭吉の経済思想について考察する。福沢の思想については、政治・社会思想の面からの論著が多く、経済思想として考察したものは少ない。この点は、福沢が経済の重要性を常に説いていたことを考慮すれば、意外の感をまぬかれない。この研究史の状況が、なぜ生じているのかという点を含めて、この講義では、福沢の代表的著作ばかりでなく、『時事新報』社説をもできるだけ検討しながら、福沢の経済思想を再構成してみたい。また検討にあたっては、経済に関する福沢の言説を並べるだけでなく、常に、その背後にある、人間観・人生観・社会観と経済思想との関連を考慮したい。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・ 藤原昭夫『福沢諭吉の日本経済論』日本経済評論社，1998 年
- ・ 千種義人『福沢諭吉の経済思想』同文館，1994 年
- ・ 安西敏三『福沢諭吉と西欧思想－自然法・功利主義・進化論』名古屋大学出版会，1995 年
- ・ 杉山忠平『明治啓蒙期の経済思想－福沢諭吉を中心に』法政大学出版局，1986 年
- ・ 高橋誠一郎『福沢諭吉 人と学説』長崎出版復刻版，1976 年
- ・ 小泉信三『福沢諭吉』岩波新書，1966 年

経済思想

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

明治 20 年代以降における福沢諭吉の経済思想について考察する。福沢の思想については、政治・社会思想の面からの論著が多く、経済思想として考察したものは少ない。この点は、福沢が経済の重要性を常に説いていたことを考慮すれば、意外の感をまぬかれない。この研究史の状況が、なぜ生じているのかという点を含めて、この講義では、福沢の代表的著作ばかりでなく、『時事新報』社説をもできるだけ検討しながら、福沢の経済思想を再構成してみたい。また検討にあたっては、経済に関する

福沢の言説を並べるだけではなく、常に、その背後にある、人間観・人生観・社会観と経済思想との関連を考慮したい。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・藤原昭夫『福沢諭吉の日本経済論』日本経済評論社，1998 年
- ・千種義人『福沢諭吉の経済思想』同文館，1994 年
- ・安西敏三『福沢諭吉と西欧思想－自然法・功利主義・進化論』名古屋大学出版会，1995 年
- ・杉山忠平『明治啓蒙期の経済思想－福沢諭吉を中心に』法政大学出版局，1986 年
- ・高橋誠一郎『福沢諭吉 人と学説』長崎出版復刻版，1976 年
- ・小泉信三『福沢諭吉』岩波新書，1966 年

欧米経済史

教 授 矢 野 久
助教授 飯 田 恭
助教授 崔 在 東

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる個別の具体的な歴史事象を、社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は、およそ次の通りである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 家族・親族・共同体と個人主義
4. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

欧米経済史

教 授 矢 野 久
助教授 飯 田 恭
助教授 崔 在 東

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

日本経済史

教 授 杉 山 伸 也
教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期以降、現代にいたるまでの日本経済の変遷について概観する。テキストは、田村均『ファッションの社会経済史』（日本経済評論社）を使用する予定である。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

日本経済史

教 授 杉 山 伸 也
教 授 柳 沢 遊

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。特定のテキストは使用せず、受講者の関心にあわせた論文を適宜選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

アジア経済史

教 授 古 田 和 子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

19 世紀後半から 20 世紀前半における東アジアおよび東南アジアの社会経済構造を、アジア間貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。研究文献の整理を通して、先行研究による成果と残された課題について考察を深め、具体的な研究対象を設定する作業

を進める。

産業組織論（ゲーム理論）

助教授 石 橋 孝 次

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ゲーム理論の考え方に基づいた産業組織（Industrial Organization）の理論的側面を解説する。ゲーム理論は経済学の様々な分野で不可欠な分析用具として定着しているが、中でも産業組織はゲーム理論の最も実り多い応用分野である。この科目では、適宜必要なゲーム理論の解説を織り交ぜながら、不完全競争市場の構造と企業行動・経営戦略、および経済厚生観点からの評価と競争政策について講義する。

授業計画：

1. 産業組織の目的と方法
2. 部分均衡分析の基礎
3. 企業理論
4. 市場支配力
5. 品質と製品選択
6. 価格差別
7. ゲーム理論Ⅰ（戦略型ゲーム）
8. 静学的寡占理論：クールノー・モデルとベルトラン・モデル
9. ゲーム理論Ⅱ（展開型ゲーム・繰り返しゲーム）
10. 動学的寡占理論：暗黙の共謀

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

テキスト：

・塩澤・石橋・玉田（編著）『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣、2006 年（第 8 章）

リーディング・リスト：

・J. Church and R. Ware, *Industrial Organization : A Strategic Approach*, McGraw-Hill, 2000

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・春学期末試験 80%

産業組織論（ゲーム理論）

助教授 石 橋 孝 次

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ゲーム理論の考え方に基づいた産業組織（Industrial Organization）の理論的側面を解説する。ゲーム理論は経済学の様々な分野で不可欠な分析用具として定着しているが、中でも産業組織はゲーム理論の最も実り多い応用分野である。この科目では、適宜必要なゲーム理論の解説を織り交ぜながら、不完全競争市場の構造と企業行動・経営戦略、および経済厚生観点からの評価と競争政策

について講義する。

授業内容：

1. 製品差別化
2. 参入費用・市場構造と経済厚生
3. 戦略的参入阻止
4. 2 段階競争
5. 研究開発と特許制度
6. ネットワーク外部性
7. ゲーム理論Ⅲ（不完備情報ゲーム）
8. 略奪価格
9. 垂直的取引制限
10. 水平合併

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

テキスト：

・塩澤・石橋・玉田（編著）『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣、2006 年（第 8 章）

リーディング・リスト：

・J. Church and R. Ware, *Industrial Organization : A Strategic Approach*, McGraw-Hill, 2000

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・秋学期末試験 80%

産業組織論

教授 中 澤 敏 明

助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

このコースは、産業組織論の分野全体について広く紹介することを課題とせず、産業組織論の実証分析をレビューすることを通じて、組織論の 3 分割法でいえばとくに構造・行動に焦点をあてて、事実発見・理論検証を行うことを直接的に目的としている。中澤・河井 2 名で毎週交代しながら、一方が講義し他がコメントを加え質疑する。典型的には、実証分析の中で主要な先行研究を紹介し相互比較しながら論じ、扱われている争点が産業組織論の進展の系譜の中で占める位置・研究が明らかにした点・問題点・今後に残された課題などを紹介する。必要に応じて、実証分析にかかわる基本的な理論をレビューする。昨年の例（春）では、中澤が産業組織論の実証分析にかかわるレビューをし、コーポレート・ガバナンスにかかわる論文を紹介した。河井はプライスコストマージン・推測的変動・製品差別性と参入を中心とする市場構造・行動にかかわる実証分析を扱った。今年度も、コーポレート・ガバナンスと市場競争との関係についての理論的研究を基礎にして、これにかかわる実証分析に進む予定である。河井は、市場参入にかかわる実証研究を、特にニュー・エンピリカル IO のアプローチの系譜にウエイトを置き

ながらサーベイする。

秋学期の説明も参照されたい。

授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。河井は Market Power や参入に力点をおいて講義。

Market Power の論文を例示すると、

1. New Empirical Industrial Organization
2. Early Studies: Conduct Parameter Models
3. Some Developments on Conduct Parameter Model
4. Nonparametric Studies
5. Product Differentiation 1 : Price Reaction Curve
6. Product Differentiation 2 : Dynamic Expansions

テキスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った代表的なテキストをいくつか紹介する。論文については、秋学期の部に例示するので、参照されたい。

- M.Stephen, *Advanced Industrial Organization*, Blackwell, 1993, 2002
- P. Ghemawat, *Games Business Play*, MIT Press, 1997
- O. Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structure*, Oxford, 1995
- L.Philips (ed), *Applied Industrial Economics*, Cambridge, 1998
- L. Cabral (ed), *Readings in Industrial Organization*, Blackwell, 2000
- X. Vives (ed), *Corporate Governance*, Cambridge, 2002
- E. Rasmusen, *Games and Information*, Blackwell, 1989, 2001
- E. Wolstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge

産業組織論

教授 中 澤 敏 明
助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

講義の目的・進め方は、春学期に同じである。そちらを参照されたい。テーマとしては、昨年の例（秋）では、中澤がコーポレート・ガバナンスとの関連で、株価についての研究や市場の透明性にかかわる分析を紹介した。河井は、春学期に続き、製品差別性他の市場構造・行動にかかわる実証分析をレビューするとともに、市場への参入の実態・参入発生件数および均衡企業数の実証分析の系譜を紹介した。今年度は、春学期の進捗をみて、カバーするテーマを確定することになる。

授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えてい

ることが望まれる。

昨年度、河井の扱った内容は次のとおりである。

参入退出の実証研究

1. 記述的分析：サーベイ、企業動態と生産性、企業動態と雇用
2. Entry-Exit Decision: Entry Deterrence, Sunk cost の測定
3. 参 入 退 出 と 市 場 の 成 果 : Market Structure, Market Performance
4. Dynamic Model: 市場動態の確率モデル
5. 差別化市場における参入の分析

リーディング・リスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った論文をいくつかを例示する。テキストについては、春学期の案内を参照されたい。

昨年度中澤の扱ったものを例示する。

- M. Aoki, *Toward a Comparative Institutional Analysis*, MIT, 2001
- M. Baldassarri and L. Lambertini, *Antitrust, Regulation and Competition*, Palgrave, 2003
- J. Cox, S. Ross and M. Rubinstein, *Option Pricing*, Journal of Financial Economics 7, 1979
- R. Selten, *A Simple Model of Imperfect Competition Where 4 are Few and 6 Are Many*, International Journal of Game Theory, 2
- R. J. Shiller, *Do Stock Prices Move too Much to be Justified by Subsequent Changes in Dividends?*, AER, 71 (3)
- R. Schmalensee et al edited, *Handbook of Industrial Organization Chapter 16, Inter-Industry studies of Structure and Performance*, North-Holland

労働経済論

教授 太 田 聰 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目では、中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく、労働市場は労働サービスが取引される場であるが、需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化しうるきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり、魅力的であるといえる。この講義の目的は、将来労働市場の研究を志したり、他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

修士レベルの受講者が比較的スムーズに講義内容を理解できるように、わかりやすい解説を目指す。受講者が学部レベルのミクロ・マクロ経済学と統計学を習得していることを前提とする。この点について心もとない人には学部 3・4 年生対象の「現代労働経済理論」の受講を

お勧めする。

授業内容：

春学期においては、労働者および企業の主体的行動に分析の焦点を当てる。市場機能のより詳細な検討は秋学期の課題となる。

1. 労働供給（静学モデル）
2. 労働供給（動学モデル）
3. 労働供給の実証分析
4. 労働需要（静学モデル）
5. 労働需要（動学モデル）
6. 労働需要の実証分析
7. 教育訓練と人的資本の経済分析
8. 組織内インセンティブの諸問題

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

労働経済論

教 授 太 田 聰 一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目では、中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく、労働市場は労働サービスが取引される場であるが、需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化しうるきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり、魅力的であるといえる。この講義の目的は、将来労働市場の研究を志したり、他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

修士レベルの受講者が比較的スムーズに講義内容を理解できるように、わかりやすい解説を目指す。受講者が学部レベルのミクロ・マクロ経済学と統計学を習得していることを前提とする。この点について心もとない人には学部 3・4 年生対象の「現代労働経済理論」の受講をお勧めする。

授業内容：

秋学期においては、均衡における労働市場の機能を検討する。

1. 労働市場の均衡と賃金格差
2. 賃金交渉モデル
3. 効率賃金仮説
4. 賃金の下方硬直性—実証分析の系譜
5. ミスマッチと失業
6. 均衡サーチモデル
7. 労働市場におけるフロー分析
8. 経済成長と労働市場

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

労働経済論

教 授 島 田 晴 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策に関する主要なテーマを選んで、概説を行うとともに、関連文献を読み、参加者の興味も勘案して議論を深める。

労働経済論

教 授 島 田 晴 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

社会政策論

助教授 山 田 篤 裕

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

下記テキスト講読により、社会政策（特に社会保障）の基礎理論および近年における実証研究の展開の概要を把握することを目的とします。他研究科からの参加も歓迎します。

授業内容：

下記テキストの目次は以下の通りです。履修者の関心に応じ、テキストの参考文献（Further Reading）についても講読します。

PART 1. CONCEPTS

1. Introduction, 2. The historical background, 3. Political theory: Social justice and the state, 4. Economic theory 1: State intervention, 5. Economic theory 2: Insurance, 6. Problems of definition and measurement

PART 2. CASH BENEFITS

7. Financing the welfare state, 8. Contributory benefits 1 : Unemployment, sickness, and disability, 9. Contributory benefits 2: Retirement pensions, 10. Non-contributory benefits, 11. Strategies for reform

PART 3. BENEFITS IN KIND

12. Health and health care, 13. Education, 14. Housing

PART 4. EPILOGUE

15. Conclusion

テキスト：

・Barr, N, *Economics of the Welfare State (4th ed.)*, Oxford University Press, 2004

工業経済論

教授 渡 辺 幸 男
助教授 駒 形 哲 哉

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、駒形、渡辺の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読することになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

工業経済論

教授 渡 辺 幸 男
助教授 駒 形 哲 哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

農業経済論

教授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この講義では、農業経済論の領域から大きく 2 つの問題を取りあげて概観する。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題である。この 2 つの話題は、それぞれ農業経済論の新たな研究課題と伝統的な研究課題であり、相互に十分に連続した問題として講義することは困難であるが、研究課題が大きく変わっていつているなかで、農業経済論の概観を得るためには、双方にふれる必要があると考える。

授業内容：

前者については、1. 植物の物質生産と農業 2. 農法・農業技術の変化 3. 再生可能資源の利用 4. 現代の農業技術等の話題を、

後者については、1. 農民層分解 2. 農工間の労働力移動 3. 農作物の不足と過剰 4. 現代の農業政策等の話題を取り上げる。

リーディング・リスト：

講義の全体をカバーする文献はないので、授業中に参考文献を指示する。なお、後者の話題では、速水佑次郎他『農業経済論』（岩波書店、2002 年）に言及することが多い。

経済政策論

教授 大 村 達 弥

授業形態：春学期、秋学期とも 2 単位・講義

目標・意義・方法：

講義の目標は、変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、情報通信産業における融合と再編、ネットワークのユビキタスな発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連する経済規制改革、ネットワーク外部性、電子商取引の理論的・実際の検討等を扱う予定である。なお取り上げる文献は授業開始の時点で指定する。（昨年度も同様の趣旨で講義を行ったので参考のため用いた文献の一部を下記に掲げる）

リーディング・リスト：

- ・ B. Cunningham and P. Alexander, *A Theory of Broadcast Media Concentration*, Journal of Public Economic Theory, 6 (4), 2004
- ・ A. Faure-Grimaud and D. Martimort, *Regulatory inertia*, RAND, 2003

金融論

教授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の英語の学術論文を読む。「国際金融論」と 2 コマ続けて行う。

テキスト：

なし。初回にリーディングリストを渡す。

リーディング・リスト：

初回にリーディングリストを渡す。櫻川昌哉『金融危機の経済分析』（東京大学出版会）を参考書として適宜使う。

金融論

教授 吉 野 直 行
教授 嘉 治 佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We

put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

授業内容：

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis : causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

テキスト：

1. Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press, 1988
2. Yoshino, Naoyuki et. al., *Eigo de Yomu Nihon no Kinyu (Economic Issues of Contemporary Japan)*, Yuhikaku publishing, 2000
3. Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
4. Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, 2003, Oxford University Press
5. Takatoshi Ito, *The Japanese Economy*, MIT press, 1992
6. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, 3.99 pounds.

More references will be given during the lecture.

成績：

Final examination 70%, Class participation 30%

財政論

教授 飯野靖四

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業は学部時代に財政論を履修しなかった諸君のために行われる。したがって授業内容は原則として学部の授業と同じであるが、少人数であることを利用して討論も混じえて進めたいと考えている。

授業内容：

1. 財政論の種類
2. 財政論の周辺領域
3. 政府の仕事
4. 公共財
5. 日本の税制，特に所得税
6. 法人税（国際課税も含む）

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・『図説・日本の財政』東洋経済新報社
- ・『図説・日本の税制』財経詳報社

財政論

教授 飯野靖四

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業は学部時代に財政論を履修しなかった諸君のために行われる。したがって授業内容は原則として学部の授業と同じであるが、少人数であることを利用して討論も混じえて進めたいと考えている。

授業内容：

7. 日本の消費税
8. 公債の理論
9. 日本の社会保障制度
10. いわゆるフィスカル・ポリシー
11. 環境税

（春学期予定通り進まなかった場合にはその続きから始める可能性有）

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・『図説・日本の財政』東洋経済新報社
- ・『図説・日本の税制』財経詳報社

公共経済学

助教授 土居丈朗

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

前半では，近年における公共経済学の展開を追えるに

足る理論的基礎を学習することを目的とする。後半では、政策決定過程に政治的影響も考慮した理論的分析である新しい政治経済学の研究を理解する上で必要な知識を身につけることを目的とする。この講義を通じて、公共経済学や政治経済学の見地から論文を執筆する上で役立つ能力を習得することが期待される。

履修者は、学部レベルの公共経済学（例えば、リーディング・リストに挙げた拙著レベル）を理解していることが望ましい。授業では、テキストを予習していることを前提とし、時折宿題を課す。

授業内容：

前半では、課税の経済理論を中心として、課税の経済効果、最適課税の理論、課税と動学的効率性―世代重複モデル、資本所得課税と経済成長、国際課税、資産課税、所得再分配政策、不完全情報下の課税、財源調達手段としての課税などについて学ぶ。

後半では、新しい政治経済学について、選挙における競争、政治家の党派的行動、特定利益団体の経済分析、制度の経済分析などについて学ぶ。

テキスト：

- ・井堀利宏『課税の経済理論』岩波書店
- ・Persson, T. and G. Tabellini, *Political Economics : Explaining Economic Policy*, MIT Press

リーディング・リスト：

- ・土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社
- その他、授業の進行に合わせて紹介する。

現代日本経済論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

バブル経済崩壊後の日本経済では、1980 年代に Japan as No.1 と評されたさまざまなシステムが有効に機能せず、日本的な経済システム、日本的な企業システムはグローバル競争と IT 化によってもはや陳腐化したとも言われてきた。その一方で、一部の企業は着実に国際競争力を高め、世界トップに踊り出ようとしているところもある。こうした 1990 年代以降の日本経済の変化や日本企業の現状をどのように把握するのか、特に評価がまったく逆転してしまった 80 年代と整合性を持たせながら、一貫した論理で、90 年代、21 世紀の日本経済の状況を描いていけばよいのかは、重要な問題である。

本講義では、こうした問題について、産業、企業、地域、国際化などをキーワードに検討していく。

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

工藤章他編『現代日本企業』（全 3 巻）有斐閣、2005 ～

06 年を取り上げる。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

現代日本経済論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

問題意識は春学期の内容を引き継ぎ、秋学期ではさらにより個別の問題に踏み込んで検討していく。取り上げたいテーマとしては次のようなものを考えている。

- ・日本の製造業の今後 アーキテクチャ論、国際分業、グローバル競争などをキーワードに
- ・中小企業と地域経済 産業集積、クラスター、創業支援などをキーワードに
- ・2007 年問題への対応 少子高齢化、非正規雇用、年金、技能伝承などをキーワードに
- ・その他

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

第 1 回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

現代資本主義論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視点から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

現代資本主義論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視点から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第1回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

世界経済論

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

リーディング・リスト：

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

国際貿易論

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資に関して、基礎理論と実証分析について、中級レベルの講義をする。

授業内容：

対象とする内容は以下のようなものである。

1. Ricardo の貿易理論
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
3. 貿易均衡
4. 特殊要素モデル
5. 完全競争市場の下での貿易政策
6. 不完全競争市場下での貿易政策
7. 直接投資
8. イノベーションと貿易
9. 自由貿易と地域貿易協定

テキスト：

- ・ Robert Feenstra, *Advanced International Trade-Theory and Evidence*, Princeton University Press, 2004
- ・ Jagdish Bhagwati, Arvind Panagariya, and T. N. Srinivasan, *Lectures on International Trade*, 2nd edition, The MIT Press, 1998
- ・ 伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店, 1985 年

リーディング・リスト：

論文に関するリーディング・リストは、その都度、紹介する。

開発経済論

本年度休講。

国際金融論

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の学術論文を読む。特にアジア通貨危機に関する文献も読む。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

- ・ 櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会
- ・ Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

Open Economy Macroeconomics

(1) 土曜日2時限 (2) 土曜日3時限

教 授 嘉 冶 佐保子

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

This course is offered to third-and fourth-year undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students.

The purpose of this course is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this course are assumed to have sufficient knowledge of entry-level macroeconomics and microeconomics.

授業内容：

- I. A Review of Closed Economy Macroeconomics
IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand
- II. Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- III. Theories of Exchange Rate Determination
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- IV. The Mundell-Fleming Results
The M-F Result and the Structure of the Model—a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rates, Alternative Assumption: Two-Country
- V. The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- VI. Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

テキスト：

<http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/02A004macro/list.html>

リーディング・リスト：

- Canzoneri, M. and D. Henderson, *Is Sovereign Policymaking Bad? Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy* No.28, pp.93-140, 1988
- Dornbusch, Rudiger *Open Economy Macroeconomics*, Basic Books, Chapter 10, 1980
- Dornbusch Chapter 11, 1980
- Kaji, Sahoko *Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku (The Economics of Exchange Rate Systems)*, Nihon Keizai Shimbun Publishing, 2004

成績：

Final 70%, Class participation 30%

経済地理学

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

都市経済や地域経済の理論的ならびに実証的分析を行うことを目的とする。春学期の前半では、社会科学の方法論的基礎を学ぶ。アカデミックなリサーチを行ううえでの様々な課題の理解を深め、併せて問題解決型の技法を習得する。

授業内容：

下記のテキストを輪読する。関連するジャーナルの論文等も併せてアサインする。

テキスト：

- ・ガブリエル・ウォーカー『スノーボール・アース』川上紳一監訳 早川書房, 2004 年
- ・Robert Latham and Saskia Sassen (eds) *Digital Formations : IT and New Architectures in the Global Realm*, Princeton Univ. Press, 2005

経済地理学

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期の継続。

都市経済論

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立つて、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

- Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001 年)
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: Regional Economics, Vol.2: Urban Economics, Vol.3: Applied Urban Economics, North-Holland and Elsevier Science Publisher
- M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)
- 中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996 年
- 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997 年

環境経済論

教 授 細 田 衛 士

教 授 大 沼 あゆみ

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派のアプローチや新制度学のアプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。

授業内容：

講義の流れは以下の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

- 第 1 章 環境経済学の流れ
- 第 2 章 公共財としての環境
- 第 3 章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ
- 第 4 章 オープンアクセスと再生可能資源
- 第 5 章 再生不可能資源

- 第 6 章 課税政策
- 第 7 章 排出権売買制度
- 第 8 章 デポジット制度
- 第 9 章 コースの定理
- 第 10 章 廃棄物とリサイクル
- 第 11 章 汚染者支払い原則
- 第 12 章 開発と環境保全

テキスト：

特にない。

リーディング・リスト：

授業中に配布する。

社会史

教授 倉 沢 愛 子
教授 清 水 透

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識するとともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

授業内容：

フィールドワークを基礎とする歴史研究を踏まえつつ、以下の 3 点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況，日常と非日常

テキスト：

フィールドワークに基づいて書かれた研究書を皆で読みながら進めていく。どの本を選ぶかは、受講生の顔ぶれを見てから決める。

リーディング・リスト：

適宜指定する。

社会史

教授 松 村 高 夫
教授 矢 野 久

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くために、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起，方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

社会史

教授 松 村 高 夫
教授 矢 野 久

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期参照。

演 習 科 目

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

機構設計 (mechanism design) の問題に関する文献を中心に幾つかの基本的文献を展望した上で、学生の関心を考慮して関連文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

春学期に引き続き、機構設計 (mechanism design) の問題に関する文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

—不確実性と情報—

履修のためには、ミクロ経済学中級の基礎知識を前提とする。情報の非対称性、シグナリング、依頼人（プリンシパル）と使用人（エイジェント）の問題等について研究し、論文指導を行う。

—社会的選択理論上—

社会的選択理論を中心とする領域の研究指導を行う。集団的意思決定機構の望ましい性質を、結果の効率性、機構の運営に必要な情報伝達量、参加者の行動誘因との両立性、民主主義の要請等の側面から把握し、市場機構や企業組織等の性質を吟味する。研究領域としては、実行

(implementation) 理論、依頼人・使用人問題等も含む。

リーディング・リスト：

- (1) Matthew O. Jackson and Sanjay Srivastava, *A Characterization of Game-Theoretic Solutions Which Lead to Impossibility Theorems*, Review of Economic Studies, Vol.63, 1996, 23–38
- (2) F. Vega-Redondo, *Evolution in Games: Theory and Economic Applications*, Oxford University Press, 1995
- (3) J. Hofbauer and J. W. Weibull, *Evolutionary Selection against Dominated Strategies*, Journal of Economic Theory, Vol.71, 1996, 558–573

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法

—厚生経済学—

履修のためには、ミクロ経済学中級及び厚生経済学の基礎理論の知識を前提とする。資源配分の効率性の条件、非効率の尺度、分配の公正、市場の失敗、最適課税論等について研究し、論文指導を行う。

—社会的選択理論下—

春学期に開講される「ミクロ経済学演習」（社会的選択理論上）と同じ領域について、秋学期にも引き続いて研究指導を行う。

ミクロ経済学演習

助教授 白 井 義 昌

助教授 石 橋 孝 次

助教授 玉 田 康 成

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済主体が意思決定を行う際に用いる情報そしてその行動誘引の問題を明示的に取り扱う経済諸モデルの文献を講読する。論文をいかに読み込むか、そして経済問題をどのように組み立て分析するのかということを習得すること、さらに修士論文作成のための問題意識醸成を演習の目的とする。

授業内容：

扱うトピックスとしては契約および組織の基礎理論、その応用としての産業組織論、労働市場金融市場分析などである。

ミクロ経済学演習	
	助教授 白 井 義 昌 助教授 石 橋 孝 次 助教授 玉 田 康 成
授業形態：秋学期 2 単位・合同演習 目標・意義・方法： 春学期参照。	
マクロ経済学演習	
	名誉教授 大 山 道 廣
授業形態：秋学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 文献講読と論文指導 授業内容： 企業の生産技術や労働，資本等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が時間を通じて変化するような動態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。 テキスト： 特に指定しない。 リーディング・リスト： 適宜指示する。	
マクロ経済学演習	
	教 授 尾 崎 裕 之
授業形態：春学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 「非期待効用理論のマクロ経済学への応用」をテーマとし，関係する論文の輪読を行う。最先端の研究論文を精読することによって，知的訓練を行い，参加者が自分の知的関心に合ったリサーチ・トピックを見出していく，あるいは，自分の修士論文の完成に役立てていくことを目的とする。 授業内容： 以下の内容に関する論文の輪読を行う。(1) von-Neumann=Morgenstern によるリスクの下での選好の表現定理，(2) Savage による不確実性下における選好の表現定理，(3) Gilboa や Schmeidler による CEU 理論・MMEU 理論に代表される非期待効用理論とその公理的基礎，(4) これら非期待効用理論のマクロ経済学への応用。 リーディング・リスト： Kreps, D., <i>Notes on the Theory of Choice</i> , Boulder, Colorado, Westview Press, 1998, 他，授業中に指示する。	
マクロ経済学演習	
	教 授 尾 崎 裕 之
授業形態：秋学期 2 単位・演習	

授業内容：	
春学期に準ずる。	
マクロ経済学演習	
	教 授 塩 澤 修 平 名誉教授 大 山 道 廣
授業形態：春学期 2 単位・合同演習 目標・意義・方法： 文献講読と論文指導 授業内容： 家計の貯蓄行動，企業の投資行動，さらには企業の生産技術や労働，土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。 テキスト： 特に指定しない。 リーディング・リスト： 適宜指示する。	
数理経済学演習（Ⅰ）	
	教 授 丸 山 徹 教 授 須 田 伸 一 商学部教授 小 宮 英 敏 特別招聘教授 A . l o f f e
授業形態：春学期 2 単位・合同演習 目標・意義・方法： 参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも，経済学・数学両分野の専門家に参加を求め，研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。 授業内容： とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが，今年度の重点的テーマは次のとおりである。 （Ⅰ）非線形動学と景気変動 （Ⅱ）確率解析と金融資産価格の変動 （Ⅲ）凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む） （Ⅳ）均衡分析の基本問題 「数理経済学演習（Ⅱ）」と併せて履修することが望ましい。	
数理経済学演習（Ⅱ）	
	教 授 丸 山 徹 教 授 中 村 慎 助 商学部教授 小 宮 英 敏
授業形態：秋学期 2 単位・合同演習 目標・意義・方法：	

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (Ⅰ) 非線形動学と景気変動
- (Ⅱ) 確率解析と金融資産価格の変動
- (Ⅲ) 凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む。）
- (Ⅳ) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅰ）」と併せて履修することが望ましい。

経済数学演習

教授 中村 慎 助
助教授 グレーヴァ 香子

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配布する。

経済数学演習

教授 中村 慎 助
教授 尾崎 裕 之

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配布する。

計量経済学演習

教授 清水 雅 彦

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習では、経済発展過程における経済構造の変化、とりわけ生産構造（産業部門間の技術的相互依存関係）の変化に関する比較静学分析の基礎的手法である産業連関分析の応用問題をとりあげる。伝統的な一国産業連関

表に基づく分析手法に対して、最近では、さまざまな拡充がなされている。その一つは、国際取引すなわち貿易関係をもつ国々の産業連関表を、各国間財別輸出・入統計によって連結した国際産業連関表に基づく分析手法である。この手法によれば、従来の集計された輸出および輸入概念による国際経済関係に対して、各国産業構造の相互依存関係を計量的に分析することが可能である。また、発展段階の異なる国々の間における貿易パターンを、伝統的な要素賦存による分析だけでなく、各国産業構造の技術特性によって分析することも可能である。さらに、異時点の国際産業連関表に基づけば、各国の産業構造変化と相互依存関係の変化を分析することもできる。なかでも注目すべきは、産業技術の国際間移転がもたらす国際相互依存関係の変化に関する分析である。いまなお未開拓の分析領域であるが、今後、国際産業連関モデルの拡充によって開拓可能な領域である。この演習の履修者としては、およそ以上のような問題あるいは関連する領域に研究上の関心をもつ人が望ましい。

なお、履修希望者は、学部設置の「計量経済学」、研究科設置の「計量経済学中級」もしくは「応用計量経済学」を履修しておくことが望ましい。演習の形式としては、上記の応用問題に関連する領域を自らの研究テーマとする履修者の報告とそれに対する討論を中心とするが、随時、関連論文の講読と講義も行う。

計量経済学演習

教授 清水 雅 彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

計量経済学演習

助教授 田中 辰 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本講義の目的は 2 つある。(1) GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと、(2) IT 産業に関するペーパーを読み、自分の論文のテーマを見つけること、の 2 点である。どちらを主としてとりあげるかは集まった学生の要望を聞いて決める。以下、順に説明する。

(1) ガウス (GAUSS) は行列演算が得意なソフトウェアであり、計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば、最小 2 乗法の推定値は $b = (X'X)^{-1}X'y$ であるが、ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので、理論との対応関係が明瞭であり、理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり、自分で理論内容を理解しないと利用できないが、

その代わり、推定の中身を自分で確認できるうえに、必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては、コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあつた方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。

(2) IT 産業は近年、もっとも成長が著しく、また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90 年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収穫逓増、スイッチングコスト、ベンチャー型産業構造、コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし、経済学の目から見ると、理論研究も実証研究も遅れている。特に実証分析の遅れは大きく、たとえばマイクロソフト裁判はそれが端的に現われた例で、訴訟にまでなっているにもかかわらず、結局有力な実証分析は経済学者から出されなかった。本講義では学生諸君の興味に合わせてテーマ設定を行ってペーパーを読み、学生諸君の論文のテーマを探していく。たとえば著作権問題に関心が高い学生がいればそれに合わせてペーパーを選択する。

計量経済学演習

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習は修士論文作成の指導・研究を行うこと、応用エコノメトリックスの知識を深めること、質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

授業内容：

各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。“報告”は文献（又は文献の議論）を日本語に訳することだけでなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。利用できるデータセットの一つとしては慶應家計パネル調査（KHPS）がある。

テキスト：

テキストとして指定しないが、一番近いものとして Wooldridge, J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA, 2002 がある。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

計量経済学演習

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

計量経済学演習

名誉教授 蓑 谷 千凰彦

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

計量経済学の基礎的知識を復習した後で、回帰診断と影響分析、正規性の検定、頑健推定、時系列分析を行う。TSP を用いて演習する。

授業内容：

1. 基礎的知識の復習(パラメータ推定, 説明力, 仮説検定(t , F , χ^2 , デルタ法)
2. 3 つの大標本検定
3. 自己相関
4. 不均一分散
5. 回帰診断と影響分析
6. 頑健推定
7. 時系列分析
 - (1) 定常性
 - (2) 見せかけの回帰
 - (3) 単位根検定
 - (4) 共和分－EG テスト, Johansen 検定
 - (5) ECM と LSE アプローチ

テキスト：

1. 蓑谷千凰彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社
2. Greene, W. H., *Econometric Analysis*, 5th ed., Prentice Hall

リーディング・リスト：

1. Davidson, R. and Mackinnon, J. G., *Econometric Theory and Methods*, Oxford University Press, 2004
2. Hamilton, J. D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994
3. Maddala, G. S. and Kim, I. M., *Unit Roots, Cointegration, and Structural Change*, Cambridge University Press, 1998
4. 蓑谷千凰彦『計量経済学の新しい展開』多賀出版
5. 蓑谷千凰彦『計量経済学における頑健推定』多賀出版

計量経済学演習

名誉教授 蓑 谷 千凰彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に同じ

経済学史演習

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

アダム・スミスの『国富論』を輪読する。スミス『国富論』の重要性についてはいまさら述べる必要がないほどである。経済学の始点となった著作であるばかりでなく、社会思想史上の古典でもある。また、現代の政策的な議論にあたっても常に参照されるべき著作だといっても過言ではない。今年度は昨年度に引きつづき、新しく出た杉山忠平訳を使いながら輪読をすすめていく。既存の邦訳との比較対照それ自体も試みてみたい。参加希望者は、水田洋監訳、杉山忠平訳『国富論(1)－(4)』岩波文庫を準備されたい。今年は第 5 編の途中からの輪読となる。ときおり、参加者自身の研究テーマについて報告を求めることがある。

経済学史演習

火曜日 4 時限

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期の続き。詳細については春学期の講義要綱を見られたい。

経済学史演習

火曜日 2 時限

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

経済学史、思想史、研究者を対象に個別報告を求める。それを題材に、参加者全員で議論する。

授業内容：

参加者の報告が中心となる。

リーディング・リスト：

毎回の授業の際に指示する。

社会思想演習

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

トクヴィルの思想を中心にして、民主主義の問題点を考察する。

授業内容：

トクヴィル『アメリカの民主主義』をテキストに輪読を行う。参加者はリポーターの義務を負う。リポーターは、テキストまたは指定された文献中の割り当てられた箇所の要約をつくったうえで、参考文献を調べて問題点を整理する。

テキスト：

- ・ Alexis de Tocqueville, *De la démocratie en Amérique*, Paris, 1835-40, nouvelle édition historico-critique revue et augmentée par Edouard Nolla, Paris: Vrin, 2vols, 1990
- ・ 松本礼二訳『アメリカのデモクラシー』岩波文庫

リーディング・リスト：

- ・ トクヴィル（小山勉訳）『旧体制と革命』ちくま学芸文庫，1998 年
- ・ トクヴィル（喜安朗訳）『フランス二月革命の日々トクヴィル回想録』岩波文庫，1988 年

経済思想演習（日本社会経済思想史演習）

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

履修者に、何らかの意味で日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。また、研究発表とならんで墨筆古文書史料の解読実習を行う。なお、小室担当の「経済思想（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

リーディング・リスト：

- ・ 川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・ 経済学史学会編『日本の経済学』東洋経済新報社，1984 年
- ・ 小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・ 逆井孝仁他編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社，1990 年
- ・ テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店，1984 年
- ・ 藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年
- ・ 川口浩編『日本の経済思想世界』日本経済評論社，2004 年

経済思想演習（日本社会経済思想史演習）

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期と同じ

経済史演習

教 授 杉 山 伸 也

教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は、各自の研究報告と討論を中心にして、のこりの時間は『比較史のアジア－所有・契約・市場・公正－』（東京大学出版会，2004 年）を使用する。

成績は、授業での研究報告や討論への参加等を考慮し

て総合的に評価する。

経済史演習【経商連携 COE 科目】

教 授 杉 山 伸 也

教 授 古 田 和 子

教 授 柳 沢 遊

商学部助教授 牛 島 利 明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経商連携 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。2005 年度にひきつづき、今年度も、テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域のエネルギー産業、とくに石炭産業に焦点をあて、基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

古文書演習

教 授 友 部 謙 一

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本演習は、経済学研究科の設置科目であることを考慮して、古文書（とくに本演習では、近世以降を扱う）とは何であり、それらがどのようにどこに保存され、そしてそれらを利用する者がどのようにアプローチするのかというきわめて基本的なことがらに始まって、つぎに、古文書の読解を行い、そして、それを加工してデータに仕上げ、実際の社会経済史研究に利用するという、〈分析のための古文書利用〉に必要なプロセスをできるかぎり、実体験を通じて、確認することを目的としたい。したがって、日本経済史にかぎらず興味をもつ幅広い分野からの院生諸君に加わっていただきたい。最後に、実際の分析結果を各自で報告することにしたい。

授業内容：

以下の要領にて進めることにしたい。

1. 分析アジェンダの設定／必要史料の確定／基本的読解訓練
2. 史料所在の探索と確認
(ライブラリーワークも含める)
3. 所蔵地訪問／史料の確認／史料の複写・筆写・撮影
(一連の最低限のマナーを確認する。その際 historian としての必要な skill を身につける)
4. 史料の解読／読み合わせ (ねばり強く、地道な作業です)
5. データの作成と利用
(分析アジェンダならびに仮説とのすりあわせ／machine readable data の作成も視野において)

6. 分析

7. 報告レポートの作成

テキスト：

「古文書解読辞典」(何でもよいので、1 冊用意すること)

古文書演習

教 授 友 部 謙 一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本演習は、経済学研究科の設置科目であることを考慮して、古文書（とくに本演習では、近世以降を扱う）とは何であり、それらがどのようにどこに保存され、そしてそれらを利用する者がどのようにアプローチするのかというきわめて基本的なことがらに始まって、つぎに、古文書の読解を行い、そして、それを加工してデータに仕上げ、実際の社会経済史研究に利用するという、〈分析のための古文書利用〉に必要なプロセスをできるかぎり、実体験を通じて、確認することを目的としたい。したがって、日本経済史にかぎらず興味をもつ幅広い分野からの院生諸君に加わっていただきたい。最後に、実際の分析結果を各自で報告することにしたい。

授業内容：

以下の要領にて進めることにしたい。

1. 分析アジェンダの設定／必要史料の確定／基本的読解訓練
2. 史料所在の探索と確認
(ライブラリーワークも含める)
3. 所蔵地訪問／史料の確認／史料の複写・筆写・撮影
(一連の最低限のマナーを確認する。その際 historian としての必要な skill を身につける)
4. 史料の解読／読み合わせ (ねばり強く、地道な作業です)
5. データの作成と利用
(分析アジェンダならびに仮説とのすりあわせ／machine readable data の作成も視野において)
6. 分析
7. 報告レポートの作成

テキスト：

「古文書解読辞典」(何でもよいので、1 冊用意すること)

産業論演習

教 授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読を行う。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）のかか

わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化にかかわる問題についての文献である。第1回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後輪読する文献を決定する。

産業論演習

教授 寺 出 道 雄

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読を行う。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）のかかわりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化にかかわる問題についての文献である。第1回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後輪読する文献を決定する。

産業論演習

教授 渡 辺 幸 男

教授 北 村 洋 基

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

—現代資本主義と産業—

本演習では、現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら、主要には日本を対象として、現代資本主義の現段階把握、そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

春学期は主に現代産業経済の全体構造を検討する。

産業論演習

教授 渡 辺 幸 男

教授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

—現代資本主義と産業—

本演習では、現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら、主要には日本を対象として、現代資本主義の現段階把握、そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

秋学期は主に現代産業経済の分業構造を検討する。

産業組織論演習

教授 中 澤 敏 明

助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生が修士論文のテーマを模索し、プレゼンテーショ

ンの練習をする場を提供している。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1学期を通じて研究するテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のある論文などを選ぶ。輪番で行う。修士2年生については、修士論文作成のプロセスに合わせ仮説提示・関係論文解説・中間発表・完成論文発表を行うことを、選択できる。

授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることが望ましい。

テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R & D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Installed Base, Hedonic Price, Conjectural Variation, Network Effects, Tournaments 等がある。

産業組織論演習

教授 中 澤 敏 明

助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生が修士論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供している。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着

眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて研究するテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。修士2年生については、修士論文作成のプロセスに合わせ仮説提示・関係論文解説・中間発表・完成論文発表を行うことを、選択できる。

授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることが望ましい。

テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R & D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Semiconductor, Positioning, Tournaments, Promotion, Asymmetric Information, Procurement 等がある。

労働経済論演習

教 授 島 田 晴 雄
教 授 太 田 聰 一

授業形態：春学期2単位

目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。修士課程参加者は数多くの論文を読むことで、労働経済分野の一通りの基礎知識を獲得することを目指す。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.

- ・Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

労働経済論演習

教 授 島 田 晴 雄
教 授 太 田 聰 一

授業形態：秋学期2単位

目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。修士課程参加者は数多くの論文を読むことで、労働経済分野の一通りの基礎知識を獲得することを目指す。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- ・Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

社会政策論演習

助教授 山 田 篤 裕

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

一定のテーマを定めて、社会政策（特に社会保障）に関する内外の論文を輪読します。経済的格差や健康格差をテーマにしたいと考えています。暫定的に下記リストの論文のいくつかを取り上げようと考えています。ただし、どの論文を取り上げるかの詳細については受講者と相談して決めます。他研究科からの参加も歓迎します。

リーディング・リスト：

- ・Arrow, K. J., S. Bowles and S. N. Durlauf (eds.), *Meritocracy and Economic Inequality*, Princeton University Press, 2000
- ・Atkinson, A. B. and F. Bourguignon (eds.), *Handbook of Income Distribution (Vol.1)*, Elsevier, 2000
- ・Barr, N. (ed.), *Economic Theory and the Welfare State (International Library of Critical Writings in Economics Series)*, Edward Elgar, 2001

経済政策論演習

教 授 大 村 達 弥

授業形態：春学期・秋学期とも2単位・演習

目標・意義・方法：

担当者が担当する経済政策論（修士）・制度政策論特論（博士）の講義内容と関連したテーマを選択し、受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、法・政治システムとの関わりも含め経済政策学的視点から現

代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、情報通信産業における融合と再編、ネットワークのユビキタスな発展が産業構造の変化を促している点に着目して、関連する経済規制改革、ネットワーク外部性、電子商取引の理論的・実証的検討等を扱う予定である。また、必要に応じ、受講者自身の研究論文発表を随時組み込む。なお取り上げる文献については授業開始の時点で指定する（参考：昨年度も同様の趣旨で講義を行ったが、下記はその際に用いた文献の一部である）。

リーディング・リスト：

- ・ R. Crandall, *Competition and Chaos U.S. Telecommunications Since the 1996 TELECOM ACT*, Brookings Institution Press, 2005
- ・ N. Economides, *The Microsoft Antitrust Case*, New York University, CLB Working Paper, 2001

金融論演習

助教授 新井 拓 児

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理ファイナンスに関する英文テキストの輪読を行う。ファイナンス論、とりわけ金融派生商品の価格付け理論の基礎を理解することを目標とする。

授業内容：

履修者の知識や目的に合わせたテキストを選び、輪読を行う。場合によっては、計算機を用いた数値計算に関する演習も行う。

テキスト：

授業中に紹介する。

リーディングリスト：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

金融論演習

教 授 前 多 康 男

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、金融経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。

授業内容：

具体的なトピックスについては、以下の通りである。

1. 金融取引の機能について、2. リレーションシップ取引と市場取引、3. 間接金融、直接金融、市場型間接金融、4. 銀行の規律付け、5. 銀行の業務、6. 金融業に対する規制

リーディング・リスト：

授業中に適宜配付する。

金融論演習

教 授 前 多 康 男

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

金融論演習

教 授 吉 野 直 行

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

演習では、主要な論文・書物の輪読と、各自のテーマに沿った論文の発表を行い、修士論文・博士論文の作成を行う。テーマとしては、(i) アジアの為替制度、(ii) 最適通貨圏の理論、(iii) 中央と地方の政府資金の配分、(iv) 財政政策・金融政策の有効性に関する実証分析、(v) アジアの資金フローの変化と資本移動規制、(vi) プライマリー・デラー制の導入による日本国債市場の Volatility の変化、などのテーマを扱う予定。

リーディング・リスト：

- (i) Zhang Yuling edition, *Emerging East Asian Regionalism : Trend and Response*, World Affairs Press, 2004
- (ii) Ito Takatoshi and Yung-Chul Park, *Monetary and Financial Integration in East Asia : The Way Ahead*, Palgrave, Macmillan 2004
- (iii) Gordon de Brouwer and Masahito Kawai, *Exchange Rate Regime in East Asia*, Routledge Corzon, 2002
- (iv) Yoshino, Kaji and Ibuka *The Stabilization of an Open Economy with Capital Controls : An Analysis Using Malaysian Data* Asian Economic Papers (MIT Press) vol 3, No 2, 2003
- (v) Yoshino, Kaji and Suzuki *The Basket-peg, Dollar-peg and Floating Exchange Rate Regimes —A Comparative Analysis* Journal of the Japanese and International Economy Elsevier), vol 18, June 2004

そのほか、論文については、講義の中で紹介する。

金融論演習

教 授 吉 野 直 行

教 授 池 尾 和 人

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

授業内容：

財政・金融政策に関連する大学院生の論文作成に関する演習であり、内容としては、(i) 地方への資金配分とその要因分析、(ii) 金融機関の行動分析、(iii) 高齢化と日本の財政赤字、(iv) 景気変動とマクロ経済政策など

である。毎回、レジメを用意し、大学院生は作成している論文の内容に関して発表を行う。また、それぞれの分野における基礎的な論文を輪読する。

金融論演習【経商連携 COE 科目】

教 授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

21 世紀 COE による経済学部と商学部の連携により、大学院教育の充実を目的とした演習である。21 世紀 COE で実施しているパネルデータを大学院生が利用しながら、修士論文・博士論文の作成を行っている。(i) 家計行動に関する計量分析、(ii) 家計の金融資産選択行動の実証分析、(iii) 財政のサステナビリティに関するシミュレーション分析、(iv) ミクロデータを用いた金融行動に関する実証分析、(v) アジアの資金循環と為替レートなど、大学院生の論文発表を通じた演習を行う。経済学部と商学部の多数の教員による合同の演習であり、さまざまな角度からの議論が展開される。

リーディング・リスト：

1. Kydland and Prescott *Business Cycles : real facts and a monetary myth* FRB Minneapolis Review, 1990 : 3-18, 1990
2. King and Plosser *Real Business cycles and the test of the Adelmans* Journal of Monetary Economics, 1994
3. Calomiris and Gorton *The origin of banking panics* in R. G. Hubbard, ed. *Financial Markets and Financial Crisis*, (Chicago University Press) 109-173, 1991
4. Klevorick, Richter and Sorensen *Optimal Taxation with Household Production* Oxford Economic Papers 52, 584-594, 2000
5. Runkle, *Liquidity Constraints and the permanent-income hypothesis : evidence from panel data*, Journal of Monetary Economics 27 ; PP. 73-98, 1991

その他、講義の中で論文は説明する。

財政論演習

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この授業では原則として各履修者の論文発表と検討が中心となる。論文発表者がいない時は財政論の基本的文献の輪読を行う。

授業内容：

- ・各履修者の論文発表と検討
- ・財政論の基本的文献の輪読

(何を輪読するかは、授業の最初に相談して決める)

財政論演習

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

財政論演習

教 授 山 田 太 門

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

我々の経済学はもはや純粋な市場経済を分析することはできない。何らかの市場の失敗を修正する経済政策が施された混合経済しか存在しない。このような経済を公共経済とよび、この演習ではこの公共経済に関連した事象をさまざまな分析手法で検討することによって、分析手法自体の習得を目的とする。

我々の経済はかなりの速度でグローバル化している。それにともなう技術や制度の変化を公共性という観点と、選択行動という経済学的な定式化とによって捉えてみようと思っている。我々の経済の変化の本質的特徴と原因が何なのかを探索してゆきたい。

授業内容：

参加者は数冊の文献を輪読することによって思索し、討論することによって互いに啓発しあうことが求められ、同時並行的に各自の論文作成をすすめなければならない。

財政論演習

教 授 山 田 太 門

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

公共経済学演習

教 授 瀬 古 美 喜

教 授 マッケンジー、コリン

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

公共経済学演習

助教授 土 居 丈 朗

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

公共経済学，公共選択論，政治経済学の分野で，注目に値する論文を講読し討議するとともに，論文を執筆する履修者に対しては，論文の作成途上段階での発表や必要な助言を行うことを目的とする。この演習を通じて，対象分野の重要文献の内容を理解するとともに，論文執筆には論文指導を行う。

授業内容：

論文を講読する場合は，履修者の中から予め担当者を決めて，その論文の要約を発表してもらい，その後皆で討議する。履修者の中で執筆する論文を発表する場合は，作成途上の論文について発表してもらうとともに，討議や助言を行う。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

授業の進行に合わせて紹介する。

公共経済学演習

教 授 マッケンジー，コリン

助教授 グレーヴァ香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討議を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は，原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお，定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討議を行うことにより，セミナーの活性化をはかる予定である。

公共経済学演習

教 授 矢 野 誠

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

論文指導を行う。参加者は英語論文の作成，提出，および公共セミナーへの参加を義務づけられる。

公共経済学演習

教 授 矢 野 誠

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

日本経済論演習

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

日本経済，特に産業・企業に関する文献の輪読と，大学院生による研究発表を中心に行う。産業・企業に関する研究を進めていくために必要となる，方法論的な問題，分析視角，歴史的分析，現場感覚などについても適宜議論し，検討していく。

授業内容：

テキストの読解，現在取り組んでいる研究についての報告を中心とする。

テキスト：

第 1 回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

日本経済論演習

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

日本経済，特に産業・企業に関する文献の輪読と，大学院生による研究発表を中心に行う。産業・企業に関する研究を進めていくために必要となる，方法論的な問題，分析視角，歴史的分析，現場感覚などについても適宜議論し，検討していく。

授業内容：

テキストの読解，現在取り組んでいる研究についての報告を中心とする。

テキスト：

第 1 回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

国際経済論演習

名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際貿易論の理論的文献を展望・解説し，最近の重要トピックスをいくつか選んで，関連文献を講読するとともに学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

国際経済論演習

名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際金融論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスについて関連文献を講読する。併せて学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

国際経済論演習

教 授 嘉 治 佐保子

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

修士論文または博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献を紹介し、参考とする論文や自分の論文について順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学（Open economy macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

国際経済論演習

教 授 嘉 治 佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に続き、修士論文または博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献を紹介し、参考とする論文や自分の論文について順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学（Open economy macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

国際経済論演習

(1) 水曜日 3 時限 (2) 水曜日 4 時限

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新のテーマに触れる。最終的には論文を仕上げることを目標とする。

授業内容：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新の学術論文を輪読する。2 コマ連続で行なうので履修者は注意されたい。金融のミクロ的構造とマクロ経済学の相互作用のメカニズムについて理解を深めることを念頭に置いた内容とする。この分野は理論だけやっても意味がないので実証の論文も適宜読む。

テキスト：

- ・ Blanchard and Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press
- ・ D. Romer, *Advanced Macroeconomics*, McGraw-Hill
- ・ Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press
- ・ Dewatripont and Tirole, *The Prudential Regulation of Bank*, MIT Press
- ・ 櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

リーディング・リスト：

追って指示する。

国際経済論演習

教 授 高 梨 和 紘

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

基本的には、修士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。しかし修士 1 年生に対しては、そのための基礎的学習や分析の方法・方向についての指導に重点をおいていきたい。具体的な方法としては、その中心を履修する学生達の報告とそれをめぐる討論・指導におきたい。ここでは国際経済論と国際政治経済論および経済発展論とアジアを中心とする地域研究に重点をおく。

授業内容：

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加指導を行う形で演習を進めたい。

テキスト：

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示・配付する。

国際経済論演習

教 授 高 梨 和 紘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

国際経済論演習

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

指定されたテキストの輪読を通じ、国際金融論の分析手法を学ぶが、その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え、また修士論文の指導をする。

テキスト：

- ・ M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

国際経済論演習

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易あるいは技術革新・R&D に関連して、修士論文作成の指導・研究を行う。

授業内容：

各学生が関心を有する分野に関する諸文献を報告してもらい、作成する論文に関連する先行研究をサーベイする。

また、各自が取り組んでいる論文についても順次報告してもらい、論文指導を行う。

テキスト：

参照する文献・論文等に関しては、適宜指定する。

国際経済論演習

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

都市経済論演習

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には、理論的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関す

る論文指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・ Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- ・ J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- ・ Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001 年)
- ・ Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- ・ Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- ・ *Regional and Urban Economics*, Part1, Part2, Harwood and Academic Publishers, 1996
- ・ Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J-Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)
- ・ M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- ・ 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)
- ・ 中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996 年
- ・ 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社, 1998 年
- ・ 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997 年

環境経済論演習

教 授 細 田 衛 士

教 授 大 沼 あゆみ

専任講師 (有期) 河 田 幸 視

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習においては、環境経済論の理解を促進し、より発展した水準の内容にまで到達できるようにすることを目的とする。

授業内容：

次のような内容を持った原著論文から適宜選択して読む予定である。具体的にどのような論文を読むかは、授業の開始前に提示する予定である。

1. 廃棄物の処理・再資源化に関する理論・実証分析。
2. デポジット制度など、回収に関する理論・実証分析。
3. グリーン・デザインや拡大生産者責任に関する理論分析。
4. 物質フローの制御問題に関する理論分析。
5. 生態系や種の多様性についての理論・実証分析。
6. 汚染物質制御に関する理論・実証分析。(水質汚染,

大気汚染、土壌汚染などをモデル化したものあるいは実証的に扱ったもの。)

7. 環境問題を所有権の観点から扱った分析。
8. 排出権売買の静学的および動学的理論分析。
9. 枯渇性資源の最適利用に関する理論・実証分析。
10. 再生可能資源の最適利用に関する理論・実証分析。

本演習は、環境経済論の基礎知識を有していることが前提となる。

なお、学会・セミナー発表用の論文が完成あるいは準備できた場合、その論文をこの演習で報告することもあり得る。発表を希望するものは、担当教員に申し出ること。

リーディング・リスト：

授業中に配布する。

環境経済論演習（環境政策）

講 師 山 口 光 恒

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の春期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

今年度は春秋とも温暖化問題に集中する。講義内容は履修者の知識を見て決める。京都議定書が発効したがここで規定しているのは 2012 年までであり、今後の国際交渉のテーマの重点はそれ以降（ポスト京都議定書）の枠組みに移っている。こうした中で春学期は日本の京都議定書達成に向けての政策評価を行った上で、ポスト京都の枠組みを中心に論議を進める。

テキスト：

- ・ *Building on the Kyoto Protocol, Options for Protecting the Climate*, ed. by K. A. Baumert et al, WRI, 2002
- ・ *Beyond Kyoto, Advancing the international effort against climate change* Joseph E. Aldy et al. Pew Center, 2003
- ・ 日本国政府『京都議定書目標達成計画』2005 年 4 月
- ・ 産業構造審議会『気候変動に関する将来の持続可能な枠組みについて』2004 年 11 月 等
- ・ *Near-term technology policies for long-term climate targets-economy wide versus technology specific approaches*, Bjorn A. Sand!ena and Christian Azar, Energy Policy 33, 2005
- ・ *Stabilization Wedges : Solving the Climate Problem for the Next 50 Years with Current Technologies*, S. Pacala and R. Socolow, Science, Vol.305, 13 August 2004 等

リーディング・リスト：

適宜指示する。

環境経済論演習（環境政策）

講 師 山 口 光 恒

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の秋期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

技術開発・革新がなくては地球規模での有効な温暖化対策は不可能である。ではそのような技術はどのようなものか、また、そうした技術開発を可能にする対策とはどのようなものか。更に Technology Lock-in 対策はあるのか。秋学期はこうした問題意識の下に代表的文献によりつつ議論を深める。更に国際共同執筆が進行中の IPCC の作業にも注目し、その中で技術の扱いの動向も追う。

テキスト：

- ・ *Near-term technology policies for long-term climate targets-economy wide versus technology specific approaches*, Bjorn A. Sand!ena and Christian Azar, Energy Policy 33, 2005
- ・ *Stabilization Wedges : Solving the Climate Problem for the Next 50 Years with Current Technologies*, S. Pacala and R. Socolow, Science, Vol.305, 13 August 2004
- ・ Gritsevsky A., and N. Nakicenovic, *Modelling uncertainty of induced technological change.*, In : Grubler, A., Nakicenovic, N., Nordhaus, W. D. (eds). Technological change and the environment. Resources for the Future, Washington DC, USA, 2002
- ・ マイケル・グラブ『技術革新と温暖化政策：エネルギー部門の技術開発における論点と対策オプション』三田学会雑誌 98 巻 2 号, 2005 年 7 月 他

リーディング・リスト：

都度指示する。

社会史演習（生活環境の社会史）

教 授 友 部 謙 一

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこでの世帯員のバーゲニングパワーがかれらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴

史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

授業内容：

演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18世紀から20世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基本的な文献について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている19世紀後半から20世紀前半の日本に残された伝染病流行に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

社会史演習（生活環境の社会史）

教 授 友 部 謙 一

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：
春学期参照。

社会史演習

教 授 松 村 高 夫
教 授 矢 野 久
教 授 倉 沢 愛 子
教 授 清 水 透
教 授 金 子 勝

授業形態：春学期2単位・合同演習

授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

教員（担当者）は毎回の授業に全員出席するが、主として院生による報告とそれに基づく討論を重ねていく。担当者の専門には限定されないような仕方で運営していきたい。活発な議論を通して参加者各自の研究が刺激されることが望まれる。

成績評価方法は、平常点（出席状況および授業態度に

よる評価）とする。

社会史演習

教 授 松 村 高 夫
教 授 矢 野 久
教 授 倉 沢 愛 子
教 授 清 水 透
教 授 金 子 勝

授業形態：秋学期2単位・合同演習

授業内容：
春学期の継続。

人口論演習

教 授 津 谷 典 子

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

本演習は、人口学および経済学で近年よく行われる個票データを用いた様々な多変量解析（multivariate analysis）の手法について、実際の応用例を多数検討することにより、各モデルの意味、用途、および長所と短所、さらに変数の構築などについて学ぶことを目的とする。具体的には、最近刊行された学術論文を読み、そこで用いられている分析モデル、データ、変数の構築について検討し、そして分析・推計結果の意味を解釈・理解する。講読の対象となる学術論文は、講師があらかじめ選択・準備し、そのリーディング・リストを第1回目の授業時に配布する。

授業はまず、学生諸君の中から各週1名が論文内容についてのレジュメをあらかじめ準備し、クラスで報告する。次いでそれについてのクラス討論とクラス全体での質疑応答を行い、最後に講師が説明とまとめを行う。

授業内容：

本演習で取り扱う多変量解析モデルは、Linear causal models と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- ① Ordinary least-square multiple regression model
- ② Multiple classification analysis (MCA)
- ③ (Binary) Logistic regression model
- ④ Ordered logit/probit model
- ⑤ Multinomial logit model
- ⑥ Cox proportional hazard model
- ⑦ Time-dependent hazard model

また、本演習では、モデルに使用される変数についても、その構築方法（プロセス）だけでなく、多重線形性（multi-collinearity）、内生性（endogeneity）、同時性（simultaneity）などの問題点についても説明・検討する。さらに、学生諸君が各自の研究において使用することができる内外の個票データについて学ぶため、各学術論文の分析で使用されているデータの内容について、入手方法も含め紹介

する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

第1回授業時に配布する。

社会科学分析演習（Ⅰ）

教授 津谷典子

助教授 山田篤裕

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

本演習は（Ⅰ）（Ⅱ）の2つからなり、時間割上連続している。したがって、本演習を受講する学生は、（Ⅰ）と（Ⅱ）の両方を受講する事が望ましい。（Ⅰ）では、計量分析モデルの説明や使い方などについての説明だけでなく、変数とは何か、データ収集のためのサンプリングのロジック、変数の構築の仕方など、社会調査法の基本についても解説する。また、本演習では、統計分析のためのソフトウェアとしてSTATAを用いるが、この統計分析ソフトについても、（Ⅰ）でそのロジックを説明する。次に（Ⅱ）では、その週の（Ⅰ）で説明・解説したトピックや分析モデルについて、STATAを用いて実際にデータ分析を行う。この分析演習のためのデータは、人口学および労働経済学の分野のサーベイ調査の個票データを、加工して使用させる。また、多変量解析のためのフラット・ファイルの作り方についても手ほどきをする。さらに、学生個人の研究テーマに関して、分析モデルやデータの所在、および分析のためのファイルの作り方などについて適宜アドバイスする。修士論文を執筆中、もしくはそのためのプロポーザルを準備中の学生諸君の受講を特に歓迎する。

授業内容：

本演習で扱う多変量解析モデルは Linear causal models と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- (1) Ordinary least-square multiple regression model
- (2) Binary logit/probit model
- (3) Multinomial logistic regression model
- (4) Ordered logit/probit model
- (5) Cox proportional hazard model
- (6) Time-dependent hazard model

テキスト：

・STATA Statistical Software Release 9 User's Guide & Reference Manual

リーディング・リスト：

- (1) Babbie, Earl B., *The Practice of Social Research*, 6th Edition, Wadsworth Publishing
- (2) Greene, William H., *Econometric Analysis*, 4th Edition, Prentice Hall

- (3) Retherford, Robert R. and Minja Kim Choe., *Statistical Models for Causal Analysis*, John Wiley & Sons.

社会科学分析演習（Ⅱ）

教授 津谷典子

助教授 山田篤裕

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

「社会科学分析演習（Ⅰ）」参照。

産業社会論演習

教授 金子勝

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

産業社会にかかわる諸問題を、理論的制度的に考察する。

授業内容：

今年度は、日本における経済格差問題について考察する。年金・介護・雇用問題など具体的問題を取り上げながら。

テキスト：

経済政策に関する文献を対象に、参加者と相談して決定する。

リーディング・リスト：

- ・神野直彦・金子勝『「福祉政府」への提言』岩波書店
- ・ジョン・ロールズ『公正としての正義再説』岩波書店

産業社会論演習

教授 金子勝

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

日本経済の現状と経済政策について、テキストを取り上げつつ議論する。

授業内容：

本年度は、つぎの2つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、財政赤字と財政政策にかかわる諸問題。いま一つは、三位一体改革と地方分権にかかわる諸問題である。この2つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

テキスト：

参加者と相談して決めたい。

リーディング・リスト：

- ・金子勝『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会
- ・神野直彦・金子勝編『財政崩壊を食い止める』岩波書店
- ・神野直彦・金子勝『地方に税源を』東洋経済新報社

プロジェクト科目

プロジェクト（東アジアスタンダードの創造）

教授 松村 高夫

教授 高草木 光一

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

本年度は、「東アジア・スタンダードの創造」を統一テーマとする。

近年、靖国問題、教科書問題、戦後補償問題、領土問題等を通して、近隣諸国家では「反日」の機運が高まっている。中国や韓国の主張と日本の主張との間の捩れはどこに起因するのか、どこまで共通の歴史認識をもつことが可能なのか、それを検証することを第一の課題とする。また、共通の歴史認識の上に立って、グローバル・スタンダードに対抗しうるような東アジア・スタンダードを発信することができるのか、という課題をも設定したいと考える。

韓国・中国からそれぞれ代表的な歴史家、思想家を招き、日本側の主張と対決させ、問題の深部を抉り出す手法を採る。学生諸君の積極的な参加を希望する。

経済学部設置「現代社会史」（金曜日2,3時限）も必ずあわせて受講すること。

授業内容：

第1回 4月14日

東アジアと日本——どこに問題があるのか？

寫信彦（ジャーナリスト）・大村次郷（フォトジャーナリスト）

第2回 4月21日

日本経済の未来と東アジア

藤原作弥（日立総合計画研究所取締役社長・前日本銀行副総裁）・金子勝（慶應義塾大学経済学部教授）

第3回 4月28日

国際政治の観点からみた東アジアと日本

加藤紘一（衆議院議員）・田中秀征（政治評論家・福山大学経済学部教授）

第4回 5月12日

日中関係をどう捉えるか(1) 近現代日中関係史

歩平（中国社会科学院近代史研究所長）・江田憲治（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

第5回 5月19日

日中関係をどう捉えるか(2) 毒ガス・細菌戦と731部隊

歩平・松村高夫（慶應義塾大学経済学部教授）

第6回 5月26日

日中関係をどう捉えるか(3) 教科書問題と歴史認識

歩平・渡辺春己（弁護士）

第7回 6月2日

東アジアの過去・現在・未来

歩平・池明観（元東京女子大学教授）

第8回 6月9日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(1) 日本人のアジア認識

池明観・子安宣邦（大阪大学名誉教授）

第9回 6月16日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(2) 韓国併合の虚実

池明観・海野福寿（明治大学名誉教授）

第10回 6月23日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(3) 戦後の日韓関係

池明観・杉原達（大阪大学大学院文学研究科教授）

第11回 6月30日

日本の選択(1) 日本国憲法と日本の役割

土井たか子（元衆議院議長・前社会民主党党首）・小川和久（軍事アナリスト）

第12回 7月7日

日本の選択(2) 天皇制と民主主義

鈴木邦男（一水会顧問・評論家）・加藤哲郎（一橋大学大学院社会学研究科教授）

第13回 7月14日

日本の選択(3) どこに思想の基点を置くか

総括フォーラム

博士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

学則に示される科目名（具体的な科目名）＊１	担当者名
1. 授業形態＊２ 2. 当科目の目標・意義・方法 3. 授業内容 4. テキスト 5. リーディング・リスト }＊１	

＊１：（ ）内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

＊２：本書作成後に変更される場合もありますので、時間割及び掲示を参照してください。

注：同一名称の科目については、担当者名五十音順で並べられています。

特 論 科 目

ミクロ経済学特論（ゲームの理論）

名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：春学期 2 単位

目標・意義・方法：

ゲーム理論の上級の基本的文献を理解し、最近の発展について議論する。

リーディング・リスト：

- R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory, Vols. I, II and III*.

ミクロ経済学特論

教 授 塩 澤 修 平

助教授 玉 田 康 成

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学特論（個別経済主体の行動）」に引き続き、ミクロ経済学の理論について講義する。

授業内容：

1. 競争均衡の存在，局所的一意性，安定性
2. 厚生経済学の基本定理
3. 競争均衡とコア

テキスト：

- Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

ミクロ経済学特論（都市経済論）

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析，住宅市場と住宅問題，都市における集積と規模の経済，都市の成長，都市交通などに関する文献を取り上げ，検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

- Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th

edition, Scott, Foresman & Co., 1994

- Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社，2001 年）
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher
- M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』東洋経済新報社）
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）
- 中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社，1996 年
- 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社，1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社，1997 年

ミクロ経済学特論（個別経済主体の行動）

教 授 中 村 慎 助

教 授 須 田 伸 一

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

学部レベルのミクロ経済学を修了している学生を対象にして、消費者行動，生産者行動の基本的性質について講義する。

分析用具としては凸解析および線形代数の初歩を用いる。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の意思決定

リーディング・リスト：

- A. Mas-Colell, M. D. Whinston, and J. R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

ミクロ経済学特論（ゲームの理論）

教 授 中 山 幹 夫

名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：秋学期 2 単位

目標・意義・方法：

春学期参照。

リーディング・リスト：

- S. Hart and A. Neyman, eds., *GAME AND ECONOMIC*

THEORY, MICHIGAN, 1995

・ R. J. Aumann, *Collected Papers* vol.1, 2, MIT Press, 2000

ミクロ経済学特論（ゲームの理論）

教 授 中 山 幹 夫

助教授 グレーヴァ香子

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、産業組織理論を中心とした経済分析に使われる中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム
 - (a) 復習: ナッシュ均衡, 部分ゲーム完全均衡, フォーク定理, 契約
 - (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
 - (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡, 逐次均衡とその応用
 - (d) 進化ゲーム
2. 協力ゲーム
 - (a) TU ゲームとその応用: コア, 安定集合, 交渉集合, カーネル, 仁
 - (b) NTU ゲームとその応用: λ -transfer value, 市場ゲーム
 - (c) 提携戦略形のゲーム: 強均衡, coalition-proof ナッシュ均衡
 - (d) コア分析: アルファコア, ベータコア, 自己拘束的戦略, 優位懲罰戦略など
 - (e) Scarf の定理と純粋交換ゲーム, NTU 市場ゲーム

リーディング・リスト：

1. 中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房, 2005 年
2. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996 年
3. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
4. Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994

マクロ経済学特論

教 授 前 多 康 男

助教授 白 井 義 昌

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

マクロ経済の諸問題を扱う基本的なモデルとしてはいくつかの型がある。時間の取り扱い方で離散型と連続型に分かれ、対象とする期間の長さによって、有限期のモデルと無限期のモデル、また基本的な枠組みで世代重複モデル、無限期まで生きる経済主体のモデル等に分かれ

る。マクロ経済学上級では、世代重複モデルと無限期まで生きる経済主体のモデルの離散型のモデルを講義するが、特に、モデルの基本的な構造に焦点を置く。講義の目的は、世代重複モデルや無限期まで生きる経済主体のモデルの基本的な枠組みを理解し、実際のモデル構築に自在に理論を使用できるようになることにある。また、そのための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とするが、主にモデルの使い方が講義の主な内容であり、高度に数学的な講義にはならない。したがって、履修者の数学的なバックグラウンドとしては、基本的な微分・積分に関する知識を想定している。特に、政府の政策が資源配分に与える影響について、講義の重点が置かれる。受講者には、積極的に学習する態度が望まれる。

授業内容：

内容として以下を含む。

1. 経済環境の描写
2. 競争均衡
3. 政府の導入
4. 新古典派成長モデル
5. 貨幣モデル

テキスト：

講義前半のテキスト：マッキヤンドレス・ウォレス著、川又・國府田・酒井・前多訳『動学マクロ経済学』創文社、1994 年（原書：*Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard）（注：2 刷りで 1 刷りのタイプミスが訂正されている）。

講義後半のテキストは、授業開始時に知らせる。

リーディング・リスト：

- ・ Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993
- ・ Sargent, T. J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987
- ・ Roger E. A. Farmer, *Macroeconomics of Self-fulfilling Prophecies* (Second Edition), MIT Press, 1999
- ・ Stokey, N. L. and R. E. Lucas, *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard, 1989

マクロ経済学特論

教 授 矢 野 誠

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

マクロ経済学に関する数学的分析手法を検討する。

授業内容：

1. 消費者の行動における動学的最適化
2. 企業の行動における動学的最適化
3. 動学的均衡の経路
4. 非線型動学と経済変動
5. 確率過程と経済変動
6. 確率的モデルと決定論的モデル

数理経済学特論（Ⅰ－A）

教 授 丸 山 徹
特別招聘教授 A . l o f f e

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

経済分析にあられる変分法と凸解析の基本問題

数理経済学特論（Ⅰ－B）

教 授 丸 山 徹

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

数理経済学特論（Ⅰ－A）の続論。

数理経済学特論（Ⅱ）

講 師 高 橋 明 彦

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。

授業内容：

条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・
数値的話題を講義する。

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

授業中に指示する。

計量経済学特論（パネルデータの計量経済学）

【経商連携 COE 科目】

教 授 清 水 雅 彦
助教授 宮 内 環
助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証
分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に
関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構
築に向けて—」の連携科目として設置され、商学研究科
の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成教授）と
合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータの特徴と既存のパネルデータ
- 2 資料発生機構、構造、識別、統御実験
- 3 通常最小二乗法の前提と推定量の性質
- 4 観測されない変数を含む線形モデル
一般化最小二乗法と実行可能一般化最小二乗法
ランダム効果と固定効果

1 元配置と 2 元配置

特定化検定

5 パネルデータモデルと一般積率法

6 漸近理論と最尤推定法

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学
との関連について述べたタームペーパーを提出してもら
う。

テキスト：

・ Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric
Theory*, Oxford University Press

リーディング・リスト：

・ Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section
and Panel Data*, MIT Press

・ Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley

・ 小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

計量経済学特論（パネルデータの計量経済学）

【経商連携 COE 科目】

教 授 清 水 雅 彦
助教授 宮 内 環
助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証
分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの授業は、21 世紀 COE プログラム「市場の質に
関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構
築に向けて—」の連携科目として設置され、商学研究科
の「計量経済学」（修士課程）（担当は新保一成教授）と
合同で行う。

授業内容：

授業の計画

- 1 パネルデータと不均一分散
- 2 パネルデータと系列相関
- 3 パネルデータと多変量回帰
- 4 パネルデータと同時方程式体系
- 5 離散的選択モデル
- 6 打ち切りデータと切断データ
- 7 動学的パネルデータ分析
- 8 その他のパネルデータに関する話題

不完全パネルデータ、擬似パネルデータ、非定常パネ
ルデータなど

春学期と秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学
との関連について述べたタームペーパーを提出してもら
う。

テキスト：

- Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometric Theory*, Oxford University Press
- リーディング・リスト：
- Jefferey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press
- Badi H. Baltagi, *Econometric Analysis of Panel Data*, Wiley
- 小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

計量経済学特論

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めること、同時に高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために、数回パソコンによる演習を行う。

授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
 - a. 行列代数
 - b. 条件付き期待値
 - c. 漸近理論
2. モメント法による推定・仮説検定
 - a 標準的回帰モデルと最小自乗法 (OLS)
 - b 操作変数法 (IV)・2 段階最小自乗法 (2SLS)
 - c 一般化最小自乗法 (GLS)
 - d 診断検定 (過剰識別テスト, 外生性のテストなど)
3. LIMDEP による計量分析
4. 他の推定方法
 - a M ー推定
 - b 最尤法 (ML 法)
 - c GMM 法
5. 時系列分析
 - a 単位根検定
 - b 共和分分析
 - c 誤差修正モデル

実証分析のために、LIMDEP8.0 という計量ソフトを利用し、演習を行うが、LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。

テキスト：

- Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA, 2002
- Greene, W.H., *Econometric Analysis, 5th edition*, Prentice Hall, Upper Saddle River, NJ, 2003

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

計量経済学特論

教 授 マッケンジー, コリン

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

経済学史・思想史特論

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

明治 10 年代までの福沢諭吉の経済思想について考察する。福沢の思想については、政治・社会思想の面からの論著が多く、経済思想として考察したものは少ない。この点は、福沢が経済の重要性を常に説いていたことを考慮すれば、意外の感をまぬかれない。この研究史の状況が、なぜ生じているのかという点を含めて、この講義では、福沢の代表的著作ばかりでなく、『時事新報』社説をもできるだけ検討しながら、福沢の経済思想を再構成してみたい。また検討にあたっては、経済に関する福沢の言説を並べるだけではなく、常に、その背後にある、人間観・人生観・社会観と経済思想との関連を考慮したい。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- 藤原昭夫『福沢諭吉の日本経済論』日本経済評論社、1998 年
- 千種義人『福沢諭吉の経済思想』同文館、1994 年
- 安西敏三『福沢諭吉と西欧思想－自然法・功利主義・進化論』名古屋大学出版会、1995 年
- 杉山忠平『明治啓蒙期の経済思想－福沢諭吉を中心に』法政大学出版局、1986 年
- 高橋誠一郎『福沢諭吉 人と学説』長崎出版復刻版、1976 年
- 小泉信三『福沢諭吉』岩波新書、1966 年

経済学史・思想史特論

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

明治 20 年代以降における福沢諭吉の経済思想について考察する。福沢の思想については、政治・社会思想の面からの論著が多く、経済思想として考察したものは少ない。この点は、福沢が経済の重要性を常に説いていたことを考慮すれば、意外の感をまぬかれない。この研究史の状況が、なぜ生じているのかという点を含めて、この講義では、福沢の代表的著作ばかりでなく、『時事新報』社説をもできるだけ検討しながら、福沢の経済思想を再構成してみたい。また検討にあたっては、経済に関する

福沢の言説を並べるだけではなく、常に、その背後にある、人間観・人生観・社会観と経済思想との関連を考慮したい。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・藤原昭夫『福沢諭吉の日本経済論』日本経済評論社，1998年
- ・千種義人『福沢諭吉の経済思想』同文館，1994年
- ・安西敏三『福沢諭吉と西欧思想－自然法・功利主義・進化論』名古屋大学出版会，1995年
- ・杉山忠平『明治啓蒙期の経済思想－福沢諭吉を中心に』法政大学出版局，1986年
- ・高橋誠一郎『福沢諭吉 人と学説』長崎出版復刻版，1976年
- ・小泉信三『福沢諭吉』岩波新書，1966年

経済学史・思想史特論

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

トクヴィルの思想を中心に、民主主義の問題点を考察する。

授業内容：

トクヴィル『アメリカの民主主義』および仏語・英語・邦語の研究文献を題材に用いる。必要に応じて、参加者にはリポーターの役割を果たしてもらう。

テキスト：

- ・Alexis de Tocqueville, *De la démocratie en Amérique*, Paris, 1835-40, nouvelle édition historico-critique revue et augmentée par Edouard Nolla, Paris: Vrin, 2vols, 1990
- ・松本礼二訳『アメリカのデモクラシー』（岩波文庫）

リーディング・リスト：

- ・トクヴィル（小山勉訳）『旧体制と革命』ちくま学芸文庫，1998年
- ・トクヴィル（喜安朗訳）『フランス二月革命の日々－トクヴィル回想録』岩波文庫，1988年

経済史特論（日本経済史）

教 授 杉 山 伸 也
教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期以降、現代にいたるまでの日本経済の変遷について概観する。テキストは、田村均『ファッションの社会経済史』（日本経済評論社）を使用する予定である。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係につい

て、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

経済史特論（日本経済史）

教 授 杉 山 伸 也
教 授 柳 沢 遊

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済に関する研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行なう。特定のテキストは使用せず、受講者の関心にあわせた論文を適宜選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

経済史特論

教 授 古 田 和 子

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

19世紀後半から20世紀前半における東アジアおよび東南アジアの社会経済構造を、アジア間貿易・植民地経済・アジア域内労働力移動の観点から検討していく。研究文献の整理を通して、先行研究による成果と残された課題について考察を深め、具体的な研究対象を設定する作業を進める。

経済史特論

教 授 矢 野 久
助教授 飯 田 恭
助教授 崔 在 東

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる個別の具体的な歴史事象を、社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は、およそ次の通りである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 家族・親族・共同体と個人主義

4. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

経済史特論

教 授 矢 野 久
助教授 飯 田 恭
助教授 崔 在 東

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：
春学期参照。

制度・政策論特論

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：
この授業は学部時代に財政論を履修しなかった諸君のために行われる。したがって授業内容は原則として学部の授業と同じであるが、少人数であることを利用して討論も混じえて進めたいと考えている。

授業内容：

1. 財政論の種類
2. 財政論の周辺領域
3. 政府の仕事
4. 公共財
5. 日本の税制、特に所得税
6. 法人税（国際課税も含む）

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・『図説・日本の財政』東洋経済新報社
- ・『図説・日本の税制』財経詳報社

制度・政策論特論

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：
この授業は学部時代に財政論を履修しなかった諸君のために行われる。したがって授業内容は原則として学部の授業と同じであるが、少人数であることを利用して討

論も混じえて進めたいと考えている。

授業内容：

7. 日本の消費税
8. 公債の理論
9. 日本の社会保障制度
10. いわゆるフィスカル・ポリシー
11. 環境税

（春学期予定通り進まなかった場合にはその続きから始める可能性有）

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

- ・『図説・日本の財政』東洋経済新報社
- ・『図説・日本の税制』財経詳報社

制度・政策論特論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

バブル経済崩壊後の日本経済では、1980 年代に Japan as No.1 と評されたさまざまなシステムが有効に機能せず、日本的な経済システム、日本的な企業システムはグローバル競争と IT 化によってもはや陳腐化したとも言われてきた。その一方で、一部の企業は着実に国際競争力を高め、世界トップに踊り出ようとしているところもある。こうした 1990 年代以降の日本経済の変化や日本企業の現状をどのように把握するのか、特に評価がまったく逆転してしまった 80 年代と整合性を持たせながら、一貫した論理で、90 年代、21 世紀の日本経済の状況を描いていけばよいのかは、重要な問題である。

本講義では、こうした問題について、産業、企業、地域、国際化などをキーワードに検討していく。

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

- ・工藤章他編『現代日本企業』（全 3 巻）有斐閣、2005～06 年を取り上げる。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

制度・政策論特論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

問題意識は春学期の内容を引き継ぎ、秋学期ではさらにより個別の問題に踏み込んで検討していく。取り上げたいテーマとしては次のようなものと考えている。

- ・日本の製造業の今後 アーキテクチャ論、国際分業、グ

ローバル競争などをキーワードに

- ・ 中小企業と地域経済 産業集積，クラスター，創業支援などをキーワードに
- ・ 2007 年問題への対応 少子高齢化，非正規雇用，年金，技能伝承などをキーワードに
- ・ その他

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

第 1 回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

制度・政策論特論

教 授 太 田 聰 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目では，中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく，労働市場は労働サービスが取引される場であるが，需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化するきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり，魅力的であるといえる。この講義の目的は，将来労働市場の研究を志したり，他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

また，博士レベルの受講者にとって既存の知識の整理に役立つように心がけるとともに，未だ必ずしも充分に解決されていない将来の研究課題を提示したい。

授業内容：

春学期においては，労働者および企業の主体的行動に分析の焦点を当てる。市場機能のより詳細な検討は秋学期の課題となる。

1. 労働供給（静学モデル）
2. 労働供給（動学モデル）
3. 労働供給の実証分析
4. 労働需要（静学モデル）
5. 労働需要（動学モデル）
6. 労働需要の実証分析
7. 教育訓練と人的資本の経済分析
8. 組織内インセンティブの諸問題

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

制度・政策論特論

教 授 太 田 聰 一

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目では，中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく，労働市場は労働サービスが取引される場であるが，需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化するきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり，魅力的であるといえる。この講義の目的は，将来労働市場の研究を志したり，他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

また，博士レベルの受講者にとって既存の知識の整理に役立つように心がけるとともに，未だ必ずしも充分に解決されていない将来の研究課題を提示したい。

授業内容：

1. 労働市場の均衡と賃金格差
2. 賃金交渉モデル
3. 効率賃金仮説
4. 賃金の下方硬直性－実証分析の系譜
5. ミスマッチと失業
6. 均衡サーチモデル
7. 労働市場におけるフロー分析
8. 経済成長と労働市場

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

制度・政策論特論

教 授 大 村 達 弥

授業形態：春学期，秋学期とも 2 単位・講義

目標・意義・方法：

講義の目標は，変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ，法・政治システムとの関わりも含め経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては，情報通信産業における融合と再編，ネットワークのユビキタスな発展が産業構造の変化を促している点に着目して，関連する経済規制改革，ネットワーク外部性，電子商取引の理論的・実証的検討等を扱う予定である。なお取り上げる文献は授業開始の時点で指定する。（昨年度も同様の趣旨で講義を行ったので参考のため用いた文献の一部を下記に掲げる）

リーディング・リスト：

- ・ B. Cunningham and P. Alexander, *A Theory of Broadcast Media Concentration*, Journal of Public Economic Theory, 6 (4), 2004
- ・ A. Faure-Grimaud and D. Martimort, *Regulatory inertia*, RAND, 2003

制度・政策論特論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視角から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

制度・政策論特論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視角から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

制度・政策論特論

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の英語の学術論文を読む。「国際経済論特論」と 2 コマ続けて行う。

テキスト：

なし。初回にリーディングリストを渡す。

リーディング・リスト：

初回にリーディングリストを渡す。櫻川昌哉『金融危機の経済分析』（東京大学出版会）を参考書として適宜使う。

制度・政策論特論

教 授 島 田 晴 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済の制度と政策に関する主要なテーマを選んで、概説を行うとともに、関連文献を読み、参加者の興味も勘案して議論を深める。

制度・政策論特論

教 授 島 田 晴 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

制度・政策論特論

教 授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この講義では、農業経済論の領域から大きく 2 つの問題をとりあげて概観する。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）の係わりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化に係わる問題である。この 2 つの話題は、それぞれ農業経済論の新たな研究課題と伝統的な研究課題であり、相互に十分に連続した問題として講義することは困難であるが、研究課題が大きく変わっていつているなかで、農業経済論の概観を得るためには、双方にふれる必要があると考える。

授業内容：

前者については、1. 植物の物質生産と農業 2. 農法・農業技術の変化 3. 再生可能資源の利用 4. 現代の農業技術等の話題を、

後者については、1. 農民層分解 2. 農工間の労働力移動 3. 農産物の不足と過剰 4. 現代の農業政策等の話題を取り上げる。

リーディング・リスト：

講義の全体をカバーする文献はないので、授業中に参考文献を指示する。なお、後者の話題では、速水佑次郎他『農業経済論』（岩波書店、2002 年）に言及することが多い。

制度・政策論特論

教 授 中 澤 敏 明

助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

このコースは、産業組織論の分野全体について広く紹介することを課題とせず、産業組織論の実証分析をレビューすることを通じて、組織論の 3 分割法でいえばとくに構造・行動に焦点をあてて、事実発見・理論検証を行うことを直接的に目的としている。中澤・河井 2 名で毎週交代しながら、一方が講義し他がコメントを加え質疑する。典

型的には、実証分析の中で主要な先行研究を紹介し相互比較しながら論じ、扱われている争点が産業組織論の進展の系譜の中で占める位置・研究が明らかにした点・問題点・今後に残された課題などを紹介する。必要に応じて、実証分析にかかわる基本的な理論をレビューする。昨年の例（春）では、中澤が産業組織論の実証分析にかかわるレビューをし、コーポレート・ガバナンスにかかわる論文を紹介した。河井はプライスコストマージン・推測的変動・製品差別性と参入を中心とする市場構造・行動にかかわる実証分析を扱った。今年度も、コーポレート・ガバナンスと市場競争との関係についての理論的研究を基礎にして、これにかかわる実証分析に進む予定である。河井は、市場参入にかかわる実証研究を、特にニュー・エンピリカル I O のアプローチの系譜にウエイトを置きながらサーベイする。

秋学期の説明も参照されたい。

授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。河井は Market Power や参入に力点をおいて講義。

Market Power の論文を例示すると、

1. New Empirical Industrial Organization
2. Early Studies: Conduct Parameter Models
3. Some Developments on Conduct Parameter Model
4. Nonparametric Studies
5. Product Differentiation 1 : Price Reaction Curve
6. Product Differentiation 2 : Dynamic Expansions

テキスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った代表的なテキストをいくつか紹介する。論文については、秋学期の部に例示するので、参照されたい。

- M.Stephen, *Advanced Industrial Organization*, Blackwell, 1993, 2002
- P. Ghemawat, *Games Business Play*, MIT Press, 1997
- O. Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structure*, Oxford, 1995
- L.Philips (ed), *Applied Industrial Economics*, Cambridge, 1998
- L. Cabral (ed), *Readings in Industrial Organization*, Blackwell, 2000
- X. Vives (ed), *Corporate Governance*, Cambridge, 2002
- E. Rasmussen, *Games and Information*, Blackwell, 1989, 2001
- E. Wolstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge

制度・政策論特論

教 授 中 澤 敏 明

助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

講義の目的・進め方は、春学期に同じである。そちらを参照されたい。テーマとしては、昨年の例（秋）では、中澤がコーポレート・ガバナンスとの関連で、株価についての研究や市場の透明性にかかわる分析を紹介した。河井は、春学期に続き、製品差別性他の市場構造・行動にかかわる実証分析をレビューするとともに、市場への参入の実態・参入発生件数および均衡企業数の実証分析の系譜を紹介した。今年度は、春学期の進捗をみて、カバーするテーマを確定することになる。

授業内容：

学部レベルの知識をもっていることを前提とする。計量経済学・ゲーム理論についても基礎的知識を備えていることが望まれる。

昨年度、河井の扱った内容は次のとおりである。

参入退出の実証研究

1. 記述的分析：サーベイ、企業動態と生産性、企業動態と雇用
2. Entry-Exit Decision: Entry Deterrence, Sunk cost の測定
3. 参 入 退 出 と 市 場 の 成 果：Market Structure, Market Performance
4. Dynamic Model: 市場動態の確率モデル
5. 差別化市場における参入の分析

リーディング・リスト：

講義に使用する参考文献については、講義中に説明するが、履修判断の参考のために、これまで扱った論文をいくつかを例示する。テキストについては、春学期の案内を参照されたい。

昨年度中澤の扱ったものを例示する。

- M. Aoki, *Toward a Comparative Institutional Analysis*, MIT 2001
- M. Baldassarri and L. Lawbertini, *Antitrust, Regulation and Competition*, Palgrave, 2003
- J. Cox, S. Ross and M. Rubinstein, *Option Pricing*, Journal of Financial Economics 7, 1979
- R. Selten, *A Simple Model of Imperfect Competition Where 4 are Few and 6 Are Many*, International Journal of Game Theory, 2
- R. J. Shiller, *Do Stock Prices Move too Much to be Justified by Subsequent Changes in Dividends?*, AER, 71 (3)
- R. Schmalensee et al edited, *Handbook of Industrial Organization Chapter 16, Inter-Industry studies of Structure and Performance*, North-Holland

制度・政策論特論

教 授 渡 辺 幸 男
助教授 駒 形 哲 哉

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、駒形、渡辺の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読することになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

制度・政策論特論

教 授 渡 辺 幸 男
助教授 駒 形 哲 哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

国際経済論特論

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国内外の金融にかかわる重要なテーマに触れ、論文を書けるようにする。

授業内容：

国内外の金融にかかわる最新の学術論文を読む。特にアジア通貨危機に関する文献も読む。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

- ・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会
- ・Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

国際経済論特論

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

リーディング・リスト：

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

国際経済論特論

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資に関して、基礎理論と実証分析について、中級レベルの講義をする。

授業内容：

対象とする内容は以下のようなものである。

1. Ricardo の貿易理論
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
3. 貿易均衡
4. 特殊要素モデル
5. 完全競争市場の下での貿易政策
6. 不完全競争市場下での貿易政策
7. 直接投資
8. イノベーションと貿易
9. 自由貿易と地域貿易協定

テキスト：

- ・Robert Feenstra, *Advanced International Trade-Theory and Evidence*, Princeton University Press, 2004
- ・Jagdish Bhagwati, Arvind Panagariya, and T. N. Srinivasan, *Lectures on International Trade*, 2nd edition, The MIT Press, 1998
- ・伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店, 1985 年

リーディング・リスト：

論文に関するリーディング・リストは、その都度、紹介する。

社会・環境論特論

教 授 倉 沢 愛 子
教 授 清 水 透

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識するとともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

授業内容：

フィールドワークを基礎とする歴史研究を踏まえつつ、以下の 3 点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常

テキスト：

フィールドワークに基づいて書かれた研究書を皆で読みながら進めていく。どの本を選ぶかは、受講生の顔ぶれを見てから決める。

リーディング・リスト：

適宜指定する。

社会・環境論特論

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

都市経済や地域経済の理論的ならびに実証的分析を行うことを目的とする。春学期の前半では、社会科学の方法論的基礎を学ぶ。アカデミックなリサーチを行ううえでの様々な課題の理解を深め、併せて問題解決型の技法を習得する。

授業内容：

下記のテキストを輪読する。関連するジャーナルの論文等も併せてアサインする。

テキスト：

- ・ガブリエル・ウォーカー『スノーボール・アース』川上紳一監訳 早川書房 2004 年
- ・Robert Latham and Saskia Sassen (eds), *Digital Formations : IT and New Architectures in the Global Realm*, Princeton Univ. Press, 2005

社会・環境論特論

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期の継続。

社会・環境論特論

教 授 細 田 衛 士

教 授 大 沼 あゆみ

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派的アプローチや新制度学派的アプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。

授業内容：

講義の流れは以下の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

- 第 1 章 環境経済学の流れ
- 第 2 章 公共財としての環境
- 第 3 章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ
- 第 4 章 オープンアクセスと再生可能資源
- 第 5 章 再生不可能資源
- 第 6 章 課税政策
- 第 7 章 排出権売買制度
- 第 8 章 デボジット制度

第 9 章 コースの定理

第 10 章 廃棄物とリサイクル

第 11 章 汚染者支払い原則

第 12 章 開発と環境保全

テキスト：

特にない。

リーディング・リスト：

授業中に配布する。

社会・環境論特論

教 授 松 村 高 夫

教 授 矢 野 久

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くため、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

社会・環境論特論

教 授 松 村 高 夫

教 授 矢 野 久

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期参照。

演 習 科 目

※長名「ミクロ経済学演習」はP.105にあります。

ミクロ経済学演習（均衡理論）

教 授 長 名 寛 明
名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

理論経済学の基本的問題に関する討論，研究報告を行う。修士課程で「ミクロ経済学」を履修済の学生，あるいはそれと同等の学力を有する者を対象とする。

授業内容：

博士論文の基礎となる文献についての要約，あるいは各人の博士論文の構想について報告し，出席者の意見をきく。さらに自分独自のまとめた論文について発表することが要請される。

リーディング・リスト：

- ・ J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988
- ・ D. Fudenberg and J. Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
- ・ D. M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Princeton University Press, 1990
- ・ O. J. Blanchard and S. Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press, 1989
- ・ G. M. Grossman and E. Helpman, *Innovation and Growth in the Global Economy*, MIT Press, 1991
- ・ K. Arrow and M. D. Intriligator (eds.), *Handbook of Mathematical Economics*, North-Holland, Vol. II 1982, Vol. III 1986
- ・ A. Mas-colell, M. D. Whinston and J. R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

ミクロ経済学演習（均衡理論）

教 授 長 名 寛 明
名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

ミクロ経済学演習（ゲームの理論）

名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：春学期 2 単位

目標・意義・方法：

ゲーム理論，ミクロ経済学とそれらの応用，とりわけ産業組織論についての特徴ある論文を輪読し，独自の研究成果をまとめる。

授業内容：

ミクロ経済学上級およびゲーム理論についての修士レベルの授業を履修していることを前提とする。

リーディング・リスト：

- ・ R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory, Vols. I, II and III*
- ・ J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988

ミクロ経済学演習（ゲームの理論）

教 授 中 山 幹 夫
名誉教授 川 又 邦 雄

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

授業内容：

春学期参照。

リーディング・リスト：

- ・ R. J. Aumann and S. Hart, *Handbook of Game Theory, Vols. I, II and III*
- ・ J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988
- ・ S. Hart and A. Neyman, eds., *GAME AND ECONOMIC THEORY*, MICHIGAN, 1995
- ・ R. J. Aumann, *Collected Papers* vol.1, 2, MIT Press, 2000

ミクロ経済学演習（都市経済論）

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って，都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には，理論的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関する論文指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・ Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics, 5th edition*, Scott, Foresman & Co., 1994
- ・ J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities, 2nd edition*, Academic Press, 1985
- ・ Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社，2001年）
- ・ Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics, Vol.1: Regional Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- ・ Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics, Vol.2: Urban Economics*, North-Holland

and Elsevier Science Publisher, 1987

- *Regional and Urban Economics, Part 1, Part 2*, Harwood and Academic Publishers
- Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)
- 中村良平・田淵隆俊著『都市と地域の経済学』日本評論社, 1996 年
- 瀬古美喜著『土地と住宅の経済分析』創文社, 1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997 年

マクロ経済学演習

教 授 尾 崎 裕 之

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

「非期待効用理論のマクロ経済学への応用」をテーマとし、関係する論文の輪読を行う。最先端の研究論文を精読することによって、知的訓練を行い、参加者が自分の知的関心に合ったリサーチ・トピックを見出していく、あるいは、自分の博士論文の完成に役立てていくことを目的とする。

授業内容：

以下の内容に関する論文の輪読を行う。(1) von-Neumann=Morgenstern によるリスクの下での選好の表現定理, (2) Savage による不確実性下における選好の表現定理, (3) Gilboa や Schmeidler による CEU 理論・MMEU 理論に代表される非期待効用理論とその公理的基礎, (4) これら非期待効用理論のマクロ経済学への応用。

リーディング・リスト：

Kreps, D., *Notes on the Theory of Choice*, Boulder, Colorado, Westview Press, 1988, 他, 授業中に指示する。

マクロ経済学演習

教 授 尾 崎 裕 之

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に準ずる。

マクロ経済学演習

教 授 塩 澤 修 平
名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動、企業の投資行動、さらには企業の生産技術や労働、土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し、学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び、関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

マクロ経済学演習

教 授 塩 澤 修 平
名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

企業の生産技術や労働、資本等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が時間を通じて変化するような動態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し、学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び、関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

数理経済学演習 (I)

教 授 丸 山 徹
教 授 須 田 伸 一
商学部教授 小 宮 英 敏
特別招聘教授 A . I o f f e

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

(I) 非線形動学と景気変動

(II) 確率解析と金融資産価格の変動

(III) 凸解析と変分法 (多価作用素の解析を含む。)

(IV) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習 (II)」と併せて履修することが望ましい。

数理経済学演習（Ⅱ）

教 授 丸 山 徹
教 授 中 村 慎 助
商学部教授 小 宮 英 敏

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- （Ⅰ）非線形動学と景気変動
- （Ⅱ）確率解析と金融資産価格の変動
- （Ⅲ）凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む。）
- （Ⅳ）均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅰ）」と併せて履修することが望ましい。

経済数学演習

教 授 中 村 慎 助
助教授 グレーヴァ香子

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配布する。

経済数学演習

教 授 中 村 慎 助
教 授 尾 崎 裕 之

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理経済学ならびにゲームの理論に関する基本的な文献の講読及び各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

テキスト：

使用しない。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配布する。

計量経済学演習

教 授 清 水 雅 彦

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この計量経済学演習では、「経済発展過程における構造変化の実証理論分析」に関連した研究テーマに取り組んでいる大学院生を対象にして、各人の研究報告とそれに対する討論を行う。したがって、履修者は、どのような段階であれ自らの研究内容について報告することが義務づけられる。

上記の共通テーマに関連していえば、「経済発展」は、必ずしも発展途上国だけの問題ではない。アメリカをはじめ西ヨーロッパ諸国や最近の日本のように、先進工業国といわれる国々においても、新たな「経済発展」の在り方とその可能性が模索されている。経済発展に関する分析の歴史を振り返ってみると、意外なことに、経済発展に関する一般理論といえるものは、ほとんど見当たらない。このことは、一般理論の可能性を否定するものではないが、時間的にも空間的にもさまざまに異なる条件をもつ経済社会に対して普遍的な経済発展の在り方を模索するという従来の分析視点あるいは分析の姿勢について、再検討する必要があることを示唆しているともいえる。他方、これまでの経験的分析によれば、どのような段階であれ、経済発展は現象形態として経済構造の変化を随伴すること、さらに発展過程における構造変化が経済成長と強く結び付いていることなどが、観測事実としての長期経済統計に基づいて指摘されている。しかし、これらの経験的事実をもってしても、「経済発展は、構造変化と経済成長が結び付いた経済社会の動態現象である」という蓋然的な指摘にとどまるといわざるをえない。この演習では、およそ以上のような分析状況を脱却するためにいかなる分析視点が必要かを議論しながら、履修者各人のテーマ毎に研究指導をすすめていく。なお、この演習は、春学期と秋学期に設置されており、履修者は 2 学期とも連続して履修することが望ましい。

リーディング・リスト：

参考文献等については、各人の報告と討論の際に取り上げる。

計量経済学演習

教 授 清 水 雅 彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

計量経済学演習

助教授 田 中 辰 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本講義の目的は2つある。(1) GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと、(2) IT 産業に関するペーパーを読み、自分の論文のテーマを見つけること、の2点である。どちらを主としてとりあげるかは集まった学生の要望を聞いて決める。以下、順に説明する。

(1) ガウス (GAUSS) は行列演算が得意なソフトウェアであり、計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば、最小2乗法の推定値は $b = (X'X)^{-1}X'y$ であるが、ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので、理論との対応関係が明瞭であり、理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり、自分で理論内容を理解しないと利用できないが、その代わり、推定の中身を自分で確認できるうえに、必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては、コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあった方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。

(2) IT 産業は近年、もっとも成長が著しく、また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収穫逓増、スイッチングコスト、ベンチャー型産業構造、コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし、経済学の目から見ると、理論研究も実証研究も遅れている。特に実証分析の遅れは大きく、たとえばマイクロソフト裁判はそれが端的に現われた例で、訴訟にまでなっているにもかかわらず、結局有力な実証分析は経済学者から出されなかった。本講義では学生諸君の興味に合わせてテーマ設定を行ってペーパーを読み、学生諸君の論文のテーマを探していく。たとえば著作権問題に関心が高い学生がいればそれに合わせてペーパーを選択する。

計量経済学演習

教 授 マッケンジー、コリン

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

この演習は修士論文作成の指導・研究を行うこと、応用エコノメトリックスの知識を深めること、質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的としている。

授業内容：

各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。“報告”は文献(又は文献の議論)を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめるこ

と、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。利用できるデータセットの一つとしては慶應家計パネル調査 (KHPS) がある。

テキスト：

テキストとして指定しないが、一番近いものとして Wooldridge, J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA, 2002 がある。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

計量経済学演習

教 授 マッケンジー、コリン

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

計量経済学演習

名誉教授 蓑 谷 千鳳彦

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

計量経済学の基礎的知識を復習した後で、回帰診断と影響分析、正規性の検定、頑健推定、時系列分析を行う。TSP を用いて演習する。

授業内容：

1. 基礎的知識の復習 (パラメータ推定, 説明力, 仮説検定 (t , F , χ^2 , デルタ法))
2. 3つの大標本検定
3. 自己相関
4. 不均一分散
5. 回帰診断と影響分析
6. 頑健推定
7. 時系列分析
 - (1) 定常性
 - (2) 見せかけの回帰
 - (3) 単位根検定
 - (4) 共和分-EG テスト, Johansen 検定
 - (5) ECM と LSE アプローチ

テキスト：

1. 蓑谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社
2. Greene, W. H., *Econometric Analysis*, 5th ed., Prentice Hall

リーディング・リスト：

1. Davidson, R. and Mackinnon, J. G., *Econometric Theory and Methods*, Oxford University Press, 2004
2. Hamilton, J. D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994

3. Maddala, G. S. and Kim, I. M., *Unit Roots, Cointegration, and Structural Change*, Camfridge University Press, 1998
4. 蓑谷千鳳彦『計量経済学の新しい展開』多賀出版
5. 蓑谷千鳳彦『計量経済学における頑健推定』多賀出版

計量経済学演習

名誉教授 蓑 谷 千 鳳 彦

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に同じ

経済学史・思想史演習

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

アダム・スミスの『国富論』を輪読する。スミス『国富論』の重要性についてはいまさら述べる必要がないほどである。経済学の始点となった著作であるばかりでなく、社会思想史上の古典でもある。また、現代の政策的な議論にあたっても常に参照されるべき著作だといっても過言ではない。今年度は昨年度に引きつづき、新しく出た杉山忠平訳を使いながら輪読をすすめていく。既存の邦訳との比較対照それ自体も試みてみたい。参加希望者は、水田洋監訳、杉田忠平訳『国富論(1)－(4)』岩波文庫を準備されたい。今年は第 5 編の途中からの輪読になる。ときおり、参加者自身の研究テーマについて報告を求めることがある。

経済学史・思想史演習

火曜日 4 時限

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期の続き。詳細については春学期の講義要綱を見られたい。

経済学史・思想史演習

火曜日 2 時限

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

経済学史，思想史，研究者を対象に個別報告を求める。それを題材に，参加者全員で議論する。

授業内容：

参加者の報告が中心となる。

リーディング・リスト：

毎回の授業の際に指示する。

経済学史・思想史演習（日本社会経済思想史演習）

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

履修者に，何らかの意味で日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら，論文作成指導を行う。また，研究発表とならんで，墨筆古文書資料の解読実習を行う。なお，小室担当の「経済学史・思想史特論（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

リーディング・リスト：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・経済学史学会編『日本の経済学』東洋経済新報社，1984 年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・逆井孝仁他編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社，1990 年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店，1984 年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年
- ・川口浩編『日本の経済思想世界』日本経済評論社，2004 年

経済学史・思想史演習（日本社会経済思想史演習）

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期と同じ

経済学史・思想史演習

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

トクヴィルの思想を中心にして，民主主義の問題点を考察する。

授業内容：

トクヴィル『アメリカの民主主義』をテキストに輪読を行なう。参加者はリポーターの義務を負う。リポーターは，テキストまたは指定された文献中の割り当てられた箇所の要約をつくったうえで，参考文献を調べて問題点を整理する。

テキスト：

- ・Alexis de Tocqueville, *De la démocratie en Amérique*, Paris, 1835-40, nouvelle édition historico-critique revue et augmentée par Edouard Nolla, Paris: Vrin, 2vols, 1990
- ・松本礼二訳『アメリカのデモクラシー』岩波文庫

リーディング・リスト：

- ・トクヴィル（小山勉訳）『旧体制と革命』ちくま学芸文庫，1998 年

・トクヴィル（喜安朗訳）『フランス二月革命の日々』トクヴィル回想録』岩波文庫，1988 年

経済史演習

教 授 杉 山 伸 也
教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は，各自の研究報告と討論を中心にして，のこりの時間は『比較史のアジア－所有・契約・市場・公正－』（東京大学出版会，2004 年）を使用する。

成績は，授業での研究報告や討論への参加等を考慮して総合的に評価する。

経済史演習【経商連携 COE 科目】

教 授 杉 山 伸 也
教 授 古 田 和 子
教 授 柳 沢 遊
商学部助教授 牛 島 利 明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経商連携 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。2005 年度にひきつづき，今年度も，テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域のエネルギー産業，とくに石炭産業に焦点をあて，基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行う。

成績評価は，授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて，総合的に判断する。

制度・政策論演習

助教授 新 井 拓 児

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理ファイナンスに関する英文テキストの輪読を行う。ファイナンス論，とりわけ金融派生商品の価格付け理論の基礎を理解することを目標とする。

授業内容：

履修者の知識や目的に合わせたテキストを選び，輪読を行う。場合によっては，計算機を用いた数値計算に関する演習も行う。

テキスト：

授業中に紹介する。

リーディングリスト：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

制度・政策論演習

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この授業では原則として各履修者の論文発表と検討が中心となる。論文発表者がいない時は財政論の基本的文献の輪読を行う。

授業内容：

・各履修者の論文発表と検討

・財政論の基本的文献の輪読

（何を輪読するかは，授業の最初に相談して決める）

制度・政策論演習

教 授 飯 野 靖 四

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

制度・政策論演習

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位

目標・意義・方法：

日本経済，特に産業・企業に関する文献の輪読と，大学院生による研究発表を中心に行う。産業・企業に関する研究を進めていくために必要となる，方法論的な問題，分析視角，歴史的分析，現場感覚などについても適宜議論し，検討していく。

授業内容：

テキストの読解，現在取り組んでいる研究についての報告を中心とする。

テキスト：

第 1 回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

制度・政策論演習

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位

目標・意義・方法：

日本経済，特に産業・企業に関する文献の輪読と，大学院生による研究発表を中心に行う。産業・企業に関する研究を進めていくために必要となる，方法論的な問題，分析視角，歴史的分析，現場感覚などについても適宜議論し，検討していく。

授業内容：

テキストの読解，現在取り組んでいる研究についての報告を中心とする。

テキスト：

第1回の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

制度・政策論演習

教授 大村 達 弥

授業形態：春学期・秋学期とも2単位・演習

目標・意義・方法：

担当者が担当する経済政策論（修士）・制度政策論特論（博士）の講義内容と関連したテーマを選択し，受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ，法・政治システムとの関わりも含め経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては，情報通信産業における融合と再編，ネットワークのユビキタスな発展が産業構造の変化を促している点に着目して，関連する経済規制改革，ネットワーク外部性，電子商取引の理論的・実証的検討等を扱う予定である。また，必要に応じ，受講者自身の研究論文発表を随時組み込む。なお取り上げる文献については授業開始の時点で指定する（参考：昨年度も同様の趣旨で講義を行ったが，下記はその際に用いた文献の一部である）。

リーディング・リスト：

- ・R.Crandall, *Competition and Chaos U.S. Telecommunications Since the 1996 TELECOM ACT*, (Brookings Institution Press, 2005)
- ・N. Economides, *The Microsoft Antitrust Case*, New York University, CLB Working Paper, 2001

制度・政策論演習

教授 島田 晴 雄

教授 太田 聡 一

授業形態：春学期2単位

目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と，参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。博士課程参加者は，主に自らの研究報告を行うことにするが，適宜最新の文献紹介を織り交ぜる。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく，e-mail等を通じて適時，密接な指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・Orley Ashenfelter and David Card *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- ・Pierre Cahuc and Andre Zylberberg *Labor Economics*, MIT Press

制度・政策論演習

教授 島田 晴 雄

教授 太田 聡 一

授業形態：秋学期2単位

目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と，参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。博士課程参加者は，主に自らの研究報告を行うことにするが，適宜最新の文献紹介を織り交ぜる。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく，e-mail等を通じて適時，密接な指導を行う。

リーディング・リスト：

- ・Orley Ashenfelter and David Card *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- ・Pierre Cahuc and Andre Zylberberg *Labor Economics*, MIT Press

制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】

教授 瀬古 美 喜

教授 マッケンジー，コリン

授業形態：春学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は，原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお，定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより，セミナーの活性化をはかる予定である。

制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】

教授 マッケンジー，コリン

助教授 グレーヴァー 香子

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は，原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。

なお，定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより，セミナーの活性化をはかる予定である。

制度・政策論演習

教授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読をおこなう。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）のかかわりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化にかかわる問題についての文献である。第 1 回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後輪読する文献を決定する。

制度・政策論演習

教授 寺 出 道 雄

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、大きくは担当者が研究科における講義で取り上げる話題と関連した文献の講読をおこなう。

すなわち、環境と農業（林業・水産業を含む）のかかわりについての問題と、資本主義の発展と農業の変化にかかわる問題についての文献である。第 1 回目の授業で、いくつかの候補をあげて、受講者の関心にも応じてその後輪読する文献を決定する。

制度・政策論演習

教授 中 澤 敏 明
助教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生に論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供することが主たる目的になっているが、博士課程の学生にはその蓄積された知見をもとにクラスの水準を高めることを期待したい。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて研究するテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。

授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることが望ましい。

テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば

基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO
2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R & D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation

昨年、選択された論文を、キーワードで例示すれば、Installed Base, Hedonic Price, Conjectural Variation, Network Effects, Tournaments 等がある。

制度・政策論演習

教授 中 澤 敏 明
助教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

学生に論文のテーマを模索し、プレゼンテーションの練習をする場を提供することが主たる目的になっているが、博士課程の学生にはその蓄積された知見をもとにクラスの水準を高めることを期待したい。

産業組織論の領域を主たる対象として、この分野で行われてきた優れた研究論文を担当者・履修学生が選択し、学生が当該論文を解説する中で、研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを学ぶ。個々の学生は、1 学期を通じて、ほぼテーマを決め、当該テーマの論文として優れていると定評のあるもの、それに準ずるもの、顕著に新規性のあるものなどを選ぶ。輪番で行う。

授業内容：

産業組織論および計量経済学の学部レベルの知識をそなえていることが望ましい。

テキスト：

テーマは、産業組織論の領域にかかわるものであれば基本的に自由である。しかし、他の履修者も予習する必要があるために、担当者が選択についてチェックする。可能なテーマを例示すると、

1. SCP Approach and New Empirical IO

2. Supply and Demand
3. Monopoly and Contestable Market
4. Cartel and Collusion
5. Product Differentiation
6. Market Power
7. Entry Dynamics
8. Price Discrimination
9. Innovation and R & D
10. Standards and Network Externality
11. Firm Structure and Incentives
12. Vertical Integration
13. Information and Advertising
14. Price Rigidity and Macro Economics
15. Optimal Regulation
昨年，選択された論文を，キーワードで例示すれば，Semiconductor, Positioning, Tournaments, Promotion, Asymmetric Information, Procurement 等がある。

制度・政策論演習
教授 前 多 康 男
授業形態：春学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより，金融経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。 授業内容： 具体的なトピックスについては，以下の通りである。 1. 金融取引の機能について，2. リレーションシップ取引と市場取引，3. 間接金融，直接金融，市場型間接金融，4. 銀行の規律付け，5. 銀行の業務，6. 金融業に対する規制 リーディング・リスト： 授業中に適宜配付する。

制度・政策論演習
教授 前 多 康 男
授業形態：秋学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 春学期参照。

制度・政策論演習
教授 矢 野 誠
授業形態：春学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 論文指導を行う。参加者は英語論文の作成，提出，および公共セミナーへの参加を義務づけられる。

制度・政策論演習
教授 矢 野 誠
授業形態：秋学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 春学期参照。

制度・政策論演習
助教授 山 田 篤 裕
授業形態：春学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 一定のテーマを定めて，社会政策（特に社会保障）に関する内外の論文を輪読します。経済的格差や健康格差をテーマにしたいと考えています。暫定的に下記リストの論文のいくつかを取り上げようと考えています。ただし，どの論文を取り上げるかの詳細については受講者と相談して決めたいと考えています。他研究科からの参加も歓迎します。

リーディング・リスト：
• Arrow, K. J., S. Bowles and S. N. Durlauf (eds.) <i>Meritocracy and Economic Inequality</i>, Princeton University Press, 2000 • Atkinson, A. B. and F. Bourguignon (eds.) <i>Handbook of Income Distribution (Vol.1)</i>, Elsevier, 2000 • Barr, N. (ed.) <i>Economic Theory and the Welfare State (International Library of Critical Writings in Economics Series)</i>, Edward Elgar Pub, 2001

制度・政策論演習
教授 山 田 太 門
授業形態：春学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 混合経済における政府の財政の役割を，経済学の枠組を拡げ公共経済論の立場から検討する。国家の権限を民主主義システムの中で位置づけたり，制度としての行政のあり方なども研究の対象となる。市場経済と非市場経済の相互関係は最も重要な分析対象となり，通常の経済学の範囲からは与件とされる文化的背景などについても議論されよう。参加者は各自のテーマにしたがって論文作成をすすめ中間報告しなければならない。

制度・政策論演習
教授 山 田 太 門
授業形態：秋学期 2 単位・演習 目標・意義・方法： 春学期参照。

制度・政策論演習
教授 吉 野 直 行
授業形態：春学期 2 単位

目標・意義・方法：

演習では、主要な論文・書物の輪読と、各自のテーマに沿った論文の発表を行い、修士論文・博士論文の作成を行う。テーマとしては、(i) アジアの為替制度、(ii) 最適通貨圏の理論、(iii) 中央と地方の政府資金の配分、(iv) 財政政策・金融政策の有効性に関する実証分析、(v) アジアの資金フローの変化と資本移動規制、(vi) プライマリー・デフラー制の導入による日本国債市場の Volatility の変化、などのテーマを扱う予定。

リーディング・リスト：

- (i) Zhang Yuling edition, *Emerging East Asian Regionalism : Trend and Response*, World Affairs Press, 2004
- (ii) Ito Takatoshi and Yung-Chul Park, *Monetary and Financial Integration in East Asia : The Way Ahead*, Palgrave, Macmillan 2004
- (iii) Gordon de Brouwer and Masahito Kawai, *Exchange Rate Regime in East Asia*, Routledge Corzon, 2002
- (iv) Yoshino, Kaji and Ibuka *The Stabilization of an Open Economy with Capital Controls : An Analysis Using Malaysian Data* Asian Economic Papers (MIT Press) vol 3, No 2, 2003
- (v) Yoshino, Kaji and Suzuki *The Basket-peg, Dollar-peg and Floating Exchange Rate Regimes—A Comparative Analysis* Journal of the Japanese and International Economy Elsevier), vol 18, June 2004

そのほか、論文については、講義の中で紹介する。

制度・政策論演習

教授 吉 野 直 行
教授 池 尾 和 人

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

授業内容：

財政・金融政策に関連する大学院生の論文作成に関する演習であり、内容としては、(i) 地方への資金配分とその要因分析、(ii) 金融機関の行動分析、(iii) 高齢化と日本の財政赤字、(iv) 景気変動とマクロ経済政策などである。毎回、レジメを用意し、大学院生は作成している論文の内容に関して発表を行う。また、それぞれの分野における基礎的な論文を輪読する。

制度・政策論演習【経商連携 COE 科目】

教授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

21 世紀 COE による経済学部と商学部の連携により、大学院教育の充実を目的とした演習である。21 世紀 COE で実施しているパネルデータを大学院生が利用しながら、修士論文・博士論文の作成を行っている。(i) 家計行動

に関する計量分析、(ii) 家計の金融資産選択行動の実証分析、(iii) 財政のサステナビリティに関するシミュレーション分析、(iv) ミクロデータを用いた金融行動に関する実証分析 (v) アジアの資金循環と為替レートなど、大学院生の論文発表を通じた演習を行う。経済学部と商学部の多数の教員による合同の演習であり、さまざまな角度からの議論が展開される。

リーディング・リスト：

- Kydland and Prescott *Business Cycles : real facts and a monetary myth* FRB Minneapolis Review, 1990 : 3-18, 1990
 - King and Plosser *Real Business cycles and the test of the Adelmans* Journal of Monetary Economics, 1994
 - Calomiris and Gorton *The origin of banking panics* in R. G. Hubbard, ed. *Financial Markets and Financial Crisis*, (Chicago University Press) 109-173, 1991
 - Klevor, Richter and Sorensen *Optimal Taxation with Household Production* Oxford Economic Papers 52, 584-594, 2000
 - Runkle *Liquidity Constraints and the permanent-income hypothesis : evidence from panel data*, Journal of Monetary Economics 27 ; PP. 73-98, 1991
- その他、講義の中で論文は説明する。

制度・政策論演習

教授 渡 辺 幸 男
教授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

現代資本主義ならびに日本経済は大きな曲がり角にある。今日の主要な現代資本主義論の日本経済論を政治経済学的方法によって理論的・批判的に再検討し、問題意識の涵養と理論的深化をめざす。今年度は主に日本の産業経済に焦点をあてる。

制度・政策論演習

教授 渡 辺 幸 男
教授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

国際経済論演習

名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際貿易論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスをいくつか選んで、関連文献を講読すると

もに学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

国際経済論演習

名誉教授 大 山 道 廣

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

国際金融論の理論的文献を展望・解説し、最近の重要トピックスについて関連文献を講読する。併せて学生自身による論文作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

国際経済論演習

教 授 嘉 治 佐保子

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

修士論文または博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献を紹介し、参考とする論文や自分の論文について順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この演習は適していない。国際マクロ経済学（Open economy macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

国際経済論演習

教 授 嘉 治 佐保子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に続き、修士論文または博士論文の作成のための指導・研究を行うことを目的とする。

授業内容：

各学生の興味に応じて論文作成の参考となるような文献を紹介し、参考とする論文や自分の論文について順番に報告してもらう。その報告についてのコメントや討論を通じて論文指導を行う。国際経済の分野でも、発展途上国経済や国際貿易の分野に興味のある学生には、この

演習は適していない。国際マクロ経済学（Open economy macroeconomics）の分野で論文を書くことをめざす学生に適している。

国際経済論演習

(1) 水曜日 3 時限 (2) 水曜日 4 時限

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新のテーマに触れる。最終的には論文を仕上げることを目標とする。

授業内容：

マクロ経済学・金融・国際経済に関する最新の学術論文を輪読する。2 コマ連続で行うので履修者は注意されたい。金融のミクロ的構造とマクロ経済学の相互作用のメカニズムについて理解を深めることを念頭に置いた内容とする。この分野は理論だけやっても意味がないので実証の論文も適宜読む。

テキスト：

- ・Blanchard and Fischer, *Lectures on Macroeconomics*, MIT Press
- ・D. Romer, *Advanced Macroeconomics*, McGraw-Hill
- ・Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press
- ・Dewatripont and Tirole, *The Prudential Regulation of Bank*, MIT Press
- ・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

リーディング・リスト：

追って指示する。

国際経済論演習

教 授 高 梨 和 紘

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

基本的には、博士論文作成のための指導・研究を行うことを目標とする。

授業内容：

まず履修者それぞれの問題意識や意図する研究テーマ等について、全体的・個別的に指導を行った上で、それに資するリーディング・リストを与え、それに基づいて各自の研究を進めてもらい、隔月 1 回程度研究報告を課し、その報告をめぐって徹底的な討論や追加指導を行う形で演習を進めたい。

テキスト：

履修者のテーマ・問題意識に応じて、演習開始後指示、配付する。

国際経済論演習

教 授 高 梨 和 紘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
春学期参照。

国際経済論演習

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
指定されたテキストの輪読を通じ、国際金融論の分析手法を学ぶが、その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え、また博士論文の指導をする。

テキスト：

・M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

国際経済論演習

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
国際貿易あるいは技術革新・R&D に関して、博士論文作成の指導・研究を行う。

授業内容：

各学生が関心を有する分野に関する諸文献を報告してもらい、作成する論文に関連する先行研究をサーベイする。

また、各自が取り組んでいる論文についても順次報告してもらい、論文指導を行う。

テキスト：

参照する文献・論文等に関しては、適宜指定する。

国際経済論演習

教 授 若 杉 隆 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
春学期参照。

社会・環境論演習

教 授 金 子 勝

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
産業社会にかかわる諸問題を、理論的制度的に考察する。

授業内容：

今年度は、日本における経済格差問題について考察する。年金・介護・雇用問題など具体的問題を取り上げながら。

テキスト：

経済政策に関する文献を対象に、参加者と相談して決

定する。

リーディング・リスト：

・神野直彦・金子勝『「福祉政府」への提言』岩波書店
・ジョン・ロールズ『公正としての正義再説』岩波書店

社会・環境論演習

教 授 金 子 勝

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：
日本経済の現状と経済政策について、テキストを取り上げつつ議論する。

授業内容：

本年度は、つぎの 2 つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、財政赤字と財政政策にかかわる諸問題。いま一つは、三位一体改革と地方分権にかかわる諸問題である。この 2 つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

テキスト：

参加者と相談して決めたい。

リーディング・リスト：

・金子勝『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会
・神野直彦・金子勝編『財政崩壊を食い止める』岩波書店
・神野直彦・金子勝『地方に税源を』東洋経済新報社

社会・環境論演習（Ⅰ）

教 授 津 谷 典 子
助教授 山 田 篤 裕

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：
本演習は（Ⅰ）（Ⅱ）の 2 つからなり、時間割上連続している。したがって、本演習を受講する学生は、（Ⅰ）と（Ⅱ）の両方を受講する事が望ましい。（Ⅰ）では、計量分析モデルの説明や使い方などについての説明だけでなく、変数とは何か、データ収集のためのサンプリングのロジック、変数の構築の仕方など、社会調査法の基本についても解説する。また、本演習では、統計分析のためのソフトウェアとして STATA を用いるが、この統計分析ソフトについても、（Ⅰ）でそのロジックを説明する。次に（Ⅱ）では、その週の（Ⅰ）で説明・解説したトピックや分析モデルについて、STATA を用いて実際にデータ分析を行う。この分析演習のためのデータは、人口学および労働経済学の分野のサーベイ調査の個票データを、加工して使用させる。また、多変量解析のためのフラット・ファイルの作り方についても手ほどきをする。さらに、学生個人の研究テーマに関して、分析モデルやデータの所在、および分析のためのファイルの作り方などについて適宜アドバイスする。修士論文を執筆中、もしくはそのためのプロポーザルを準備中の学生諸君の受講を特に歓迎す

る。

授業内容：

本演習で扱う多変量解析モデルは Linear causal models と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- (1) Ordinary least-square multiple regression model
- (2) Binary logit/probit model
- (3) Multinomial logistic regression model
- (4) Ordered logit/probit model
- (5) Cox proportional hazard model
- (6) Time-dependent hazard model

テキスト：

・ *STATA Statistical Software Release 9 User's Guide & Reference Manual*

リーディング・リスト：

- (1) Babbie, Earl B., *The Practice of Social Research*, 6th Edition, Wadsworth Publishing
- (2) Greene, William H., *Econometric Analysis*, 4th Edition, Prentice Hall
- (3) Retherford, Robert R. and Minja Kim Choe., *Statistical Models for Causal Analysis*, John Wiley & Sons.

社会・環境論演習（Ⅱ）

教授 津谷典子
助教授 山田篤裕

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

「社会・環境論演習（Ⅰ）」参照。

社会・環境論演習

教授 津谷典子

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本演習は、人口学および経済学で近年よく行われる個票データを用いた様々な多変量解析（multivariate analysis）の手法について、実際の応用例を多数検討することにより、各モデルの意味、用途、および長所と短所、さらに変数の構築などについて学ぶことを目的とする。具体的には、最近刊行された学術論文を読み、そこで用いられている分析モデル、データ、変数の構築について検討し、そして分析・推計結果の意味を解釈・理解する。講読の対象となる学術論文は、講師があらかじめ選択・準備し、そのリーディング・リストを第 1 回目の授業時に配布する。授業はまず、学生諸君の中から各週 1 名が論文内容についてのレジュメをあらかじめ準備し、クラスで報告する。次いでそれについてのクラス討論とクラス全体での質疑応答を行い、最後に講師が説明とまとめを行う。

授業内容：

本演習で取り扱う多変量解析モデルは、Linear causal

models と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- ① Ordinary least-square multiple regression model
- ② Multiple classification analysis (MCA)
- ③ (Binary) Logistic regression model
- ④ Ordered logit/probit model
- ⑤ Multinomial logit model
- ⑥ Cox proportional hazard model
- ⑦ Time-dependent hazard model

また、本演習では、モデルに使用される変数についても、その構築方法（プロセス）だけでなく、多重線形性（multi-collinearity）、内生性（endogeneity）、同時性（simultaneity）などの問題点についても説明・検討する。さらに、学生諸君が各自の研究において使用することができる内外の個票データについて学ぶため、各学術論文の分析で使用されているデータの内容について、入手方法も含め紹介する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

第 1 回授業時に配布する。

社会・環境論演習（生活環境の社会史）

教授 友部謙一

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

「生活水準」は社会経済史の伝統的な課題である。しかし、それを世帯の問題としてとらえ、さらにそこでの世帯員のパーゲニングパワーがかねらの各個人の「生活水準」を決定しているという分析フレームワークで考えると、再度エキサイティングな問題としてよみがえる。歴史の中の「生活水準」とは、すなわち各個人の生活環境そのものを再構築することに他ならない。とくに、本演習では母親と乳幼児の生活環境に着目していきたい。

授業内容：

演習であるからには、年度末には受講生は各自研究報告書を提出することになる。そのために、まず「生活環境」の範囲を比較的広く考え、18 世紀から 20 世紀前半にかけての医療・疾病・衛生・保健・人口・家族に関する基本的な文献について講読・議論する。つぎに、各自のテーマを尊重しつつ、「生活環境の社会史」に関する共同のデータベースを構築していく（データベースの作成については演習時に指示する）。とくに、本年度は日本の各機関に所蔵されている 19 世紀後半から 20 世紀前半の日本に残された伝染病流行に関する資（史）料の収集と分類に力を入れていきたい。つまり、本年度はそのことに関する本格的な分析を進めていくための「体力」を蓄える時期として位置付けたい。

最初の時間に演習予定表とシラバスを各担当者が配布する。

社会・環境論演習（生活環境の社会史）

教授 友部 謙一

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

社会・環境論演習

教授 細田 衛士

教授 大沼 あゆみ

専任講師（有期）河田 幸視

授業形態：秋学期2単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習においては、環境経済論の理解を促進し、より発展した水準の内容にまで到達できるようにすることを目的とする。

授業内容：

次のような内容を持った原著論文から適宜選択して読む予定である。具体的にどのような論文を読むかは、授業の開始前に提示する予定である。

1. 廃棄物の処理・再資源化に関する理論・実証分析。
2. デポジット制度など、回収に関する理論・実証分析。
3. グリーン・デザインや拡大生産者責任に関する理論分析。
4. 物質フローの制御問題に関する理論分析。
5. 生態系や種の多様性についての理論・実証分析。
6. 汚染物質制御に関する理論・実証分析。（水質汚染，大気汚染，土壌汚染などをモデル化したものあるいは実証的に扱ったもの。）
7. 環境問題を所有権の観点から扱った分析。
8. 排出権売買の静学的および動学的理論分析。
9. 枯渇性資源の最適利用に関する理論・実証分析。
10. 再生可能資源の最適利用に関する理論・実証分析。

本演習は、環境経済論の基礎知識を有していることが前提となる。

なお、学会・セミナー発表用の論文が完成あるいは準備できた場合、その論文をこの演習で報告することもあり得る。発表を希望するものは、担当教員に申し出ること。

リーディング・リスト：

授業中にリストを配布する。

（注意）この他、定期的な研究会に出席し、報告することが義務づけられる。

社会・環境論演習

教授 松村 高夫

教授 矢野 久

教授 倉沢 愛子

教授 清水 透

教授 金子 勝

授業形態：春学期2単位・合同演習

授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸学科を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

教員（担当者）は毎回の授業に全員出席するが、主として院生による報告とそれに基づく討論を重ねていく。担当者の専門には限定されないような仕方で運営していきたい。活発な議論を通して参加者各自の研究が刺激されることが望まれる。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

社会・環境論演習

教授 松村 高夫

教授 矢野 久

教授 倉沢 愛子

教授 清水 透

教授 金子 勝

授業形態：秋学期2単位・合同演習

授業内容：

春学期参照。

社会・環境論演習（環境政策）

講師 山口 光恒

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の春期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいかにつき演習形式で進める。

授業内容：

今年度は春秋とも温暖化問題に集中する。講義内容は履修者の知識を見て決める。京都議定書が発効したがこ

ここで規定しているのは2012年までであり、今後の国際交渉のテーマの重点はそれ以降（ポスト京都議定書）の枠組みに移っている。こうした中で春学期は日本の京都議定書達成に向けての政策評価を行った上で、ポスト京都の枠組みを中心に論議を進める。

テキスト：

- *Building on the Kyoto Protocol, Options for Protecting the Climate*, ed. by K. A. Baumert et al, WRI, 2002
- *Beyond Kyoto, Advancing the international effort against climate change* Joseph E. Aldy et al. Pew Center, 2003
- 日本国政府『京都議定書目標達成計画』2005年4月
- 産業構造審議会『気候変動に関する将来の持続可能な枠組みについて』2004年11月 等
- *Near-term technology policies for long-term climate targets—economy wide versus technology specific approaches*, Bjorn A. Sand!ena and Christian Azar, Energy Policy 33, 2005
- *Stabilization Wedges : Solving the Climate Problem for the Next 50 Years with Current Technologies*, S. Pacala and R. Socolow, Science, Vol.305, 13 August 2004 等

リーディング・リスト：

適宜指示する。

社会・環境論演習（環境政策）

講 師 山 口 光 恒

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

年間を通して行う演習の秋期分。春学期・秋学期連続した内容となっているので極力年間を通した履修が望ましい。

本演習は環境政策オリエンテッドな内容である。現在国際的に流動的な環境問題を最新且つオリジナルな資料によりながら研究し、日本或いは世界がどうしたらよいのかにつき演習形式で進める。

授業内容：

技術開発・革新がなくては地球規模での有効な温暖化対策は不可能である。ではそのような技術はどのようなものか、また、そうした技術開発を可能にする対策とはどのようなものか。更にTechnology Lock-in対策はあるのか。秋学期はこうした問題意識の下に代表的文献によりつつ議論を深める。更に国際共同執筆が進行中のIPCCの作業にも注目し、その中で技術の扱いの動向も追う。

テキスト：

- *Near-term technology policies for long-term climate targets—economy wide versus technology specific approaches*, Bjorn A. Sand!ena and Christian Azar, Energy Policy 33, 2005
- *Stabilization Wedges : Solving the Climate Problem for the Next 50 Years with Current Technologies*, S. Pacala and R. Socolow, Science, Vol.305, 13 August 2004

- Gritsevsky A., and N. Nakicenovic *Modelling uncertainty of induced technological change*. In : Grübler, A., Nakicenovic, N., Nordhaus, W. D. (eds). Technological change and the environment. Resources for the Future, Washington DC, USA, 2002

- マイケル・グラブ「技術革新と温暖化政策：エネルギー部門の技術開発における論点と対策オプション」三田学会雑誌98巻2号、2005年7月 他

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

授業形態：春学期2単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

機構設計 (mechanism design) の問題に関係する文献を中心に幾つかの基本的文献を展望した上で、学生の関心を考慮して関連文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

ミクロ経済学演習

教 授 長 名 寛 明

授業形態：秋学期2単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読

授業内容：

春学期に引き続き、機構設計 (mechanism design) の問題に関係する文献を講読する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

プロジェクト科目

プロジェクト（東アジアスタンダードの創造）

教 授 松 村 高 夫

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：春学期2単位・講義

目標・意義・方法：

本年度は、「東アジア・スタンダードの創造」を統一テーマとする。

近年、靖国問題、教科書問題、戦後補償問題、領土問題等を通して、近隣諸国家では「反日」の機運が高まっ

ている。中国や韓国の主張と日本の主張との間の捩れはどこに起因するのか、どこまで共通の歴史認識をもつことが可能なのか、それを検証することを第一の課題とする。また、共通の歴史認識の上に立って、グローバル・スタンダードに対抗しうような東アジア・スタンダードを発信することができるのか、という課題をも設定したいと考える。

韓国・中国からそれぞれ代表的な歴史家、思想家を招き、日本側の主張と対決させ、問題の深部を抉りだす手法を採る。学生諸君の積極的な参加を希望する。

経済学部設置「現代社会史」（金曜日2,3時限）も必ずあわせて受講すること。

授業内容：

第1回 4月14日

東アジアと日本——どこに問題があるのか？

寫信彦（ジャーナリスト）・大村次郷（フォトジャーナリスト）

第2回 4月21日

日本経済の未来と東アジア

藤原作弥（日立総合計画研究所取締役社長・前日本銀行副総裁）・金子勝（慶應義塾大学経済学部教授）

第3回 4月28日

国際政治の観点からみた東アジアと日本

加藤紘一（衆議院議員）・田中秀征（政治評論家・福山大学経済学部教授）

第4回 5月12日

日中関係をどう捉えるか(1) 近現代日中関係史

歩平（中国社会科学院近代史研究所長）・江田憲治（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

第5回 5月19日

日中関係をどう捉えるか(2) 毒ガス・細菌戦と731部隊

歩平・松村高夫（慶應義塾大学経済学部教授）

第6回 5月26日

日中関係をどう捉えるか(3) 教科書問題と歴史認識

歩平・渡辺春己（弁護士）

第7回 6月2日

東アジアの過去・現在・未来

歩平・池明観（元東京女子大学教授）

第8回 6月9日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(1) 日本人のアジア認識

池明観・子安宣邦（大阪大学名誉教授）

第9回 6月16日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(2) 韓国併合の虚実

池明観・海野福寿（明治大学名誉教授）

第10回 6月23日

日韓・日朝関係をどう捉えるか(3) 戦後の日韓関係

池明観・杉原達（大阪大学大学院文学研究科教授）

第11回 6月30日

日本の選択(1) 日本国憲法と日本の役割

土井たか子（元衆議院議長・前社会民主党党首）・小川和久（軍事アナリスト）

第12回 7月7日

日本の選択(2) 天皇制と民主主義

鈴木邦男（一水会顧問・評論家）・加藤哲郎（一橋大学大学院社会学研究科教授）

第13回 7月14日

日本の選択(3) どこに思想の基点を置くか

総括フォーラム

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 Ω12 教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201 教室 13:00~14:30
4月5日(水) 三田 519 教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11 教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水)、13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

① 慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

〔開講予定科目〕※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔研修内容〕

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出(週末)。

〔単位数〕

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕60名

② 慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕40名

③ 慶應義塾大学 ― パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の1つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2005年度参考〕 2006 年 2 月 19 日（パリ）～ 2006 年 3 月 18 日

〔講義内容 2005年度参考〕

1. “The History of Europe: Once upon a time...”
2. “An introduction to European Institutions”*
3. “European public Space and Democracy”*
4. “National political parties and Europe: are they European ?”
5. “The values of the European(s)”
6. “The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integraion of formerly Socialist countries”
7. “The Challenges of a Common Immigration Policy”*
8. “Joining the EU: is Turkey specific ?”
9. “European welfare states”
10. “Is there a European capitalism ?”
11. “The growth performances of European economies”
12. “Monetary governance in Europe”
13. “Fiscal governance in Europe”
14. “Public services in Europe”
15. “US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest”*
16. “The challenges of a European security policy”*
17. “Europe and the Middle East Conflict”*
18. “Ageing and generational equality in Europe”

単位取得：4 単位（卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。）

定 員：30 名（うち 10 名は上智大学生）

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU 関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
 （なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）
3. 手続方法
 履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

 所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall

3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日の問題

(春学期) (Spring)

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー, レス

Leslie Terry

国際センター講師 (ビクトリア工科大学文学部助教授)

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences,
Victoria University of Technology)

Course Description:

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

Class Schedule per week:

- | | |
|---------|--|
| Week 1 | Lecture and discussion: Introduction <Articles> |
| Week 2 | Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material> |
| Week 3 | Video: <i>The Castles</i> or <i>The Bootman</i> : The Australian state in transition <Video> |
| Week 4 | Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles> |
| Week 5 | Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles> |
| Week 6 | Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles> |
| Week 7 | Film: <i>Looking for Alibrandi</i> : Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles> |
| Week 8 | Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles> |
| Week 9 | Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings> |
| Week 10 | Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings> |
| Week 11 | Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles> |
| Week 12 | Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings> |
| Week 13 | Test and Evaluation |

Grading Methods:

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

Mario Antolinez

国際センター講師

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on

unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

Session 1: Introduction

Session 2: The Actors

Session 3: The Inter-American System

Session 4: Latin American Integration and Association

Session 5: Economic Outlook

Session 6: International Relations

Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants

Session 9: Cuba: The Socialist Way

Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery

Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy

Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution

The Caribbean: Colonies and Micro-states

Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

現代の国際問題と国連の役割

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク, ラビンダー 国際センター講師 (元国連大学学長室長)

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to

formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

Text Books:

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

Reference Books:

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
 - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55th Session, Sept. 2000
 - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
 - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
 - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
 - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

Class Schedule per week:

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO
Week 2: GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION
Week 3: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)
Week 4: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)
Week 5: OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS
Week 6: INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY
Week 7: SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)
Week 8: GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY
Week 9: HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)
Week 10: WOMEN AND DEVELOPMENT
Week 11: AGING SOCIETY
Week 12: REFUGEES AND MIGRATION
Week 13: FINAL REPORTS AND EVALUATION

Message to those taking this Course:

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

Grading Method:

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

Requests, Questions:

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: rabindermalik@hotmail.com

I look forward to working with you this semester!

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal

- Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師（関西外国語大学助教授）

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and

concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼い慣らす』河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Class Schedule:

- I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)
- II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)
 1. Communities without Boundary
 2. Invention of Kingdom
 3. Plural and Shifting Identities
- III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)
 1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
 2. Politics over Autochthony
 3. Religious Fundamentalism and the Youth
 4. Crises of Trust and Identities
- IV. Development and Communities (4 sessions)
 1. Voluntary and Saving Associations
 2. Elite and Local Development
 3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods:

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

List of Topics:

– Introduction: Time of Change & Innovation

- Trends In International Business Leadership /and Strategy
 - Encouraging Ideas / Innovation
 - What to Do About Decaying Strategy
 - How to Become A Global Innovator
 - New Market Expansion and Entry
 - U.S. ,China, Thailand, Japan
 - Global Leaders/Global Partnerships
 - A look at Global Leaders
 - Global Companies/Working Overseas
 - Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
 - Creativity in Leadership
 - Future of International Business
- Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter theirs inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian ? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

Class Schedule:

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster ?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

Grading Methods:

Presentation and participation

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ

国際センター講師

Mukesh K. Williams

Lecturer International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

Text Books:

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- 1st Week: Shopping
- 2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,
- 3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues
- 4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."
- 5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.
- 6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.
- 7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).
- 8th Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.
- 9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.
- 10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy
- 11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participation 10 % credit

現代中国社会

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

Text Books:

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

Reference Books:

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

Class Schedule per week:

Week 1. Class Orientation

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

Week 5/6. Reforms and Urban Social Change

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

Week 7. Mid-term

Week 8. The plight of Rural Population

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

Week 9. The Internal Rural Urban Migration

1. The floating population and the social problems

Week 10. Women in Post-reform China

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

Week 11. Family Planning and One Child Policy

Week 12. The Changing Popular Culture

Week 13. Out-migration and Transnationalism

Grading Methods:

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

ドイツ文化と社会

(秋学期) (Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤク リーン

国際センター 講師

Jacqueline Waniek

Lecturer International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

Text Books:

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945* (Studies in Contemporary History). New York: Palgrave Macmillan.

<http://www.deutschland.de/home.php>

Reference Books:

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

Class Schedule per week:

1. Introduction
 2. Demographic data, geography, climate
 3. History of Germany
 4. Challenges through German reunification
 5. Germany and Europe
 6. Social structure
 7. Demographic changes
 8. Political System
 9. Educational System
 10. Science and Technology
 11. Culture and Traditions 1
 12. Culture and Traditions 2
- Final class

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

Grading Methods:

1. Exam (Final Exam 30%)
2. Reports (none)
3. Attendance, Participation (regular attendance 50%)
4. Other (group project presentation 20%)

比較映画論:映画における歴史の表象

(秋学期) (Fall)

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

Text Books:

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

Class Schedule per week:

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts & Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ) (USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ) (USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ) (Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド) (Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー) (UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ) (France, 1982)

Grading Methods:

1. Reports (Short essays, 10%; Final Paper 50%)
2. Attendance, Participation (40%)

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> * this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

Note:

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

Text Books:

None, will be using handouts

Reference Books:

None, will be using handouts

Class Schedule per week:

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

Grading Methods:

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

文化・文化適応とアイデンティティ

(秋学期) (Fall)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

Text Books:

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

Reference Books:

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
- Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
- Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

Class Schedule per week:

1. Introduction: What is culture ? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief ? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me ?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this ?—Culture shock and coping
5. Who am I ? Where do I come from ? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home ? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak ? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

Message to those taking this Course:

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

Grading Methods:

1. Reports (Ethnographic Study)
2. Attendance, Participation (Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory)
3. Other (Presentations and comments on presentations)

Questions, Requests:

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

Aftab Seth

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

Course Description:

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the proceeding paragraph.

Text Books:

None

Reference Books:

None

Class Schedule per week:

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

Message to those taking this Course:

Those interested in learning about communication may attend.

Grading Methods:

1. Exam(in class exam)
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

(秋学期) (Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001 年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

Read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance, Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Hybrid Management Styles
 Leading Foreign Firms Successfully
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
 Political and Economic Risks in Asia
 Executive Development and HR
 Challenges in Asia
 Competition with Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 Company Presentations
 Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.
 Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

 国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

 Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Books:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Reference Books:

- ・ David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
- ・ David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
- ・ Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- ・ Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerfreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- ・後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』＜シリーズ国際開発：第4巻＞日本評論社，2005年。
- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』＜第3版＞，国際開発ジャーナル社，2004年。

Class Schedule per week:

- 第1回： Orientation
- 第2回～第3回： Introduction to international development cooperation
- 第4回～第6回： Major issues (Part 1: Theory)
- 第7回～第9回： Major issues (Part 2: Practice)
- 第10回～第12回： Major issues (Part 3: Actor)
- 第13回： Prospects of international development cooperation

Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

現代インド事情		(秋学期) (Fall)
INDIA TODAY		
西村祐子	国際センター講師（駒澤大学教授）	
Yuko Nishimura	Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)	
セツト, アフターブ	慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授	
Aftab Seth	Professor, Keio University Global Security Research Center	

Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

Textbooks:

- Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.
- Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

Reference Books:

- J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.
- Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.
- Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.
- Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.
- Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahmo Samaj and Arya Samaj: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

Message to those taking this Course:

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

Grading Methods:

Reports (60%)

Attendance, Participation (40%)

Questions, Requests:

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: yukon@b1b2.org (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(秋学期) (Fall)

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

Text Books:

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Message to Those Taking This Course:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

Evaluation:

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses on the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

Reference Books:

Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elgar Pub.

Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.

Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.

Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.

McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.

Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.

加藤弘一 著『電脳社会の日本語』文春新書, 2000

Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.

Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.

Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.

Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

Inquiries:

jonathan_lewis@mac.com

SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1

樽井 正義	文学部教授
Masayoshi Tarui	Professor, Faculty of Letters
エアトル, ヴォルフガング	文学部助教授
Ertl, Wolfgang	Associate Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Virtue ethics

Course Description:

The Movement of virtue ethics was initiated in the 1950s to correct the shortcomings of the then dominant strands of ethics, namely (what was taken to be) Kantian deontology and Utilitarian consequentialism. As an alternative, the virtue ethicists, inspired by the works of ancient philosophers, claimed to offer different accounts of morality, putting the emphasis on notions such as character and emotions.

This turned out to be very productive in that it led to a reconsideration of the standard classification of ethical theories and to a reinterpretation of the philosophers at issue. As far as Kant's moral philosophy was concerned, this led to a far more nuanced reading.

Moreover, the followers of virtue ethics triggered investigations on topics which have for a long time been neglected in moral philosophy.

We will closely follow Rosalind Hursthouse's book, which gives a very reliable overview of the relevant debates connected to virtue ethics, but we will also look into primary sources (such as Kant's *Grundlegung* and Aristotle's *Nicomachean Ethics*).

In addition to this, the seminar is meant to provide the opportunity to graduate students for presenting their own work in the field of ethics.

Text:

Rosalind Hursthouse: On Virtue Ethics. Oxford et al.: OUP 1999

GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

田中俊郎	ジャン・モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部助教授
Yuichi Hosoya	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Treaty establishing a Constitution for Europe, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 25 member states on May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call Extension 23462 for appointment.

Accounting

伊藤 眞	商学部教授
Makoto Ito	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IASs) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRSs) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is

restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRSs and improve IASs.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IFRSs (including IASs) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, are required to report in accordance with IFRSs from year 2005. Many countries introduces IFRSs for their listed enterprises on are taking steps to harmonize their national accounting standards with IFRSs with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the brief history of IASs, IASC and IASB, Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS2 “Inventory”, IAS11 “Construction contracts” and IAS39 “Financial Instruments: Recognition and Measurement”, which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IFRSs, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

Text:

International Financial Reporting Standards 2005, IASB

金融特論

(秋学期) (Fall)

ADVANCED STUDY OF FINANCE

深尾光洋

商学部教授

Mitsuhiro Fukao

Professor, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

Corporate Governance and Financial System

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Scheifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, “Breach of Trust in Hostile Takeovers”, in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. “Takeover Politics”, in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., “Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States,” *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1994

Christine Pochet, “Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study”, IAE de Toulouse working paper 2002-152, June 2002.

Bank of Japan, “The Japanese Employment System,” Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, “Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders,” remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IIRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., “Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.,” February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, “Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure,” Seoul

Journal of Economics, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Evaluation:

Grading will be based on the term paper and class participation. The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example: Comparison of governance structures among some countries, Governance structure of government owned companies and private companies, Issues related to bankruptcy procedures, Security exchange law and governance system, Incentive mechanism for directors, Banking problems and deposit insurance system.

Text:

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

Reference Books:

See above.

国際経済

(秋学期) (Fall)

International Economy

小島明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate in many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

"Globalization and its Discontent", Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI "White Paper on International Trade" 2004, 2005 (This document can be accessed through METI web site, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and document of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション1 ―日本のコミュニケーションパターンから見た場合―

(春学期) (Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amai psychology: prototype of Amai and definition of Amai
7. How Amai psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sasshi, Enryo and Honne vs. Tatemaie
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed

range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

Format:

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

Readings:

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

Lecture Topics:

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

Grading and Required Work:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

Course home page:

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

Email for the instructor:

ehk@gol.com or e_kinmonth@mail.tais.ac.jp

源氏物語への道

(春学期) (Spring)

THE TRAIL OF GENJI

アーマー, アンドルー

Andrew Armour

文学部教授

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as "the world's first novel". Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/genji.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;

3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営	(春学期) (Spring)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	
梅津光弘	商学部助教授
Mitsuhiro Umezu	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Text Book:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G.Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質 edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

Class schedule:

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

Class Schedule per week:

- 1 COURSE INTRODUCTION
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.
FIRST IMPRESSIONS
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- 2 THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
Students read Nakano Shigeharu, "The House in the Village"
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the "tenko" (conversion) movement.
- 3 "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
Students read Kobayashi Hideo, "Literature of the Lost Home"
Lecture on the "furusato" boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- 4 THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei's "Soldier Trilogy"
- 5 "THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS": A GRAMMAR OF *GUNKA*
Students read Ishikawa Jun, "Mars' Song"
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- 6 "PURE AND SIMPLE": PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)
Students read John Dower, *War Without Mercy*
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- 7 "THIS IS NO LAUGHING MATTER—OR IS IT?": CARTOONISTS AND THE WAR
Students read Sodei Rinjiro, "The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro"
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡／「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- 8 THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- 9 RECYCLED HEROES
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi's *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- 10 THE "NINE GODS OF WAR" IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM
Students read Sakaguchi Ango, "Pearls" and Dorsey, "Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: 'Fascist Proclivities' Made Real"
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- 11 SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Grading Methods:

1. Reports (2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40%)
2. Attendance, Participation 35%

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties (2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 ―異文化接触における日本人のアイデンティティー

(秋学期) (Fall)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Course schedule:

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本キリスト教史

(秋学期) (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハッチェット, ヘレン

経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule (Subject to change) :

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA: DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable ? : perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学	(秋学期) (Fall)
JAPANESE LITERATURE	
アーマー, アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

References:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

James Raeside

Professor, Faculty of Law

Course Description:

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20th century and ending with the last.

Text Books:

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

Reference Books:

The Oxford Book of Japanese Short Stories. Ed. Theodore Goossen.

The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

Weekly Class Schedule:

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

- Week One: Orientation
- Week Two: Mori Ogai
- Week Three: Nagai Kafu
- Week Four: Muro Saisei
- Week Five: Hayashi Fumiko
- Week Six: Noma Hiroshi
- Week Seven: Ibuse Masuji
- Week Eight: Kawabata Yasunari
- Week Nine: Mishima Yuko
- Week Ten: Tanizaki Junichiro
- Week Eleven: Tsushima Yuko
- Week Twelve: Oe Kenzaburo
- Week Thirteen: Murakami Haruki

Instructors Comments for Prospective Students:

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

Grading Method:

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド

経済学部助教授

David Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Class Schedule per week:

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part I
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part II
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The “Invention” of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

Grading Method:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師（産能大学教授）

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Text Books:

No particular textbook will be used.

Reference Books:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule per week (Subject to change):

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer’s international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students’ understanding of global business.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description :

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

Text Books :

- * some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- * some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

Reference material :

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

Class Schedule per week :

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

Message to those taking this Course :

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

Grading Methods :

1. Reports (essays)
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

Questions, Requests :

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

Japanese Psychology in Contemporary Japan (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

'Amae' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and '*Doraemon*'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Grading methods:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」—日本美術史入門

(秋学期) (Fall)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝

文学部教授

Masatomo Kawai

Professor, Faculty of Letters

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

Course Schedule:

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in *Art, Tea, and Industry* (1993).
3. From Edo to Meiji

- READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in Nihonga (1995).
4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia
READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, The Ideals of the East (1903)
 5. Body and the Nude
READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in Gender and Power (2003).
 6. Urban Spectacle and the Modernist Vision
READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in Recreating Japanese Women (1991).
 7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan
READING: Kim Hyeshin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in Gender and Power (2003)
 8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan
 9. Action and Expression: the Gutai Association
READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in Out of Actions (1998).
 10. "Anti-Art" in the 60s
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in Japanese Art After 1945 (1994).
 11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography
READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in Ankoku Butō (1988).
 12. Architecture and the Public Space
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in Tokyo: Form and Spirit (1986).
 13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in Morimura Yasumasa (1996)

Bibliography:

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

Requirements:

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

Grading Methods:

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

Class Schedule:

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

Grading methods:

Report and participation

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" Foreign Affairs, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?
 Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
 Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
 Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
 Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete ?"
 Macmillan Press Ltd. 2000
 Richard Katz, chapter 16 "Competition policy — Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not."
 Chapter 19. "Tax Reform — Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

Text Books:

METI "White Paper on International Trade," 2004, 2005

Recommended Readings:

"Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

"Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications", by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

吉野 直行	経済学部教授
Naoyuki Yoshino	Professor, Faculty of Economics
嘉治 佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train the students to apply economic theory, econometric techniques and economic institution to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese Industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: cause and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

References:

1. Yoshiro, Naoyuki and Seiritsu Ogura (1988) 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press
2. Yoshino, Naoyuki et. al. (2000) 'Eigo de Yomu Nihon no Kinyu' (Economic Issues of Contemporary Japan), Yuhikaku publishing
3. Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara (2002) 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26
4. Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill (2003) *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press
5. Takatoshi Ito (1992) *The Japanese Economy*, MIT press
6. For lighter reading on Japan, student may turn to Kaji, Hama, and Rice (1999) *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 3.99 pounds.

More references will be given during the lecture.

Grade:

Final examination 70%, Class participation 30%

ドゥウルフ, チャールズ	理工学部教授
Charles De Wolf	Professor, Faculty of Science and Technology

Sub Title:

Science in Cross-Cultural Perspective

Course Description:

The leitmotif of this course is the question of how our perceptions of and approaches to science are influenced both by the Zeitgeist and by the particular culture in which we have grown up. How, for example, is the "evolution controversy" in America a peculiarly "American" phenomenon? How is it that Japanese scientists and engineers appear to be (on the whole) remarkably indifferent to ideological issues? Other topics include : (1) what is a proper or possible subject of scientific inquiry. To what extent, for example, can the study of language be considered "scientific"? (2) What is the appropriate role of scientists in

matters political and social? In addition to the primary goals discussed above, it is hoped that this course will enable non-Japanese students to have a better understanding of Japanese history and culture through a cross-cultural approach to the philosophy of science. Students are strongly encouraged to participate actively, discussion being preferred to "lecturing."

Textbook:

Materials to be distributed by instructor

Reference Material:

To be announced

Lesson Plan:

1. Words for science: the concept of science in historical and cultural perspective
2. "Hard sciences" vs. "Soft sciences"
3. Linguistic science I: an historical overview
4. Linguistic science II: How "scientific" is linguistics?
5. Science and culture
6. Science and ideology
7. Science vs. scientism
8. The evolution debate in cross-cultural perspective
9. Science in Japan: an historical overview
10. Science and technology; science vs. technology
11. The role of the scientist in society: a cross-cultural perspective
12. Loose ends

知的資産センター設置講座（平成18年度開講）

1. 知的資産センター設置講座にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとし広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授） 清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。

本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」竹田著、ダイヤモンド社

「著作権の考え方」岡本著、岩波新書

授業計画の内容：

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組み
3. 著作権の仕組み
4. 商標ブランドの価値
5. マルチメディアに関する知的財産
6. キャラクタービジネス
7. 音楽に関する著作権問題
8. 企業における知的財産戦略
9. 知的財産に関する世界の動向
10. 知的財産の紛争処理
11. ベンチャー・起業の仕組み
12. 知的財産ビジネス
13. 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。

デジタルメディア・コンテンツ（DMC）統合研究機構設置講座

デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構（DMC機構）は、2004年7月に文部科学省科学技術振興調整費の戦略的研究拠点育成プログラムに採択され、設立された組織です。デジタルコンテンツの創造と流通を通して環境の整備と大学のシステム改革・制度改革を行い、社会の流れを変えることを目的としています。

設立後の1年間でDMC機構は、（1）研究員の年俸を50%増減まで変動可能とする年俸制の制定、（2）海外在住の研究員の任用、（3）高度な技術を持つ技術専門職を登用するための専門員制度の導入など、いくつかの制度改革を行いました。教育環境においては、学生が動画を使ったレポートを提出する時代を想定し、コンテンツと表現力が重視される時代を慶應義塾が先導できるよう、メディア環境を対応させていくことを目指しています。そして来たるべき“コンテンツの時代”において、シナリオを持ったコンテンツの創造と流通ができるように、各キャンパスにデジタルコンテンツ工房と呼ばれる拠点を設置しました。

またDMC機構は、北米・欧州・アジアにもいくつかの拠点を整備しています。世界中の多くの連携機関との共同研究を行なうことで、国際的研究活動も展開します。海外拠点においては、国際的な人材育成を目指した国際インターンシップ制度の導入も検討中です。デジタルコンテンツは分野・領域を問わず必要とされる異分野が融合されたものであります。総合大学として、国際的人材が育成できる教育プログラムの検討も進めています。

各キャンパスの工房では、コンテンツ作成を可能にする設備とサービスが展開されています。一人一人が快適にデジタルコンテンツを作成し、安心して利用できるようなメディア環境を整備することで、デジタルコンテンツがより身近な存在になることを願っています。そしてコンテンツの利用が、また別の新しいコンテンツの創造につながるようなサイクルを生み出すシステムへ成長させていきたいと思えます。

ネットワーク環境、デジタル環境がめまぐるしく進歩していく中で、デジタルコンテンツの世界には無限の可能性がありますが、しかし、デジタルコンテンツに関する著作権の問題やセキュリティ（安全性）の確保など、まだまだ課題もたくさんあります。それらの課題に取り組み、実験的試みを繰り返しながら、社会に貢献できる研究成果を生み出すための体制を築きたいと考えています。

DMC機構は研究体制の再編や制度改革を繰り返しながら5年間のプロジェクトを通して大きな研究成果をあげるとともに、科学技術振興調整費による支援終了後の組織の財政的自立を視野にいれ、知の創造と流通を通じた社会貢献と国際社会への人材の創出を目指します。

本年度は以下の3講座を開設いたします。

「デジタルメディア・コンテンツ（DMC）産業論」（金 正勲）

2006 年度 春学期 木 3 限

2 単位

カテゴリ：（大学院）

開講場所：三田キャンパス

授業形態：講義と討論

1. 主題と目標 / 授業の手法など

知識社会の深化や創造社会への移行に伴い、デジタルメディア・コンテンツ (DMC) 産業への関心が近年急速に高まっている。コンテンツのデジタル化、ネットワークの IP 化・ブロードバンド化の急速な進展は、既存のコンテンツとメディアの垂直統合構造を崩壊させ、同一コンテンツのメディアを跨ぐシームレスな流通を可能にした。中でも、iTunes などに見られる音楽・映像コンテンツのネット配信、放送番組コンテンツのネット配信、デジタルシネマ、オンライン広告、オンラインジャーナリズム、モバイルコンテンツ流通、といったようないわゆるデジタルコンテンツのネットワーク流通が次世代の日本経済を担う中核部門として注目されている。しかし、デジタルコンテンツのネットワーク流通を巡っては、解決を要する様々な技術的・商業的・社会的・政策的問題が山積しており、これらの問題を議論・分析するための知識・人的基盤は十分に構築されていない現状にある。上記の問題意識の下に、本講座では日本のデジタルメディア・コンテンツ産業の現状と今後の行方を、学際的な立場に立ち、研究・実務の両面から検討することを目的とする。本講義は、講義、ゲストレクチャー、そして討論によって構成される。

2. 教材・参考文献

毎回の授業においてハンドアウトを配布する。とくに教科書のような教材は用いないが、この授業の参考になる文献やリソースについては、第 1 回目に紹介する。それ以外にも必要があれば、適宜紹介する。

3. 授業計画

第 1 回 オリエンテーション

- ・概要説明（全体の構成、達成目標と運営方針、成績評価の基準）

第 2 回 メディア融合時代のコンテンツ産業－ 価値連鎖の変容を中心に

- ・講師によるレクチャー

第 3 回 音楽産業－ 音楽のネット配信を中心に

- ・ゲスト（株式会社・よん・なな・みゅーじっく）によるレクチャーと討論

第 4 回 放送産業－ 放送番組のネット配信を中心に

- ・ゲスト（TBS）によるレクチャーと討論

第 5 回 映画産業－ デジタルシネマを中心に

- ・ゲスト（慶應 DMC）によるレクチャーと討論

第 6 回 出版産業－ 電子出版とオンラインジャーナリズム、ブログを中心に

- ・ゲスト（日経メディアラボ）によるレクチャーと討論

第 7 回 検索エンジン産業－ 次世代検索エンジンのビジネスモデルを中心に

- ・ゲスト（Google Japan）によるレクチャーと討論

第 8 回 キャラクタ産業－ キャラクタの多メディア展開を中心に

- ・ゲスト（小学館）によるレクチャーと討論

第 9 回 レンタル産業－ ネット時代の連絡産業の在り方を中心に

- ・ゲスト（CCC）によるレクチャーと討論

第 10 回 アートマネジメント産業－ ネット時代のアートマネジメントを中心に

- ・ゲスト（慶應 DMC）によるレクチャーと討論

第 11 回 コンテンツ政策－ デジタルコンテンツ産業振興策を中心に

- ・ゲスト（内閣官房知的財産戦略推進事務局）によるレクチャーと討論

第 12 回 創造立国に向けて－ ポップカルチャーと創造立国を中心に

- ・ゲスト（スタンフォード日本センター）によるレクチャーと討論

第 13 回 全体のまとめ

4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

出席（30%）

レポート（70%）

5. 履修上の注意・その他

諸事情によりゲストの変更可能性有り

6. 前提となる知識（科目名等）

なし

7. 履修者数制限（予定人数および制限方法）

履修人数を制限しない。

8. 授業 URL

なし

9. 学生が準備するソフト・機材

なし

10. 授業に関する連絡先

kim@dmc.keio.ac.jp

「DMC 創造経済演習」(金 正勲)

2006 年度 秋学期 木 5 限

2 単位

カテゴリ： (大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：ディスカッション

1. 目的・内容

本演習は、知識情報社会の次の社会経済ステージとして最近注目される創造経済 (Creative Economy) について、その歴史的な文脈を踏まえ、学際的な観点から考察を行うことを目的とする。授業はその週の Readings を事前に読むことを前提に、ディスカッション形式で進める。受講者は、Readings に関し 3 回にわたる synthesis papers を作成することで創造経済に関する自分独自の視点を構築する。

2. 授業形式・形態

輪読とディスカッション

3. 授業スケジュール

下記の文献を輪読し、Synthesis Papers を作成することによって、創造経済の多面的な側面について理解を深める。

第 1 回 オリエンテーション

概要説明 (全体の構成、達成目標と運営方針、成績評価の基準)

第 2 回 システムとコントロール

Required Reading:

- James Beniger(1986) - Control Revolution

Optional Readings:

- Lewis Mumford(1963) - Technics and Civilization

- Michel Foucault(1977) - Discipline and Punish

第 3 回 市場、企業組織、ネットワーク

Required Reading:

- Walter Powell(1989) - Neither Market nor Hierarchy: Network Forms of Organization

Optional Readings:

- Henry Mintzberg(1979) - The Essence of Structure

- Ronald Coase(1937) - The Nature of the Firm

第 4 回 情報化社会

Required Reading:

- Daniel Bell(1973) - The Coming of Post-Industrial Society

Optional Readings:

- Fritz Machlup (1962) - The Production and Distribution of Knowledge in the United States

- Peter Drucker(1995) - Post-Capitalist Society

第 5 回 創造経済 I

Required Reading:

- John Howkins(2001) - The Creative Economy

Optional Readings:

- Joseph Pine III & James Gilmore(1998) - The Experience Economy
- Daniel Pink(2005) - A Whole New Mind: Moving from the Information Age to the Conceptual Age

第6回 創造産業 I

Required Reading:

- Richard Caves(2000) - Creative Industries

Optional Readings:

- Tom Peters(2005) - Design(Tom Peters Essentials)
- DCMS(2001) - Creative Industries Mapping Document

第7回 創造産業 II

Required Reading:

- John Hartley(2005) - Creative Industries

Optional Readings:

- Carl Shapiro and Hal Varian(1998) - Information Rules
- Terry Flew(2002) - Beyond Ad Hockery: Defining Creative Industries

第8回 創造性

Required Reading:

- Mihaly Csikszentmihalyi(2000) - Creativity

Optional Readings:

- Robert Sternberg(1999) - Handbook of Creativity
- Paul Romer(1993) - Ideas and Things

第9回 創造階層 I

Required Reading:

- Richard Florida(2002) - The Rise of Creative Class

Optional Readings:

- Thomas Friedman(2005) - The World Is Flat
- David Brooks(2000) - Bobos in Paradise

第10回 創造産業政策

Required Reading:

- John Howkins(2002) - The Mayor`s Commission on Creative Industries

Optional Readings:

- Shalini Venturrelli(2002) - From the Information Economy to the Creative Economy
- Stuart Cunningham(2004) - The Creative Industries After Cultural Policy

第11回 研究発表 I

第12回 研究発表 II

第13回 全体のまとめ

4. 評価方法

- ① Class Discussion への貢献度 (25%)
- ② Synthesis Paper I (20%)
- ③ Synthesis Paper II (20%)
- ④ Mega-Synthesis Paper と研究発表 (35%)

5. 履修条件

英語の文献がある程度のスピードで読めること。

6. 受入予定人数

15 人程度

7. 最低受入人数を超えた場合の選考方法

履修希望者が上限を大きく上回る場合には面接を行う。

8. 参考文献

3 を参照

9. 関連プロジェクト

なし

10. 課題

Readings に関する Synthesis Papers と研究発表

11. 連絡先

kim@dmc.keio.ac.jp

12. 研究室ホームページ

なし

13. 来期の研究プロジェクトのテーマ予定

なし

「DMC エンタテインメントコンテンツ・プロデュース論」(稲蔭 正彦・岸 博幸)

2006 年度 春学期 木 6 限

2 単位

カテゴリ： (大学院)

開講場所：SFC・三田キャンパス

授業形態：講義

1. 主題と目標 / 授業の手法など

我が国は、知的財産立国を目指しており、コンテンツは其中で重要な役割を期待されている。しかし、20 世紀型のコンテンツジャンル及びそのビジネスモデルは、国際競争力において優位な立場にない。このような状況の中で、メディアデザインプログラムでは、21 世紀型コンテンツジャンルの開拓とそのビジネスモデルの提言を行なう研究活動を行なっている。本授業は、大学院科目として設置し、ユビキタス社会における新しいコンテンツジャンルの可能性を探り、プロデュースをしていくために必要な要素を学ぶ。プロジェクトマネジメント、法務、財務、マーケティングをはじめ、最先端デジタル技術やネットワーク技術を活用したコンテンツビジネスについて考えていく。

本授業では、エンタテインメント・コンテンツ・ビジネスの理解に不可欠な基礎知識、日米欧におけるこれらビジネスの実体と問題点、デジタル技術等の最新の技術動向等を理解した上で、既存のビジネスの改善や新しいビジネスモデルの構築に関する実践的な提案を出来る能力を養成する。

本年度の授業は、1 学期を通してコンテンツ企画を行っていき、そのプロセスにおいて数回のプレゼンテーションとディスカッションを実施する。

2. 教材・参考文献

Entertainment Industry Economics : A Guide for Financial Analysis, Harold L. Vogel Cambridge Univ Press ISBN: 0-521-79264-9

コンテンツプロデュース機能の基盤強化に関する調査研究

http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/

3. 授業計画

第 1 回 プロデューサー論

本授業のオーバービューとして、授業の概要説明を行う。その後、政策、表現、技術の重要性を説明した上で、エンタテインメント・コンテンツのプロデューサーに不可欠な資質や、商品開発、リクープ等の基礎的な知識についての整理を行う。

第 2 回 エンタテインメント・コンテンツの広がり

アニメや音楽等の現代文化以外のエンタテインメント・コンテンツの中でも、特に今後重要性が高まると予想される伝統文化や地方の文化等について、現状及び将来展望を概観するとともに、プロデュースのあり方を論じる。さらに、21 世紀における新しいエンタテインメントコンテンツ領域の可能性をライフスタイルの観点から考察する。

第 3 回 プロジェクト・ケーススタディ

この授業でのケース・スタディの対象となる 4 つのエンタテインメント・コンテンツのプロジェクト案を紹介し、学生のグループ分けを行うとともに、担当のプロジェクトを決める。

第 4 回 コンテンツ・プロデュースの基礎

コンテンツのプロデュースに必要な最低限の知識、例えば、法務・財務、マーケティング等について、オーバービューを行う。

第 5 回 企画プレゼンテーション

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行い、更なる論点を掘り下げていく。

第 6 回 コンテンツの発掘、見極め方

プロデューサーにとって、コンテンツの原石を発掘しその可能性を見極めることは重要である。
プロデューサーのコンテンツに対する目利きのポイントを紹介する。

第 7 回 (6 月 2 日) プロジェクトプレゼン (グループ単位)

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第 8 回 (6 月 9 日) I T 政策、コンテンツ政策の方向性

政府の I T 政策、コンテンツ政策の現状と問題点を分析し、通信と放送の融合の方向性や、21 世紀の日本におけるコンテンツの重要性等についての理解を深める。

第 9 回 (6 月 16 日) コンテンツネットワーク流通

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第10回(6月23日)プロジェクトプレゼン(グループ単位)

提示された課題に対するプロデュースの企画案の改訂版のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行い、企画の完成に向けた詰めを行う。

第11回(6月30日)プロジェクトマネジメント

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第12回 ゲストスピーカー

著名なコンテンツ・プロデューサーを招き、新たなコンテンツの潮流や、コンテンツ・プロデュースの実際等についての議論を行う。

第13回 最終プレゼンテーション

提示された課題に対するプロデュースの最終提案をプレゼンテーションする。

4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

コンテンツ企画の課題発表と企画書による成績評価

5. 履修上の注意・その他

履修制限を行わないが、デジタルエンタテインメントプロデュース論(今年度からはエンタテインメントストラテジー)の履修者または同等の知識を有するものが望ましい。

6. 前提となる知識(科目名等)

なし

7. 履修者数制限(予定人数および制限方法)

履修人数を制限しない。

8. 授業 URL

なし

9. 学生が準備するソフト・機材

なし

10. 授業に関する連絡先

inakage@sfc.keio.ac.jp

関 係 規 程 抜 粋

経済学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

1－1 学位規程（抜粋）

1－2 学位の授与に関する内規

〈2 授業料減免〉

2－1 授業料等減免規程

2－2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

〈3 そ の 他〉

3－1 学生の国外留学に関する取扱い規則

3－2 大学院在学期間延長者取扱い内規

3－3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科
その他の学費に関する取扱い内規

1 学 位

1-1 学位規程（抜粋）

昭和31年2月17日制定
平成17年4月1日改正

（目的）

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（学位）

第2条 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士（哲学）
倫理学専攻	学士（哲学）
美学美術史学専攻	学士（美学）
日本史学専攻	学士（史学）
東洋史学専攻	学士（史学）
西洋史学専攻	学士（史学）
民族学考古学専攻	学士（史学）
国文学専攻	学士（文学）
中国文学専攻	学士（文学）
英米文学専攻	学士（文学）
独文学専攻	学士（文学）
仏文学専攻	学士（文学）
図書館・情報学専攻	学士（図書館・情報学）
社会学専攻	学士（人間関係学）
心理学専攻	学士（人間関係学）
教育学専攻	学士（人間関係学）
人間科学専攻	学士（人間関係学）

経済学部 学士（経済学）

法 学 部 学士（法学）

商 学 部 学士（商学）

医 学 部 学士（医学）

理工学部

機械工学科 学士（工学）

電子工学科 学士（工学）

応用化学科 学士（工学）

物理情報工学科 学士（工学）

管理工学科 学士（工学）

数理科学科

数学専攻 学士（理学）

統計学専攻 学士（工学）

物理学科 学士（理学）

化学科 学士（理学）

システムデザイン工学科 学士（工学）

情報工学科 学士（工学）

生命情報科 学士（理学）又は
学士（工学）

総合政策学部 学士（総合政策学）

環境情報学部 学士（環境情報学）

看護医療学部 学士（看護学）

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士（哲学）
美学美術史学専攻	修士（美学）
史学専攻	修士（史学）
国文学専攻	修士（文学）
中国文学専攻	修士（文学）
英米文学専攻	修士（文学）
独文学専攻	修士（文学）
仏文学専攻	修士（文学）
図書館・情報学専攻	修士（図書館・情報学）

経済学研究科 修士（経済学）

法学研究科 修士（法学）

社会学研究科

社会学専攻 修士（社会学）

心理学専攻 修士（心理学）

教育学専攻 修士（教育学）

商学研究科 修士（商学）

医学研究科

医科学専攻 修士（医科学）

理工学研究科

基礎理工学専攻 修士（理学）又は
修士（工学）

総合デザイン工学専攻 修士（理学）又は
修士（工学）

開放環境科学専攻 修士（工学）

経営管理研究科 修士（経営学）

政策・メディア研究科

政策・メディア専攻 修士（政策・メディア）

健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ
マネジメント専攻 修士（看護学）又は
修士（健康マネジメント学）

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士（哲学）
美学美術史学専攻	博士（美学）
史学専攻	博士（史学）
国文学専攻	博士（文学）
中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）
図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）

経済学研究科 博士（経済学）

法学研究科 博士（法学）

社会学研究科

社会学専攻 博士（社会学）

心理学専攻 博士（心理学）

教育学専攻 博士（教育学）

商学研究科 博士（商学）

医学研究科 博士（医学）

理工学研究科

基礎理工学専攻 博士（理学）又は
博士（工学）

総合デザイン工学専攻 博士（理学）又は
博士（工学）

開放環境科学専攻 博士（工学）

- | | |
|------------|-------------|
| 経営管理研究科 | 博士（経営学） |
| 政策・メディア研究科 | |
| 政策・メディア専攻 | 博士（政策・メディア） |
- 4 専門職学位
- | | |
|-------|-----------|
| 法務研究科 | |
| 法務専攻 | 法務博士（専門職） |
- ② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。
- ③ 第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。
（学士学位の授与要件）
- 第2条の2** 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。
（修士学位の授与要件）
- 第3条** 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。
（課程による博士学位の授与要件）
- 第4条** 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。
（論文による博士学位の授与要件）
- 第5条** 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。
（専門職学位の授与要件）
- 第5条の2** 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。
（学識の確認の特例）
- 第6条** ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。
- ② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。
（課程による学位の申請）
- 第7条** ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。
- ② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。
（論文による学位の申請）
- 第8条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。
（審査料）
- 第9条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。
- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000 円 |
| 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 | 70,000 円 |
| 3 前2号のいずれにも該当しない者 | 100,000 円 |
| 4 本塾専任教職員である者 | 20,000 円 |
- （医学研究科については 40,000 円）

- （審査ならびに期間）
- 第10条** ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。
- ② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。
（審査委員会）
- 第11条** 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。
（審査結果の報告・判定方法）
- 第12条** ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。
- ② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の合否を決定する。
- ③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。
（学位授与）
- 第13条** 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長は当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。
- ② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。
（学位論文要旨の公表）
- 第14条** 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。
（学位論文の公表）
- 第15条** 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。
（学位の表示）
- 第16条** 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「（慶應義塾大学）」と付記するものとする。
（学位の取消）
- 第17条** 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。
（学位記および書類）
- 第18条** 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表1から5までのとおりとする。
（規程の改廃）
- 第19条** この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。
- 附 則**
- ① この規程は平成17年6月3日から施行する。
〔以下省略〕

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定
平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 3 学位の授与手続きは、次の通りとする。
 - イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。
 - ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

- ② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。
- ③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。
- ④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。
- ⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

2 授業料減免

2-1 慶應義塾大学授業料等減免規程

平成元年7月18日制定
平成16年7月27日改正

（目的）

第1条 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあっては在学科等。以下「授業料等」という）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

（対象）

第2条 ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

③ 法務研究科（法科大学院）については別に定める。

（申請）

第3条 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

（減免額）

第4条 ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部については授業料等の半額および実験実習費の半額とする。なお、経済学研究科、法学部政治学科、理工学研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

② 正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

（審査）

第5条 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

（減免の取消し）

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることができる。

（就学の届出）

第7条 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

（所管）

第9条 この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成16年7月27日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

2-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定
平成12年5月30日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第153条および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）第124条により外国の大学に留学する学生（以下「留学生」という）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

- 1 留学の始まる日（以下「留学開始日」という。）の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内（医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内）の場合は、留学開始日から1年（医学研究科博士課程は2年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内（医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内）の場合は、留学開始日から2年（医学研究科博士課程は3年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成12年5月30日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

3 その他（経済学研究科委員会規程）

3-1 学生の国外留学に関する取扱い規則

昭和56年5月7日経済学研究科委員会報告
昭和56年4月1日実施

第1条 学部学則第153条及び大学院学則第124条により、学生が外国の大学へ留学する場合の取扱いは、この規則の定めるところによる。

第2条 国外留学を希望する者は、原則として、出発の3カ月前迄に所定の国外留学申請書を学長に提出しなければならない。所定の国外留学申請書には、履修を希望する授業科目名、履修期間、単位数、授業時間数、講義内容等を明記しなければならない。なお、事情により申請内容の一部を欠く場合には、教授会（または研究科委員会）の指示により、後日改めて追加することができる。

第3条 教授会（または研究科委員会）は、前項により提出のあった国外留学申請書に基づき、外国の大学において学習す

ることが教育上有益であると判断した場合は、学則第153条（または大学院学則第124条）に定める留学として取扱う。審議にあたっては、国際センター所長に意見を徴することができる。

第4条 この適用を受けて留学する学生の学籍の取扱いは留学とする。ただし、在学中に休学が認められ外国の大学において学習することはさしつかえない。この場合、この規則は適用しない。

第5条 外国の大学で履修する期間は1年以内とする。ただし、やむを得ない事情があると認めるときは、更に学部学生は1年、大学院生は2年以内に限り、その延長を許可することができる。留学期間の延長を希望する者は、国外留学延長申請書を提出しなければならない。

第6条 留学の期間は1年間に限り、学部学則（または大学院学則）に定める在学年数に含めることができる。

第7条 外国の大学で取得した単位は学部において30単位、大学院においては10単位を超えない範囲内で、これを学部学則（または大学院学則）の規定する単位に認定することができる。

第8条 外国の大学で取得した単位を学部学則（または大学院学則）の規定する単位として認定を希望する者は、所定の取得単位認定申請書に、次の資料を添付して、学部長（または研究科委員長）に提出しなければならない。

- 1 履修証明書（授業科目名、学習期間、時間数、単位数、成績等を明記）
- 2 受講した授業科目の内容

第9条 教授会（または研究科委員会）は科目の内容、授業時間数、評価等について審査し、単位認定の可否を決定する。この際、必要に応じて書類による審査の他、面接による審査を行うことがある。教授会（または研究科委員会）は、外国の大学等で修得した授業科目を本大学（または本学大学院）の授業科目として認定する場合は、次の事項を決定する。

- (1) 授業科目名
- (2) 授業科目の単位数
- (3) 授業科目の評価（必修科目、選択科目、専門科目等の区別）
- (4) 評価（学則上の評語）

第10条 外国の大学に留学する前後に履修した授業科目は、次のとおり取扱うものとする。

- (1) 前期集中、前期終了科目の前期末試験を受験した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。
- (2) 通年授業科目は前期に受講し、帰国後、同一担当者の同一科目名の授業科目を後期に履修した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。
- (3) 後期科目、後期集中科目は、後期授業開始以前に帰国している場合には履修できるものとする。

第11条 履修申告書は帰国後、教授会（または研究科委員会）の指示に基づき、所定の期間内に提出しなければならない。

第12条 外国の大学に留学することによって、学部の研究会・卒業研究の履修（または修士・博士学位論文の研究）が中断する場合の取扱いについては担当指導教員の指示によるものとする。

第13条 学部学生の外国の大学で取得した単位の認定による進級・卒業の取扱いは、次により取扱うものとする。

- (1) 外国の大学において取得した単位を認定し、進級に必要な単位数を取得した場合の進級の時期は、帰国後単位認定した時期の属する年度初めとする。
- (2) 外国の大学に留学中に、外国の大学の単位を取得しなかつ

た場合は原級に留めるものとする。

留学中に取得した単位を認定し、その結果、進級に必要な単位数を充足しなかった場合も同様とする。

- (3) 前項により、同一学年に2年間在学し、なお、進級しない場合の学部学則第156条の適用については、事情を考慮した上で決定するものとする。第5条ただし書きにより2年間の留学を認め、この2年間で進級に必要な単位を取得できなかった場合も同様とする。
- (4) 外国の大学で取得した単位の認定により卒業に必要な単位を充足できた場合の卒業の時期は、帰国した期日の属する年度末とする。

第14条 大学院学生が外国の大学で取得した単位を研究科委員会が認定することにより、課程修了に必要な単位が充足された場合、課程修了認定の時期は研究科委員会が決定する。

第15条 外国の大学に留学している学生が、次の各号の1つに該当するときは、学長は留学先大学長と協議のうえ、留学生としての許可を取消すときがある。

- (1) 留学先大学において、学習の実があげられないと認められたとき。
- (2) 学生としての本分に反する行為があると認められたとき。
- (3) 留学の趣旨に反する行為があると認められたとき。

第16条 留学期間中の学費は所定のとおりに納入しなければならない。ただし、事情を考慮して別に定める規定により減免することがある。

第17条 この規則の改廃は、各学部教授会（または各研究科委員会）に諮り大学評議会の審議を経て、学長が決定する。

付 則

第1条 この規則は昭和56年4月1日から施行する。

3-2 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のために在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は

進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

3-3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）
免除
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
 - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項
- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL (<http://www.keio.ac.jp/kojinjoho/kojinjoho-toriatukai>) でご覧頂くことができます。